Canon

For Windows

カラーラベルプリンタ対応
ラベル作成ソフトウェア
ラベルプロ-1

# ラベル Pro-1

# USER'S MANUAL

キヤノンファインテック株式会社

# 目次

## はじめに


ラベル Pro-1 について ・・・・・ 2
必要な機器構成 ・・・・・ 3
本マニュアルについて ・・・・・ 4
表記について ・・・・・ 5
サポートセンターへのお問い合わせ ・・・・・ 6


## 第１章 セットアップ


ラベル Pro-1 をインストールする ・・・・・ 8
ラベル Pro-1 を起動する ・・・・・ 12
ラベル Pro-1 をアンインストールする ・・・・・ 13


## 第２章 画面構成と各部の名称


画面構成と各部の名称 ・・・・・ 16
1. 画面構成 ・・・・・ 16
2. メニューツールバー ・・・・・ 18
3. オブジェクトメニュー・ツールバー ・・・・・ 19
4. ポップアップメニュー ・・・・・ 19


## 第３章 入門編


レッスン１　警告ラベルを作ってみよう!
1. Windows を起動しましょう ・・・・・ 22
2. 「ラベル Pro-1」を起動しましょう ・・・・・ 22
3. 用紙の設定をしましょう ・・・・・ 23
4. ガイドバーを引きましょう ・・・・・ 24
5. 罫線をひきましょう ・・・・・ 25
6. 四角を描きましょう ・・・・・ 26
7. 文字を入力しましょう ・・・・・ 28
8. 警告・感電の画像を貼り付けましょう ・・・・・ 33
9. 印刷しましょう ・・・・・ 36
レッスン２　品質表示ラベルを作ってみよう！
1. Windows を起動し、「ラベル Pro-1」を起動しましょう ・・・・・ 38
2. 新規作成を選択しましょう ・・・・・ 38
3. 用紙の設定をしましょう ・・・・・ 39
4. ラベル柄を選びましょう ・・・・・ 40
5. ガイドバーを引きましょう ・・・・・ 41
6. 罫線を引きましょう ・・・・・ 45
7. 文字を入力しましょう ・・・・・ 49
8. 画像を貼り付けましょう ・・・・・ 52
9. 差込するデータを用意しましょう ・・・・・ 53
10. 差込文字を設定しましょう ・・・・・ 54
11. 差込カラーを指定しましょう ・・・・・ 62
12. バーコードを差込みましょう ・・・・・ 64
13. 差込画像を設定しましょう ・・・・・ 66

14. シート表示で印刷イメージを確認しましょう …… 67
15. 印刷しましょう …… 68
レッスン３　ラベルライブラリを使ってみよう！
1. データベースを作成しましょう …… 70
2. ラベルを作成して登録しましょう …… 71
3. 配置データベースを指定しましょう …… 77

## 第４章 機能編

オブジェクトの入力と編集 …… 80
オブジェクト入力の基本操作 …… 80
文字オブジェクト　新規作成 …… 81
「文字設定」ページ …… 81
「文字余白／丸み」ページ …… 87
「塗り込み／枠線」ページ …… 88
「文字再編集」ページ …… 90
「位置／サイズ」ページ …… 90
四角オブジェクト　新規作成 …… 92
「塗り込み／枠線」ページ …… 92
「丸み」ページ …… 94
「位置／サイズ」ページ …… 95
楕円オブジェクト　新規作成 …… 96
「塗り込み／枠線」ページ …… 96
「位置／サイズ」ページ …… 99
線オブジェクト　新規作成 …… 100
「線種／矢印」ページ …… 100
「始点／終点」ページ …… 102
画像オブジェクト　新規作成 …… 103
「画像設定」ページ …… 104
「位置／サイズ」ページ …… 105
OLE オブジェクト　新規作成 …… 107
「OLE 設定」ページ …… 108
「位置／サイズ」ページ …… 109
ナンバリングオブジェクト　新規作成 …… 111
「ナンバリング」ページ …… 115
「文字設定」ページ …… 116
「文字余白／丸み」ページ …… 116
「塗り込み／枠線」ページ …… 117
「位置／サイズ」ページ …… 117
差込文字　新規作成 …… 118
「差込」ページ …… 119
「文字設定」ページ …… 119
「文字余白／丸み」ページ …… 120
「塗り込み／枠線」ページ …… 120
「位置／サイズ」ページ …… 121
「その他の項目」ページ …… 121
バーコード　新規作成 …… 122
「バーコード（バー）」ページ …… 122
「バーコード（コード文字）」ページ …… 126
「バーコード（色／枠／回転／他）」ページ …… 127
「ナンバリング」ページ …… 129

「位置／サイズ」ページ …… 130
「その他の項目」ページ …… 130
差込バーコード　新規作成 …… 131
「バーコード」ページ …… 131
「差込」ページ …… 132
「位置／サイズ」ページ …… 132
「その他の項目」ページ …… 132
差込画像　新規作成 …… 133
「差込画像」ページ …… 133
「位置／サイズ」ページ …… 134
「その他の項目」ページ …… 134
オブジェクト関連の機能 …… 135
ファイル機能 …… 136
ラベルライブラリ …… 140
差込データベース …… 140
環境設定／終了 …… 141
用紙新規作成 …… 142
標準設計（一枚形式） …… 143
自由設計（自由ラベル） …… 145
面付設計（繰り返しラベル） …… 147
ページ数、ラベル数、繰り返し …… 149
ラベルライブラリの操作 …… 151
分類フォルダリストでの操作 …… 151
ラベルリストでの操作 …… 153
差込データベースの設定 …… 158
差込データベースの選択 …… 158
差込データベースの設定 …… 161
差込項目のマクロ操作 …… 168
マクロ編集 …… 169
編集機能 …… 174
レイアウトに便利な機能（表示） …… 177
文字書式設定機能 …… 181
その他の機能 …… 182
バーコードの仕様 …… 184

## 第５章 制限事項・注意事項

制限事項と注意事項 …… 192
1. 制限事項 …… 192
2. 注意事項 …… 194

## 付録

付録 A　Windows の操作 …… 付録 A 2
付録 B　Microsoft ACCESS を利用した SQL の作成 …… 付録 B 26
付録 C　マクロ作成（マクロ式） …… 付録 C 30
付録 D　画像ファイル一覧 …… 付録 D 33

# はじめに

ラベルPro-1について
必要な機器構成
本マニュアルについて
表記について
サポートセンターへのお問い合わせ

# ラベルPro-1について

このたびは、「ラベルPro-1」をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ラベルPro-1は、簡単に、美しく、スピーディーにラベルをデザインする、Canon カラーラベルプリンタ専用のソフトです。
本ソフトをご使用の前に本書をよくお読みいただき、正しいお取扱いをお願いいたします。

# 必要な機器構成

| | |
|---|---|
| コンピュータ<br>本　体 | 次のOSが正常に動作する機種<br>日本語Microsoft Windows 7/Vista/XP/2000/NT4.0/ME/98/95 |
| OS | 上記の機種で動作が保証されているWindows |
| 必要最低メモリ | お使いのOSが推奨されるメモリ |
| 対応プリンタ | キヤノンカラーラベルプリンタ |
| ディスプレイ | 上記の種類で使用可能な解像度800 X 600ドット以上、<br>256色以上が表示可能なカラーディスプレイ<br>（ハイカラー以上を推奨） |
| 日本語入力<br>システム | 上記のWindowsで動作保証されている日本語入力システム<br>（MS-IME、ATOK） |
| ハードディスク | 本製品のインストールに必要な空き容量のあるハード<br>ディスク（約200MB画像インストール時） |
| マウス | 上記機種および、上記のWindowsで動作が保証されている<br>マウス |

●本書では、Microsoft Windows 7/Vista/XP/2000/NT4.0/ME/98/95
をWindowsと表記しています。

# 本マニュアルについて

●本書は、「ラベルPro-1」の使用方法について説明しています。
●Windowsに関する最低限の操作（マウスの操作方法など）や用語（クリック、ドラッグ）を習得されている方を対象に説明しています。
●Windowsに関する説明は本書では省略しています。Windowsに関する操作は、それぞれのマニュアルでご確認ください。

本書では、次のような構成になっています。

| | |
|---|---|
| セットアップ編 | ラベルPro-1をパソコンで使えるようにする方法（インストール）とラベルPro-1をパソコンから削除する方法（アンインストール）について説明しています。<br>ご購入になって初めてお使いになるときは、必ずお読みください。 |
| 画面構成と各部の名称 | ラベルPro-1の画面構成と各ボタンの働きについて説明しています。各ボタンの働きや機能については「入門編（チュートリアル）」「機能編（リファレンス）」で詳しく説明しています。<br>画面の概要をつかんでおきたいときや、画面から各機能の説明を検索したいときなどにご活用ください。 |
| 入門編（チュートリアル） | パソコン初心者、またはラベルPro-1初心者の方を対象にした入門編です。レッスン形式で、ラベルができあがるまでを説明しています。初心者の方や操作に自信がない方は、まず「入門編」をご活用ください。 |
| 機能編（リファレンス） | ある程度操作を習得した方を対象にした機能手引きです。ソフトを使い慣れた方、または「入門編」を卒業した方は、「機能編」をご活用ください。 |

# 表記について

本マニュアルの表記ルールは次のとおりです。

●[　]で括ったものは、画面上のアイコンかボタンを意味しています。

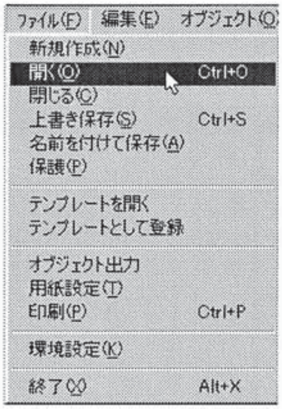
【例】 **表記** [文字]をクリックします。

**意味** [文字オブジェクト]アイコンにポイントをおき、マウスの左ボタンをクリックします。

●[ ]と[ ]を→でつないでいるときは、メニューを続いて選択していく状態を意味しています。

【例】 **表記** [ファイル]→[開く]とクリックします。

**意味** [ファイルメニュー]にポイントをおき、マウスの左ボタンをクリックします。表示されたメニュー(プルダウンメニュー)から引き続き[開く]にポイントをおき、マウスの左ボタンをクリックします。




本マニュアルは、マウスでの操作を中心に説明を進めています。
キーでの操作は、便利なキー操作のみを特記し、その他の説明(矢印キーでの操作など)は省略していますので、あらかじめご了承ください。

# サポートセンターへのお問い合わせ

**本製品の操作中に問題が生じた場合には、下記の要領でお客様相談センターまでご連絡ください。下記相談センターは当ソフトウエアの操作方法や発生した問題についてお応えする窓口です。**

## お問い合わせの前に以下の事項を確認してください。

1.ご使用になられているコンピュータ本体のメーカー名と機種名、OSの種類とバージョンおよびプリンタ機種名、接続インターフェイス、プリンタドライバのバージョン
2.具体的な現象や疑問点

| | |
|---|---|
| ご使用のコンピュータ本体のメーカー名と機種名、OSとバージョン | メーカー名 [ ] 機種名 [ ]<br>OS [ ] バージョン [ ] |
| ご使用のプリンタ名と接続インターフェイスとプリンタドライバのバージョン | プリンタ名 [ ] インターフェイス [ ]<br>プリンタドライバのバージョン [ ] |
| 具体的な現象 | |
| 具体的な問題点 | |
| お客様のお名前 | |
| お客様のご住所 | |
| お客様の郵便番号 | |
| お客様の電話番号 | |
| お客様のFAX番号 | |

## お問い合わせは次の方法でお願いします。

●お客様ご相談窓口
【お客様相談センター全国共通電話番号】050-555-90064
IP電話をご利用できない場合は、03-5428-1344
【受付時間】平日 9:00〜12:00 13:00〜17:00
土、日、祝祭日と年末年始、弊社休業日は休ませていただきます。
また受付時間は都合により変更する場合があります。ご了承ください。

# 1章

# セットアップ

ラベルPro-1をインストールする
ラベルPro-1を起動する
ラベルPro-1をアンインストールする

# ラベルPro-1をインストールする

お客様がお使いのパソコンのハードディスクにプログラムを複写し、「ラベルPro-1」が使えるようにする作業をインストールといいます。ここでは、インストールの方法と、アプリケーションの起動の方法、また、一度インストールしたアプリケーションを削除（アンインストール）する方法を説明します。

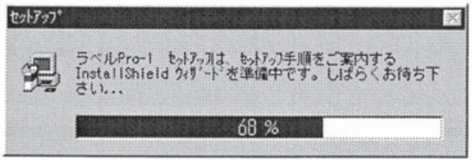
**注意**▶インストールを開始する前に、必ず次の事柄を確認してください。

- 「ラベル Pro-1」が動作するために必要なファイルはすべて圧縮された形でCD - ROM に収納されていますので、下記の手順にしたがって専用プログラム（インストーラー）を使用してインストール作業を行ってください。専用のプログラムを使用しないでインストールを行った場合、動作の保証はできませんので、あらかじめご了承ください。
- 標準でインストールする場合、インストール先のハードディスクに約200MB（メガバイト）の空き容量があるかどうか、あらかじめ確認してください。
- インストール作業中に他のアプリケーションが動作していると、正常にインストールされないことがあります。インストール作業をはじめる前に、必ず起動しているアプリケーションをすべて終了してください。

# インストールを開始しましょう。

**1** 「ラベルPro-1」のCD-ROMを、CD-ROMドライブにセットします。
Windowsのオートランが働きます。

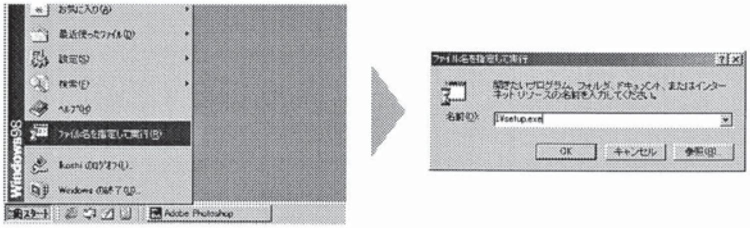
**2** 「ラベルPro-1」のセットアップを行うためのインジケーターが表示されます。




## オートラン機能が働かない場合は

CD-ROMを挿入しても上記の画面が表示されない場合は、お客様のパソコンでオートラン機能がOFFになっているか、オートラン機能に対応していない可能性があります。この場合、次の操作を行ってください。

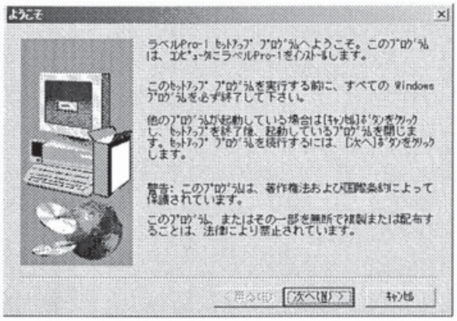
①Windowsの［スタート］をクリックします。
②「ファイル名を指定して実行」を選択します。



③?:¥SETUP.EXEと入力します。
?の部分はお客様のパソコンのCD-ROMドライブ（D、Eなど）を入力してください。
④［OK］をクリックします。

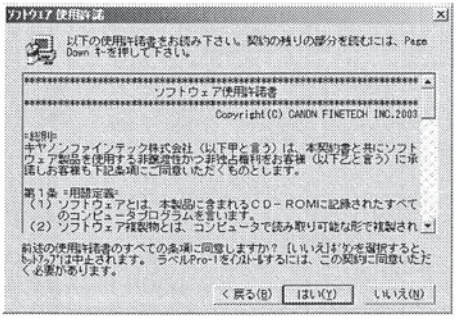
## 2 インストールを実行しましょう。

**1** ウィザードによって、インストールが開始されます。
[次へ]をクリックします。



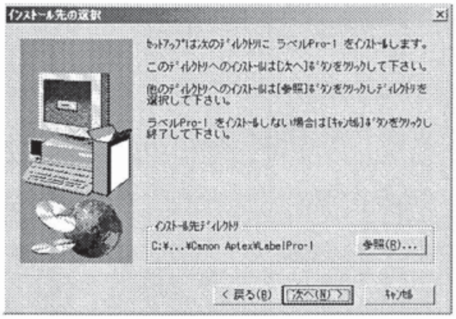

**2** ソフトウェア使用許諾書が表示されます。内容を読んだら、[はい]をクリックします。

[いいえ]をクリックすると、インストールは実行されません。




**3** インストール先を指定する画面が表示されます。
[次へ]をクリックします。

必要に応じて、インストール先ディレクトリを変更してください。→11ページ参照
インストール先ディレクトリを変更する必要がない場合は、手順4に進んでください。




**4** 必要なファイルのコピーが完了すると、次の画面が表示されます。
これで、インストールは完了です。

すぐに「ラベルPro-1」を起動したい場合は、「プログラムを起動する」をクリックし、[完了]をクリックします。「ラベルPro-1」が起動します。
あとで起動する場合は、そのまま[完了]をクリックします。

## インストール先ディレクトリを指定

### ●インストール先ディレクトリを指定する場合

手順**3**の画面で［変更］ボタンをクリックします。インストール先のドライブ、ディレクトリを指定し、［OK］ボタンをクリックします。

インストール先のドライブだけを変更しディレクトリはそのままにしたい場合は、「ドライブ」で変更しないで「パス」のドライブ（先頭の1文字）を目的のドライブに変更します。こうすれば、ディレクトリを入力しなおす必要がありません。

### ●インストール先を指定しないときは

特にインストール先を指定しないときは、Windowsのインストールされているハードディスクに次のフォルダが作成され、以下の場所にインストールされます。

Program Files¥Canon Aptex¥LabelPro-1

このフォルダの中には、次のフォルダが自動的に作成されます。

¥LabelPro-1¥BackImage･････････用紙柄ファイル
¥LabelPro-1¥MYIllust･･･････････ユーザーイラスト保存先
¥LabelPro-1¥MyLabel･･･････････ユーザーラベル保存先
¥LabelPro-1¥Eye･･････････････アイキャッチ
¥LabelPro-1¥LABELDB･･････････ラベルデータベースファイル
¥LabelPro-1¥Temp･････････････テンプレートファイル
¥LabelPro-1¥Mark･････････････マークファイル
¥LabelPro-1¥YUBIN････････････郵便ファイル
¥LabelPro-1¥チュートリアル･･･････サンプルデータファイル

Windows Vistaをご使用の場合、インストール時に作成された上記フォルダのうち、YUBINフォルダを除く全てのフォルダと、フォルダ内に保存されているファイルは、プログラムが最初に起動された時に、各ユーザーアカウント毎に自動的に以下の場所にコピーされます。

C:¥users¥ユーザーアカウント名¥Documents¥LabelPro-1

# ラベルPro-1を起動する

インストールが終了したら、「ラベルPro-1」を起動しましょう。ここでは、ウィンドウズの［スタートメニュー］から起動する方法を説明します。

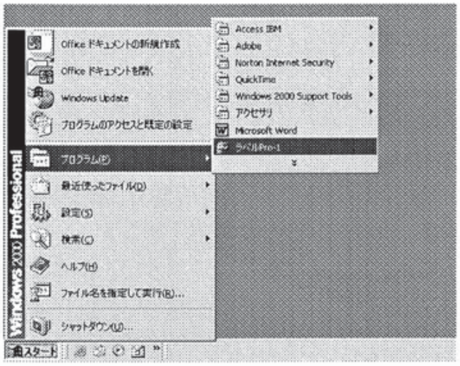
## 1 「ラベル Pro-1」を起動させましょう。

**1** ［スタート］をクリックします。

**2** ［プログラム］をポイントします。

**3** ［ラベルPro-1］をポイントします。

**4** ［ラベルPro-1］をクリックします。




**5** ［ラベルPro-1］の初期画面が表示されます。

この画面が表示されれば、正しくインストールされています。

エラーメッセージが表示される場合には、そのエラーの内容をメモして、ユーザーサポートセンターまでご連絡ください。

# ラベルPro-1をアンインストールする

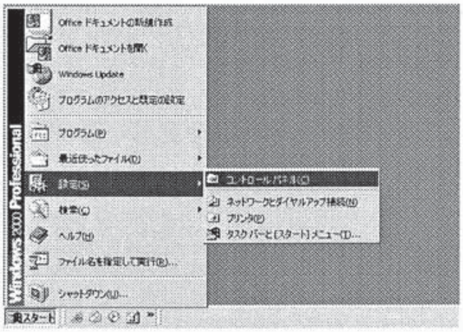
「ラベルPro-1」をハードディスクから削除したい場合には、「ラベルPro-1」付属のアンインストーラーを使用してください。このアンインストーラーを使用しないで、インストール先のディレクトリを削除すると、ファイルはすべて削除されますが、他のさまざまな情報がパソコンに残ってしまいます。必ず、付属のアンインストーラーを使用してください。

## 1 アンインストールを実行しましょう。

**1** [スタート]をクリックします。

**2** [設定]をポイントします。

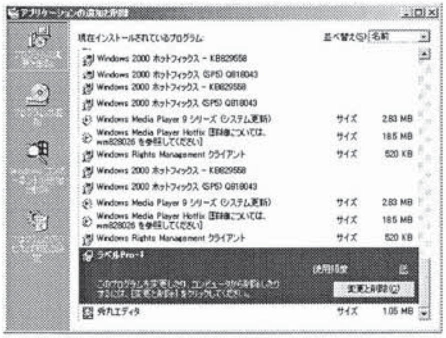
**3** [コントロールパネル]をポイントします。



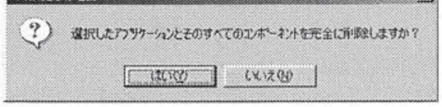

**4** [アプリケーションの追加と削除]をクリックします。

**5** [インストールと削除]内から[ラベルPro-1]を選択します。

**6** [変更と削除]ボタンをクリックします。




**7** [OK]を選択します。
セットアップによりインストールされたすべてのファイルや情報が完全に削除されます。




「ラベルPro-1」で保存したファイル、テンプレート、ユーザー登録した画像ファイルなど、お客様が作成したデータファイルは削除されません。

# 2 章

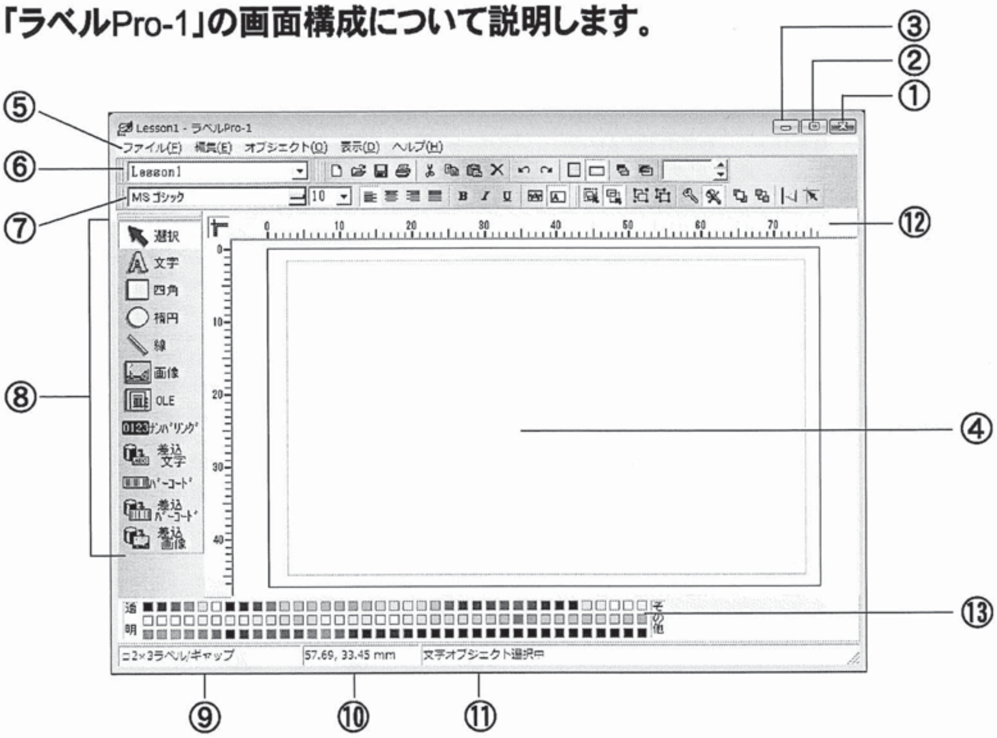
# 画面構成と各部の名称

画面構成と各部の名称
画面構成
メニューツールバー
オブジェクトメニュー・ツールバー
ポップアップメニュー

# 画面構成と各部の名称

## 1 画面構成

**「ラベルPro-1」の画面構成について説明します。**




**①終了**
クリックすると、「ラベルPro-1」が終了します。

**②最大化／元のサイズに戻す**
ウィンドウのサイズを変更します。

**③最小化**
ウィンドウが小さくなり、タスクバーにアイコン表示されます。ウィンドウを復元したいときは、タスクバーのアイコンをクリックします。

**④デザイン画面**
デザインを確認しながら、実際の作業を行うウィンドウ画面です。このウィンドウ画面には、複数のデザインファイルを表示させることができます。

**⑤メニューバー**
「ラベルPro-1」の操作を選択します。それぞれの文字にカーソルを合わせてクリックすると、サブメニューがプルダウン表示されます。

**⑥基本メニューツールバー**
頻繁に使用するメニューコマンドが集められボタンとして表示されています。

**⑦拡張メニューツールバー**
機能をより高度に使うためのメニューコマンドが集められボタンとして表示しています。

**⑧オブジェクトメニュー・ツールバー**
主にオブジェクトを生成するコマンドが集められています。

**⑨選択用紙情報エリア**
現在編集中の用紙の種類が表示されます。

**⑩マウス情報エリア**
現在のマウスの位置が数値で表示されます。

**⑪選択オブジェクト情報エリア**
現在選ばれているオブジェクトの種類を表示します。

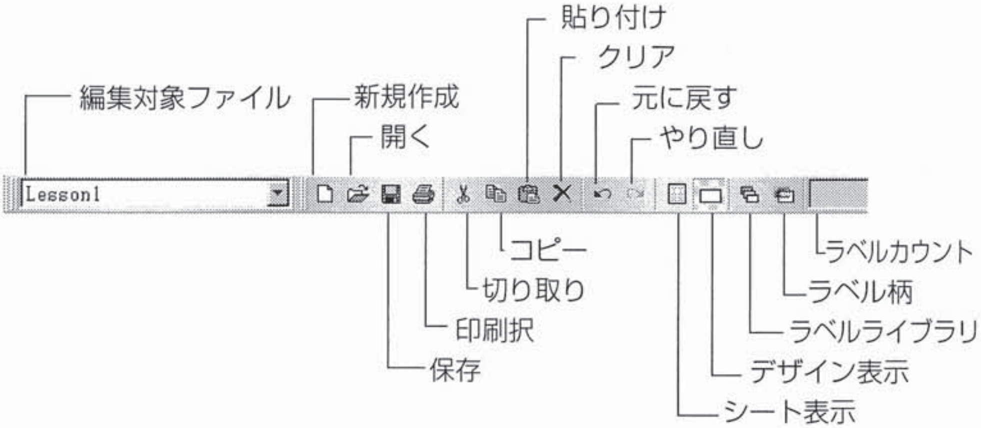
**⑫ルーラー**
選択用紙に対する目盛りがミリメートルで表示されます。ルーラーには、マウスの現在位置が表示されます。

**⑬カラーパレット**
最も使用頻度の高い色を標準色として画面上にピックアップしてあります。オブジェクトの色を設定するために使います。

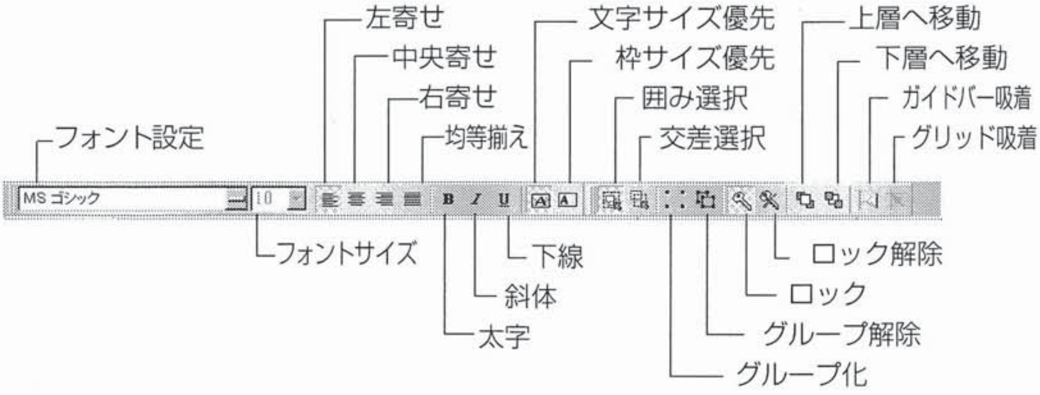
## 2 メニューツールバー

頻繁に使用する機能が集められています。

【基本ツールバー】

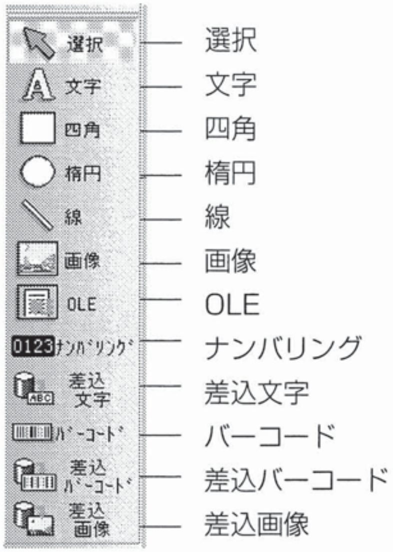



【拡張ツールバー】



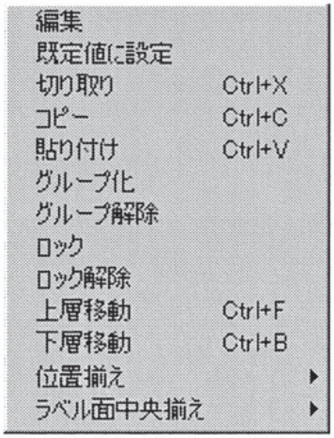
## 3 オブジェクトメニュー・ツールバー

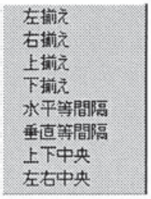
主に、オブジェクトを作成するための機能が集められています。




## 4 ポップアップメニュー

既にあるオブジェクトの上でマウスの右ボタンをクリックすると、次のポップメニューが表示されます。ツールバーで行える機能とほぼ同等の操作が行えるようになっています。





3
章

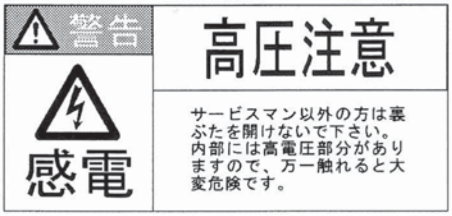
# 入門編

レッスン1　警告ラベルを作ってみよう!
レッスン2　品質表示ラベルを作ってみよう!
レッスン3　ラベルライブラリを使ってみよう!

# Lesson1 警告ラベルを作ってみよう!

「ラベルPro-1」のインストールは終了しましたか？　それでは、さっそくラベルを作ってみましょう。まずは、もっともオーソドックスなラベルを作成し、基本的な使い方を習得しましょう。実際の業務にすぐに応用できる機能ですので、ウォーミングアップもかねて一緒に練習してみましょう。

レッスン1で作成するのは、警告ラベルです。警告ラベルはPL法制定以来、メーカーにとって大変重要なものとなっています。「ラベルPro-1」では、数多くのPLマークを含む警告マークや、注意マークを画像ファイルとして添付しています。ここで作成するのは、右のようなラベルです。




## 1 Windowsを起動しましょう。

## 2 「ラベルPro-1」を起動しましょう。

**1** [スタート]ボタンをクリックします。

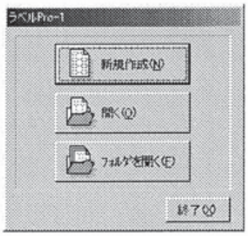
**2** [プログラム]をポイントします。

**3** [ラベルPro-1]をクリックします。

[ラベルPro-1]ダイアログボックスが表示されます。

**4** 「新規作成」を選択しましょう。

新しいラベルを作成するために、処理を選択するウィンドウでは「新規作成」を選択します。すでに作成されているラベルを印刷したり編集したりするときは、「開く」を選択します。

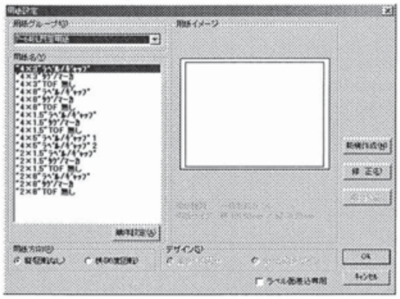


## 3 用紙の設定をしましょう。

[用紙設定]画面が表示されたことを確認してください。この画面では、「用紙グループ、用紙名、用紙方向」などを設定します。用紙グループが「P-640L既定用紙」であることを確認し、既定の4インチ×3インチの用紙を選択します。

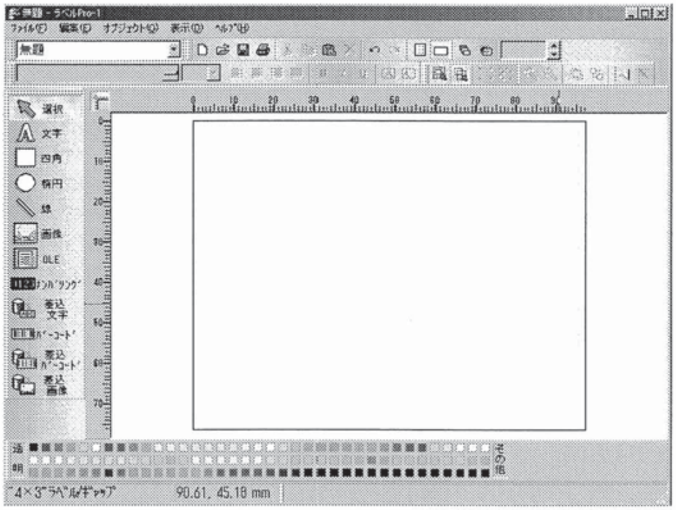
既定の用紙に利用したいサイズがない場合は、新規に用紙を作成します。→138ページ参照

**1** "4×3"ラベル／ギャップをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。



次のような「デザイン画面」が表示されたことを確認してください。

先ほどの[用紙画面]に戻るには、[ファイル]メニュー→[用紙設定]をクリックしてください。



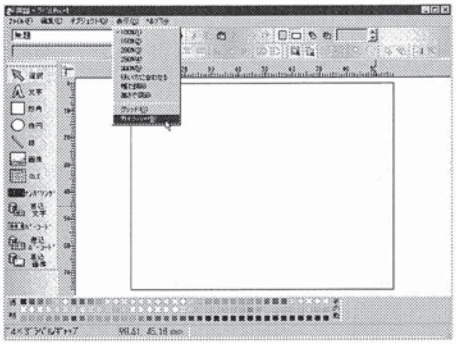
この画面で、ラベルをデザインしていきます。
デザイン画面では、ラベルの文字データを入力したり、デザインを作成したりします。すべてのラベルは、このデザイン画面を利用して作成していきます。

## 4 ガイドバーを引きましょう。

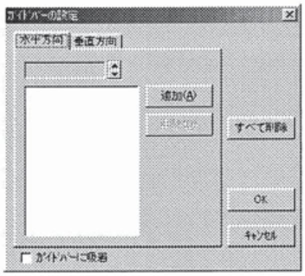
最初にデザイン画面を表示したときには、画面はまだ白紙の状態です。ここにガイドバーを引き、デザインをしやすくしておきましょう。ガイドバーは、デザインをするための基準線です。ガイドバーを使用すると、いろいろなオブジェクトをきれいに並べることが簡単にできるようになります。

**1** [表示]メニューをクリックします。

**2** 表示されたメニューの[ガイドバー]をクリックします。
[ガイドバーの設定]画面が表示されます。

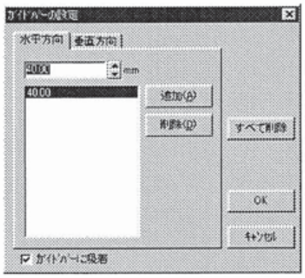


**3** [水平方向]ページが表示されていることを確認してください。[追加]ボタンをクリックします。
ここでは、水平方向のガイドバーは、ラベル面の左から40mmの位置に1本設定します。

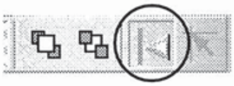



**4** キーボードから「40」と入力します。

**5** ここでもう一度[追加]ボタンをクリックします。
入力した値がリストに「40.00」と追加され、ガイドバーとして設定されました。



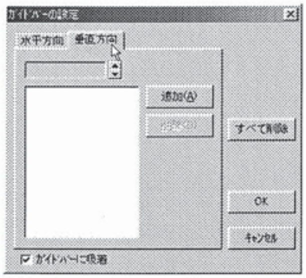

**6** [ガイドバーに吸着]をクリックしてチェック状態にします。
配置したオブジェクトがガイドバーに吸い付くように配置され、ずれたり曲がったりすることがなくなります。



それでは同様に垂直方向のガイドバーも設定しましょう。
垂直方向のガイドバーは20mmの位置の1本です。

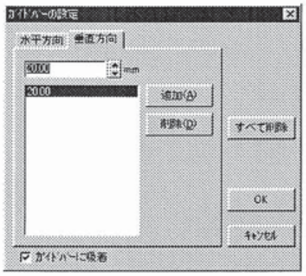
**7** [ガイドバーの設定]画面の[垂直方向]ページをクリックします。
垂直方向の設定ページが前面に表示されます。後の操作は、水平方向の設定と同じです。

**8** [追加]ボタンをクリックします。



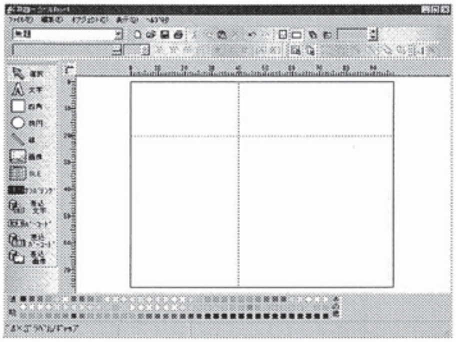
**9** キーボードから「20」と入力します。

**10** [追加]ボタンをクリックします。
入力した値がリストに「20.00」と追加され、ガイドバーとして設定されました。



**11** [OK]ボタンをクリックします。
デザイン画面に戻ります。ラベル面にガイドバーが表示されています。

ガイドバーの詳細は→179ページ参照

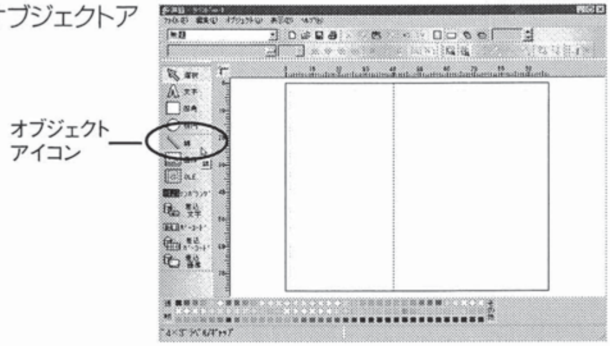




## 5 罫線を引きましょう。

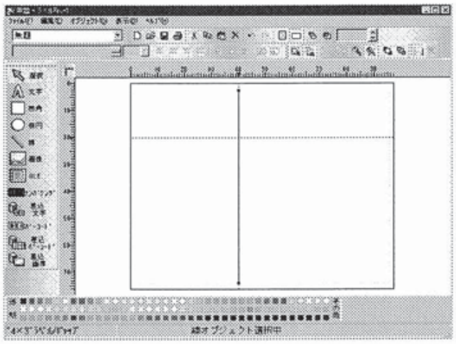
ガイドバーが表示されましたら、線オブジェクトを使用して罫線を引きましょう。ラベルに線を引くには、マウスで線の始点と終点を指定します。設定された線は、「ラベルPro-1」では、線オブジェクトと呼びます。
それではしきりにする縦線を1本、設定しましょう。

**1** オブジェクトバーの[線]オブジェクトアイコンをクリックします。




**2** デザイン画面の上でマウスの左ボタンを押し、ボタンを押したままマウスを移動させ、終点の位置で離します。

線オブジェクトの詳細は→100ページ参照



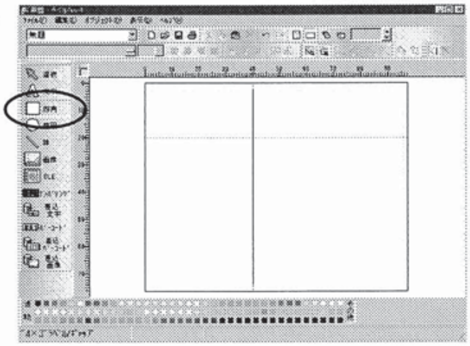
## 6 四角を描きましょう。

線が引けましたら、次は文字の背景に四角形を描きます。これにより、文字を目立たせることができます。

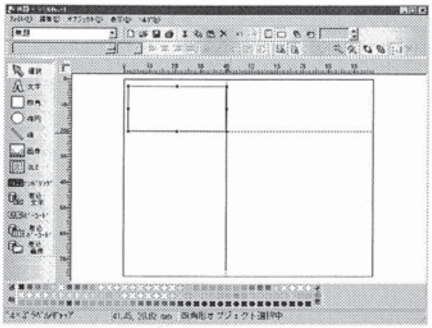
四角形の入力は、マウスで対角線上に始点と終点を指定します。設定された四角形は、「ラベルPro-1」では、四角オブジェクトと呼びます。

ここで設定する四角オブジェクトは、「警告」と「高圧注意」の下になる部分の2つです。それぞれ異なる大きさと色にします。

**1** オブジェクトバーの[四角]オブジェクトアイコンをクリックします。



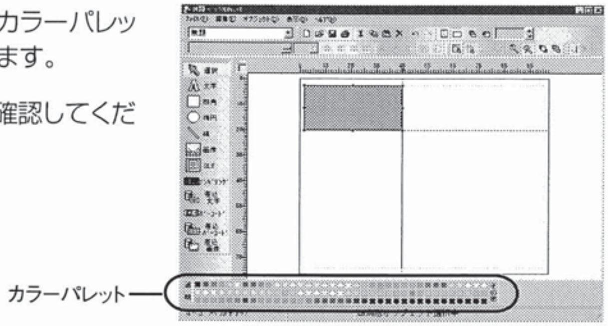
2 デザイン画面の上でマウスの左ボタンを押しながら任意の四角形を描きます。
始点でクリック→終点までドラッグ→終点でボタンから手を離します。



3 マウスの左ボタンを離します。
四角形の領域が表示されます。
右端と下の部分はガイドバーに吸着され、ちょうどよいサイズになります。

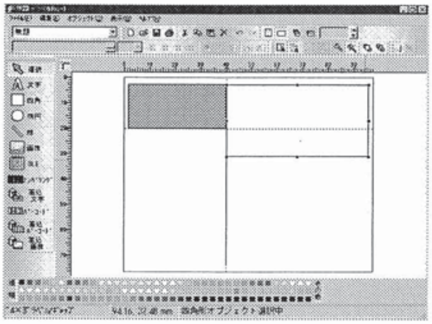
4 デザイン画面の下にあるカラーパレットから[赤色]をクリックします。

5 四角が赤くなったことを確認してください。




6 もうひとつの四角も描きましょう。再度オブジェクトバーの[四角]オブジェクトアイコンをクリックします。

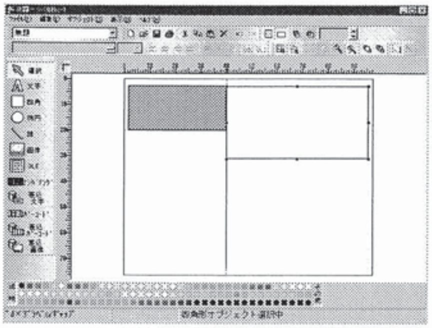
7 図のようにデザイン画面の上で四角形を描きます。



8 デザイン画面の下にあるカラーパレットから[黄色]をクリックします。

9 四角形が黄色になりました。

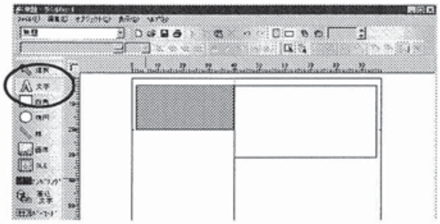
四角オブジェクトをダブルクリックすると、[四角形設定]画面が表示されます。この[四角形設定]画面では、色の設定の他にも枠線の太さや角の丸みなどを細かく設定することができます。
→92ページ参照



# 7 文字を入力しましょう。

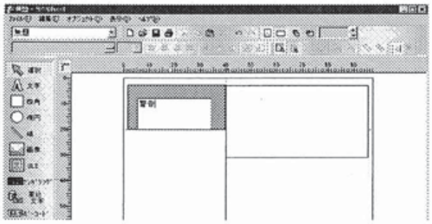
四角が描けましたら、文字オブジェクトを使用して必要な部分に文字を配置します。文字入力は、文字の領域を四角形同様に、マウスで指定します。指定したオブジェクト範囲(点線枠)が文字を配置する領域となります。
文字を複数の場所に設定するときは、オブジェクト領域をひとつひとつ作成し、その中に文字を入力していきます。ひとつひとつの領域はそれぞれ独立し、領域ごとに文字を編集したりデザインすることができます。
このように文字を入力する領域を、「ラベルPro-1」では、文字オブジェクトと呼びます。ここで設定する文字オブジェクトは、「警告」、「感電」、「高圧注意」そして注意書きの4つです。それぞれ異なる大きさの文字にします。

## 「警告」の文字入力



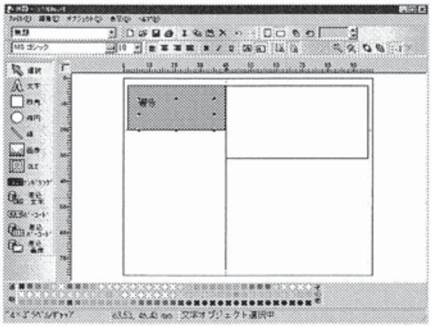
**1** まず「警告」を入力しましょう。
オブジェクトバーの[文字]オブジェクトアイコンをクリックします。

**2** デザイン画面の上でマウスの左ボタンを押しながら任意の四角形を描きます。
始点でクリック→終点までドラッグ→終点でボタンから手を離します。



**3** マウスの左ボタンを離します。
文字を入力するための領域が表示され、カーソルが表示されます。

この領域の大きさや位置は、あとで修正することができます。ここでは、おおまかな指定でかまいません。

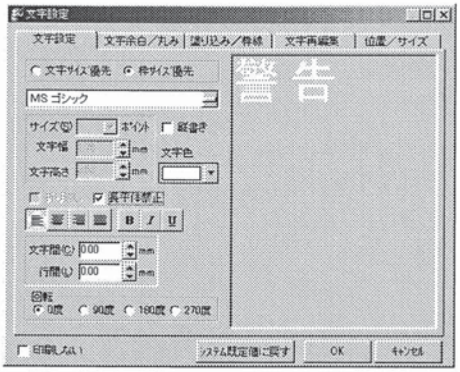


**4** 「警告」と入力します。

**5** 文字を入力できる枠以外のところでマウスをクリックします。入力した文字が表示されます。

このままでは文字が小さいので、大きさを変更します。

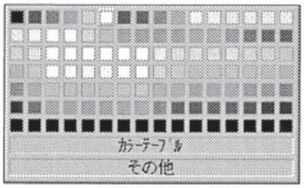
**6** 「警告」文字オブジェクトをダブルクリックします。
[文字設定]画面の[文字設定]ページが表示されます。




文字設定の詳細は→81ページ参照

**7** 文字を[枠サイズ優先]にします。

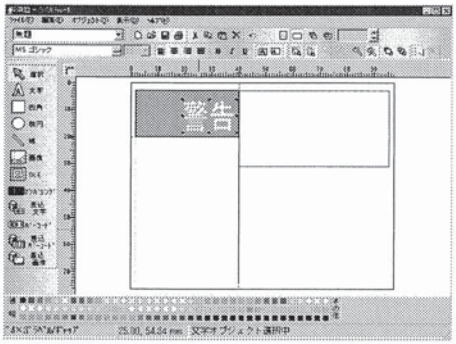
**8** [文字色]をクリックします。カラーパレットが表示されますので、[白]色をクリックします。




**9** [長平体禁止]をクリックしてチェックします。

枠サイズ優先にすると、枠に合うように文字の大きさが自動調整されますが、場合によっては文字が縦長や横長になりすぎることがあります。このようなときでも、長平体禁止に設定すると必要以上に文字が変形しなくなり、バランスのよい形を保つことができます。

**10** [OK]ボタンをクリックします。




デザイン画面に戻り、「警告」という文字が適度な大きさになりました。

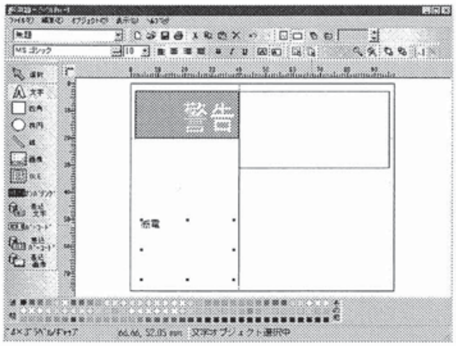
もしも大きさや位置が悪い場合は、文字オブジェクトの枠に表示されている小さな黒い四角にマウスを合わせてドラッグすると、調整することができます。この小さな四角を「オブジェクト選択点」と呼びます。
オブジェクト選択点を使って微調整するときに、オブジェクトがグリッドのそばにあるときは、先ほどのグリッド吸着を解除しておく方が操作がやりやすくなります。

**11** [ガイドバー吸着]設定を解除します。
デザイン画面の[ガイドバー吸着]ボタンをクリックすると、吸着の設定をワンタッチで解除できます。

## 「感電」の入力

それでは同様の手順で「感電」を入力しましょう。

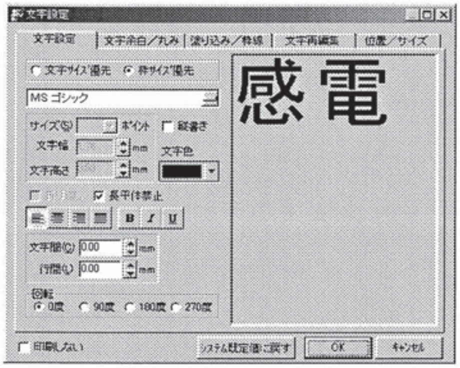
**1** 先ほどの手順**1**から**5**を繰り返して「感電」を入力しましょう。入力する位置は、右図のようにします。




**2** 文字の大きさを調整しましょう。「感電」文字オブジェクトをダブルクリックします。
[文字設定]画面の[文字設定]ページが表示されます。

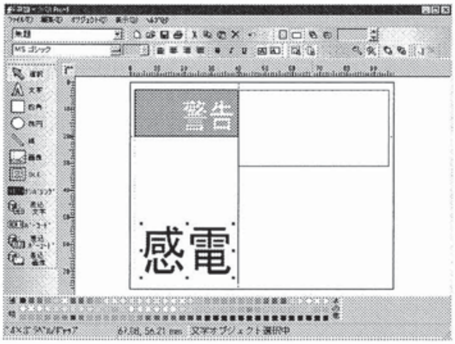
**3** 文字を[枠サイズ優先]にします。

**4** [長平体禁止]をクリックしてチェックします。




**5** [OK]ボタンをクリックします。
デザイン画面に戻ります。

右図のような大きさの文字を描いて下さい。

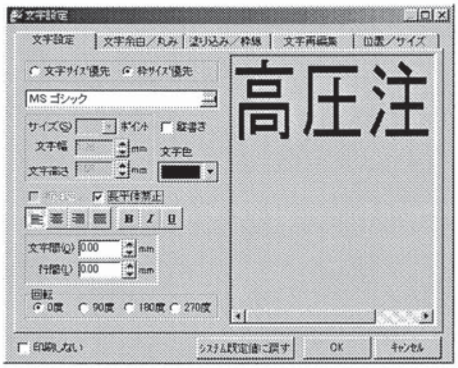


## 「高圧注意」の入力

次は「高圧注意」です。もう手順はわかりましたか？

1. 図の位置に文字オブジェクトを使って「高圧注意」を入力しましょう。

2. 文字の大きさを調整しましょう。入力した文字オブジェクトをダブルクリックします。[文字設定]画面の[文字設定]ページが表示されます。




3. 文字を[枠サイズ優先]にします。
4. [長平体禁止]をクリックしてチェックします。
5. [OK]ボタンをクリックします。デザイン画面に戻ります。

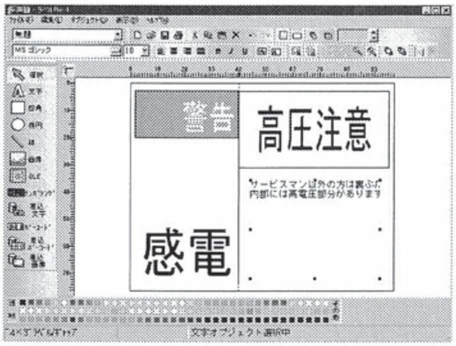
次は注意書きです。

## 注意書きの入力

最後に注意書きを入力しましょう。複数行にわたるような文章も、文字オブジェクトで同様に設定する事ができます。

1. 右図の位置に文字オブジェクトを使って注意書きの領域を設定しましょう。文字を入力するための枠が表示され、カーソルが表示されます。

**2** 文字を入力します。入力する文字例は次のようにします。




**入力例**

**サービスマン以外の方は裏ぶたを開けないでください。**
**内部には高電圧部分がありますので万一触れると大変危険です。**

任意の位置の改行は、改行[Enter]キーで設定することができます。

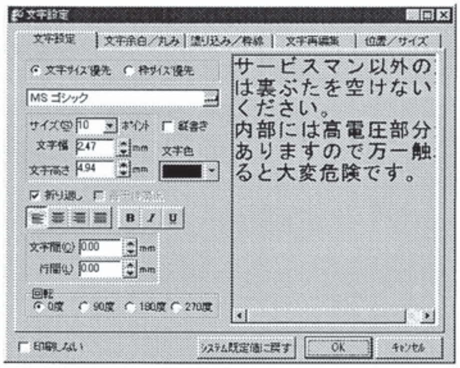
**3** 文字を入力できる枠以外のところでマウスをクリックします。文字オブジェクトがデザイン画面上で確定します。

このままでは入力した文字がはみ出ていますので、文字のサイズと配置を変更します。

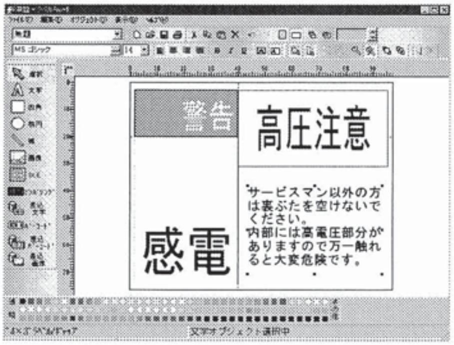
**4** 文字オブジェクトをダブルクリックします。[文字設定]画面の[文字設定]ページが表示されます。

**5** [サイズ]を「10」に設定します。

**6** [折り返し]チェックボックスをチェックします。




**7** [OK]ボタンをクリックします。
デザイン画面に戻ります。
文字が指定した範囲で折り返され、正しく表示されます。



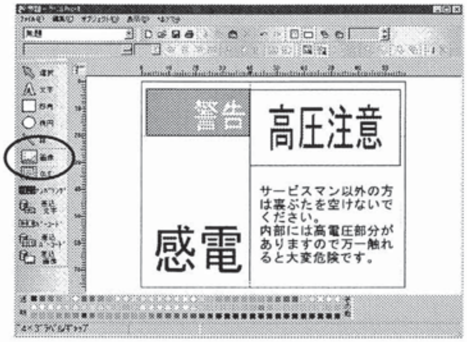

これですべての文字が入力できました。

## 8 警告・感電の画像を貼り付けましょう。

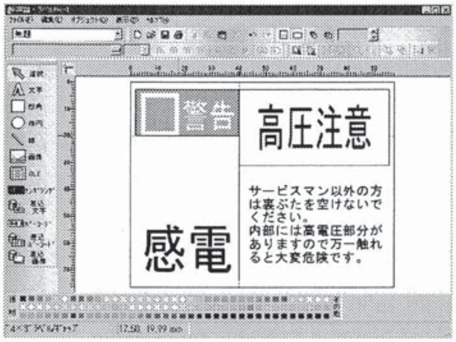
文字が入力できましたら、「警告」の左と、「感電」の上にそれぞれ用意されているマークを貼り付けます。
マークの貼り付けは画像オブジェクトで行います。

### 警告マークの貼り付け

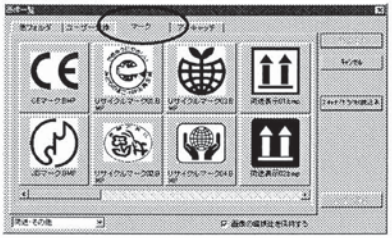
**1** オブジェクトバーの[画像]オブジェクトアイコンを選択します。



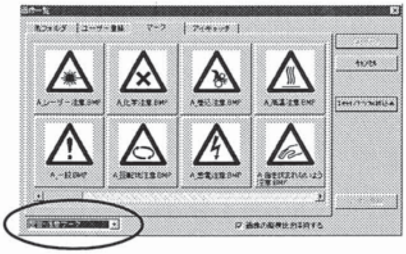

**2** 画像を貼り付ける位置は「警告」の左部分です。貼り付ける範囲を矩形で指定しましょう。右図のように、始点と終点を設定します。



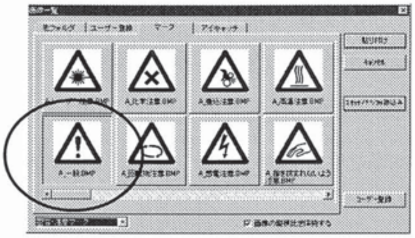

**3** [画像一覧]画面が表示されます。[マーク]をクリックします。



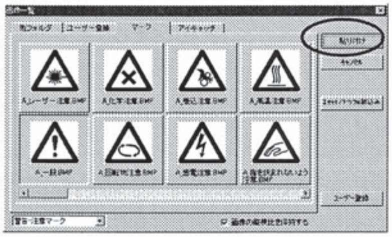
**4** 種類を[警告·注意マーク]に変更します。



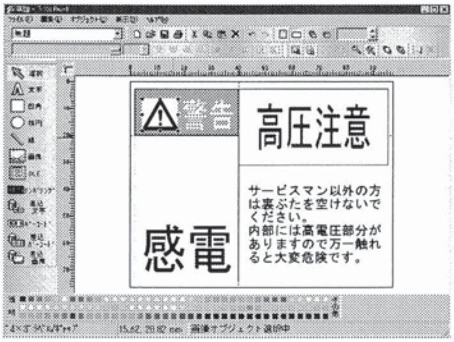
**5** 警告マークの一覧から「A_一般..BMP」をクリックします。



**6** [貼り付け]ボタンをクリックします。

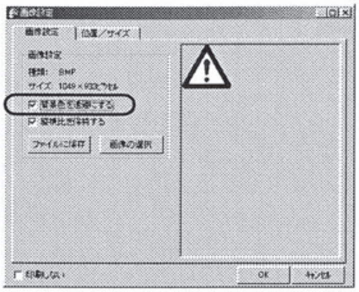


**7** デザイン画面に戻ります。
マークが表示されました。




次は、マークの背景が白く抜けているので、透明にしましょう。

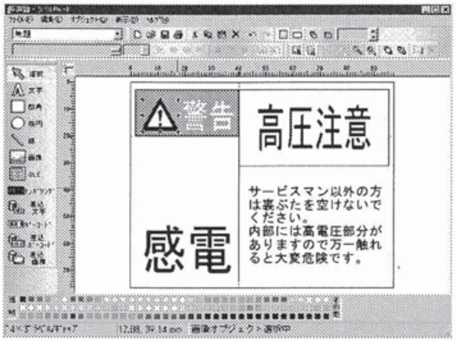
**8** マークの「画像」オブジェクトをダブルクリックします。
[画像設定]画面の[画像設定]ページが表示されます。



**9** [背景色を透過にする]チェックボックスをチェックします。

[縦横比を保持する]もチェックしておくと、マークが変形しないように、画像の縦横比を固定して貼り付けることができます。

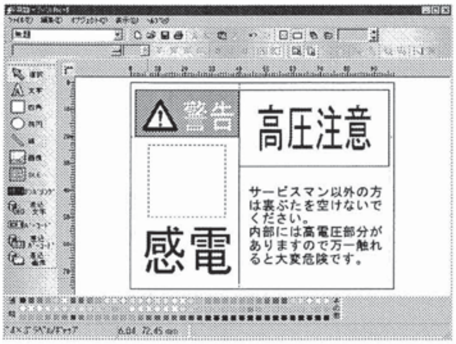
**10** [OK]ボタンをクリックします。
デザイン画面に戻ると、マークが透過されて表示されています。




## 感電マークの貼り付け

同様に、感電の上にも画像を貼り付けましょう。

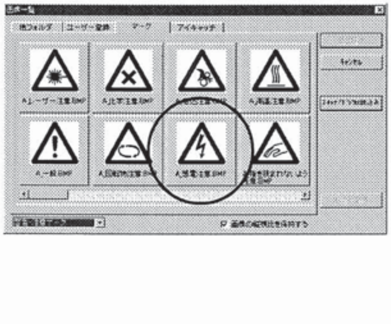
**1** 先ほどの手順で「感電」の上に画像を貼り付ける位置を指定します。




**2** [画像一覧]画面の「マーク」をクリックします。「警告・注意マーク」を選択し、表示します。

**3** 警告マークの一覧から「A_感電注意.BMP」をクリックします。

**4** [貼り付け]ボタンをクリックします。



**5** デザイン画面に戻ります。
ふたつのマークが設定されました。

画像の詳細は→103ページ参照

## 9 印刷しましょう。

ここまででレッスン1の警告ラベルのデザインは完了です。
最後に保存を行い、印刷しましょう。

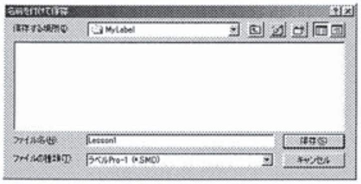
### データの保存

最初にデータの保存を行います。

**1** [ファイル]メニューをクリックします。

**2** 表示されたメニューから[名前を付けて保存]をクリックします。

**3** [名前を付けて保存]画面が表示されます。
「Lesson1」と名前を入力し、[保存]ボタンをクリックします。
デザイン画面に戻ります。




これでデータが保存されました。

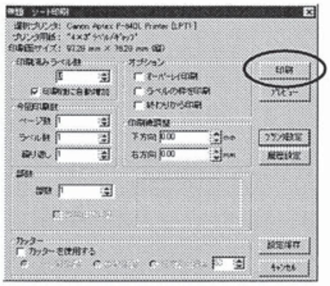
名前を付けて保存の詳細は→137ページ参照

## ラベルの印刷

それでは、印刷してみましょう。

**1** [ファイル]メニューをクリックします。

**2** 表示されたメニューから[印刷]をクリックします。
[シート印刷]画面が表示されます。




プリンタの電源が入っていること、正しく用紙がセットされていることを確認します。

ページ数を指定すると任意のページ数で、ラベル数を指定すると任意の数のラベルを印刷することができます。

**3** [印刷]ボタンをクリックします。

印刷の詳細は→139ページ参照

ラベルが無事印刷されましたか？
以上でレッスン1はすべて終了です。次のレッスン2では、データベースを利用した差込ラベルの作成に挑戦してみましょう。

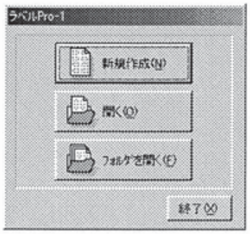
# Lesson2 品質表示ラベルを作ってみよう!

レッスン2では、「品質表示ラベル」を作ってみましょう。
品質表示ラベルとは、商品に貼る品質が印刷されたラベルや、納品するときに外箱に貼るラベルです。品質表示ラベルは、商品内容について説明するためのものですから、商品の種類ごとにラベルを用意する必要があります。ほんの数種類の商品や部品を取り扱うのであれば、ひとつ雛形となるラベルをデザインして保存しておき、必要なときにその雛形ラベルの商品名や部品名などを変更、修正し、印刷することでも十分でしょう。しかし、大量の商品や部品を取り扱う場合、ひとつひとつ手作業で変更していたのでは大変です。
「ラベルPro-1」では、印刷したいデータをMicrosoft Excelのワークシートや Microsoft Accessのデータベースと連携させる機能があります。そうすることで、ワークシートやデータベースの内容に沿って、複数の商品データのラベルを自動的に印刷できるようになります。
この章では、Microsoft Accessと連携させて自動的に数種類のラベルを印刷する方法を、順を追って説明していきます。実際の業務にすぐに応用できる機能ですので、ぜひ作成しましょう。
ここで作成するのは、次のようなラベルです。

## 1 Windowsを起動し、「ラベルPro-1」を起動しましょう。

## 2 新規作成を選択しましょう。

「ラベルPro-1」が起動し、[ラベルPro-1]初期画面が表示されたら「新規作成」を選択しましょう。

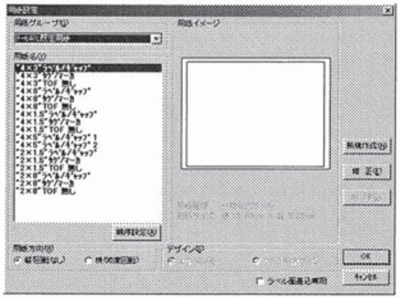


## 3 用紙の設定をしましょう。

用紙グループが「P-640L既定用紙」であることを確認し、4インチ×3インチの用紙を選択します。

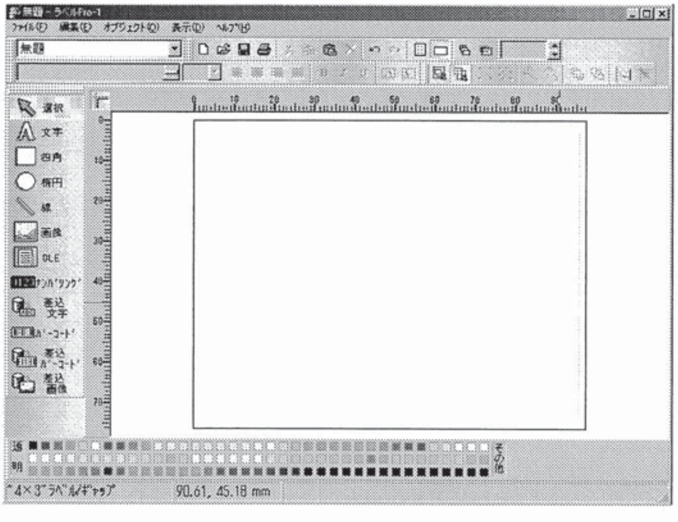
既定の用紙に利用したいサイズがない場合は、新規に用紙を作成します。
用紙の設定の詳細は→138ページ参照

1 "4×3"ラベル／ギャップをクリックし、[OK]ボタンをクリックします。



次のような「デザイン画面」が表示されたことを確認してください。

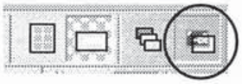
[用紙画面]に戻るには、[ファイル]メニューの[用紙設定]をクリックしてください。

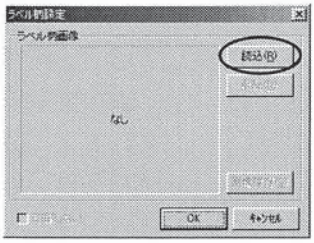


## 4 ラベル柄を選びましょう。

ラベルの背景色としてラベルの柄を選びましょう。

**1** ツールバーの[ラベル柄] ボタンをクリックします。
[ラベル柄設定]画面が表示されます。





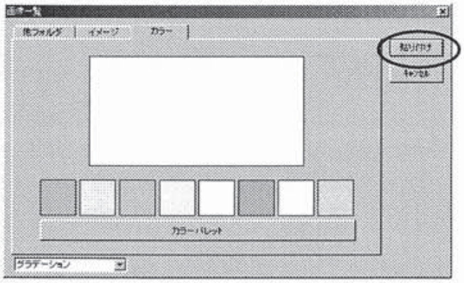

**2** [読込]ボタンをクリックします。
[画像一覧]画面が表示されます。

**3** [カラー]をクリックします。

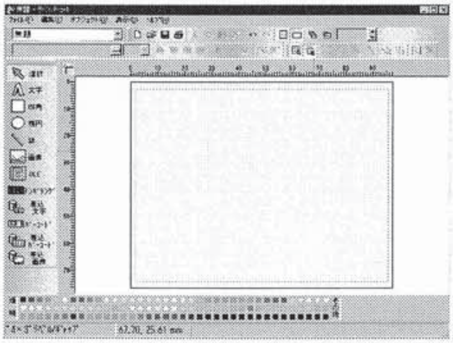
**4** [黄色[をクリックします。

**5** [貼り付け]ボタンをクリックします。

**6** [ラベル柄設定]画面で[OK]ボタンをクリックします。

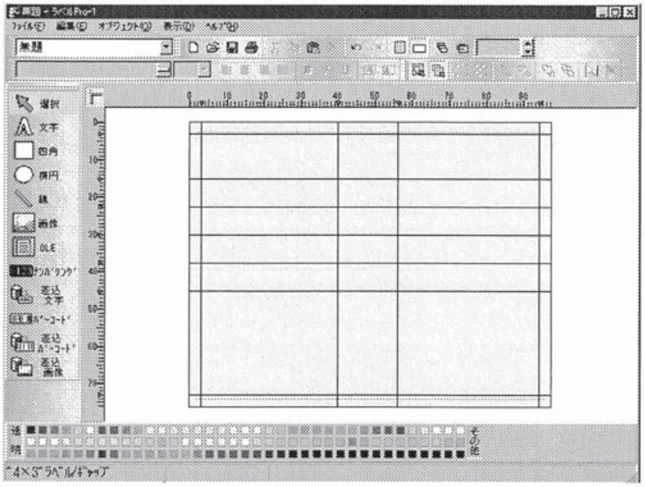



デザイン画面のラベル面が黄色になりました。

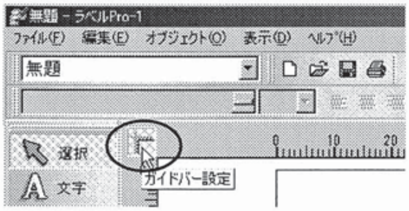


## 5 ガイドバーを引きましょう。

それではガイドバーを引き、デザインをしやすくしましょう。
ガイドバーを設定した画面は次のようになります。

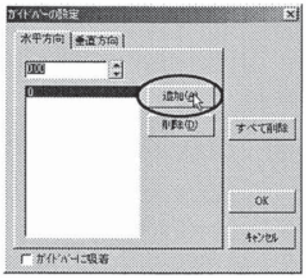


**1** [ガイドバー設定]ボタンをクリックします。
[ガイドバーの設定]画面の[水平方向]ページが表示されます。

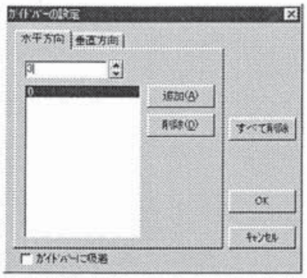



水平方向のガイドバーは、ラベル面の左から3mm、40mm、56mm、そして96mmの位置に4本設定することにします。

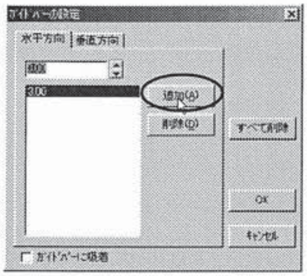
**2** [水平方向]ページの[追加]ボタンをクリックします。
表示位置を数値入力します。まず1本めとして3mmの位置のガイドバーを設定します。



**3** キーボードから「3」と入力します。

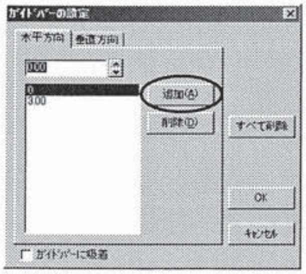



**4** [追加]ボタンをクリックします。
入力した値がリストに「3.00」と追加され、ガイドバーとして設定されました。




この操作を繰り返すことで、複数のガイドバーを設定します。

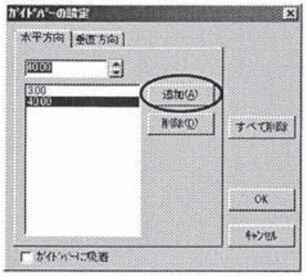
**5** 続けて[追加]ボタンをクリックします。
「2.00」が「0.00」という表示に変わります。




[追加] ボタンを押し忘れると、入力値の変更処理となり、いま入力したばかりの値「2.00」が変更されますので注意しましょう。
ガイドバーの詳細は→138ページ参照

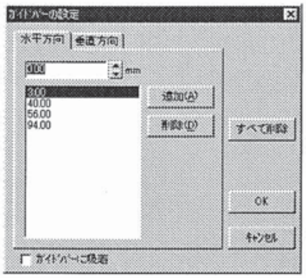
**6** 「40」とキーボードから入力します。

**7** [追加]ボタンをクリックします。
表示が「40.00」に変わり、リストに追加されます。

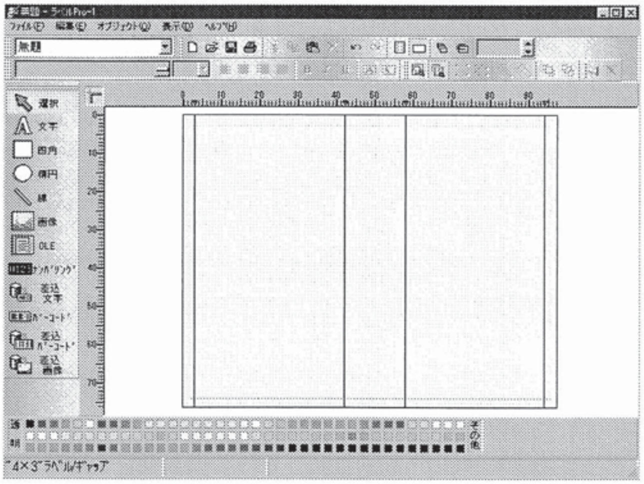


さらに以上の操作**5**～**7**を繰り返して[56]と[96]を設定します。
設定画面が右図のようであれば、水平方向のガイドバーは正しく設定されています。

**8** [OK]ボタンをクリックして確認してみましょう。




デザイン画面は次のようになります。ラベル面に縦線のガイドバーが表示されていることを確認しましょう。

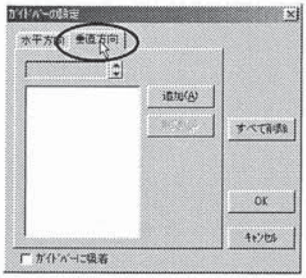


## ガイドバーの水平・垂直方向

[ガイドバーの設定]画面の「水平方向」とは、オブジェクトを水平方向にそろえるための基準線、という意味です。ガイドバーそのものは、縦線となります。同様に「垂直方向」は横線です。「方向」は、ガイドバーの線そのものの方向ではありませんので、注意しましょう。

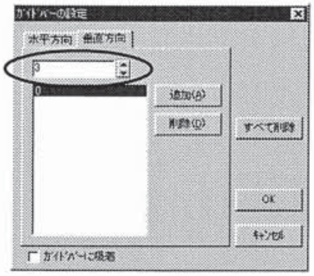
同様に垂直方向のガイドバーも設定しましょう。
垂直方向のガイドバーは3、15、22.5、30、37.5、45、73の7本です。

**9** [ガイドバーの設定]画面を表示し、[垂直方向]ページをクリックします。
[垂直方向] ページが前面に表示されます。後の操作は、水平方向の設定と同じです。

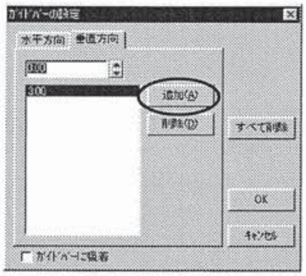



**10** [追加]ボタンをクリックします。

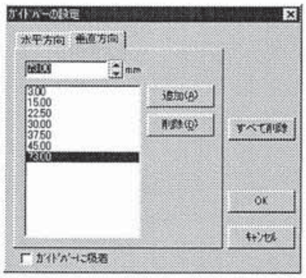
**11** キーボードから「3」と入力します。



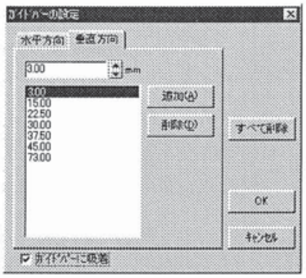

**12** [追加]ボタンをクリックします。
入力した値がリストに「3.00」と追加され、ガイドバーとして設定されます。




以上の操作 **10** ～ **12** を繰り返して、「15」「22.5」「30」「37.5」「45」「73」を設定します。設定画面が右図のようであれば、垂直方向のガイドバーも正しく設定されています。

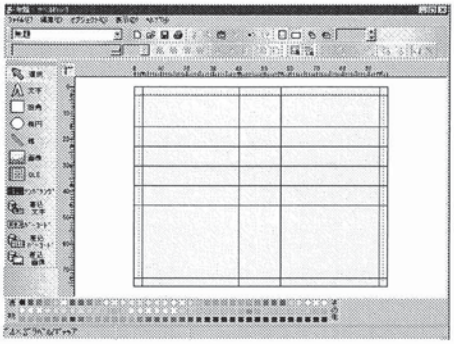


**13** 最後に[ガイドバーに吸着]をチェックしておきます。




「ガイドバー吸着」では、配置したオブジェクトをガイドバーに沿ってきれいに並べることができます。

**14** [OK]をクリックします。
デザイン画面に戻ります。
縦線だけだったラベル面に横線のガイドバーも表示されています。



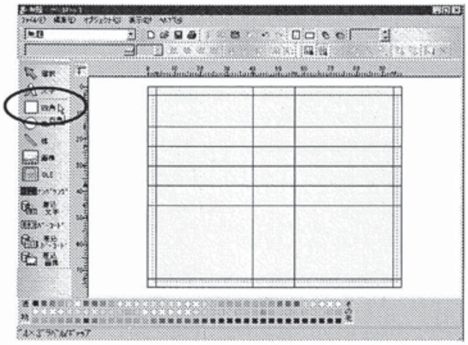
ガイドバーの詳細は→138ページ参照

## 6 罫線を引きましょう。

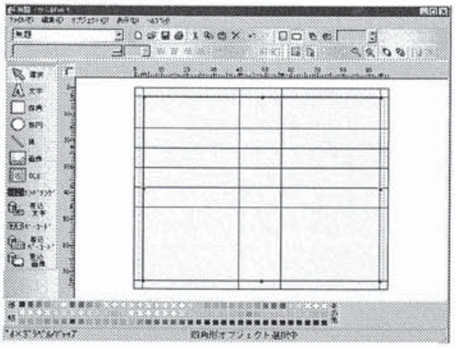
ラベルに外枠と罫線を引きましょう。外枠を引くには四角オブジェクトを使用します。
まずいちばん外側の大きな枠を書きましょう。

## 外枠を書く

**1** オブジェクトバーの[四角]オブジェクトアイコンをクリックします。



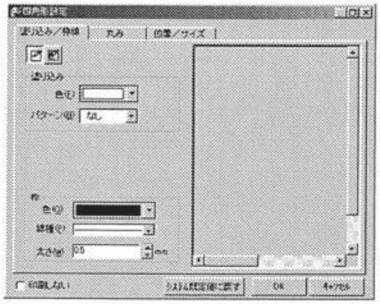
**2** 四角形の対角点（始点·終点）を指定します。



**3** マウスの左ボタンを押し、ボタンを押したままマウスを移動させ、終点（対角点）の位置で離します。
外枠が表示されました。

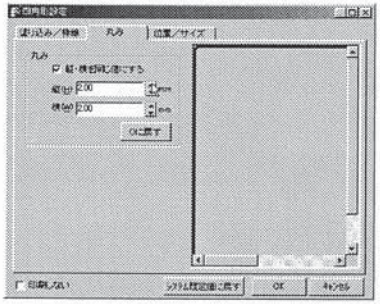
このままでは線が細いので、少し太くしましょう。

**4** 四角形の枠内でダブルクリックします。
[四角形設定]画面の[塗り込み/枠線]ページが表示されます。



**5** [枠]の項目の[太さ]にキーボードから「0.5」と入力します。

ここでは、太さの単位がミリメートル(mm)になっています。これをポイントで指定したい場合は、数字に続けて[p]を入力します。たとえば1pと入力すると、1ポイントという意味となり、ミリメートルを自動的にポイントに換算して設定する事ができます。

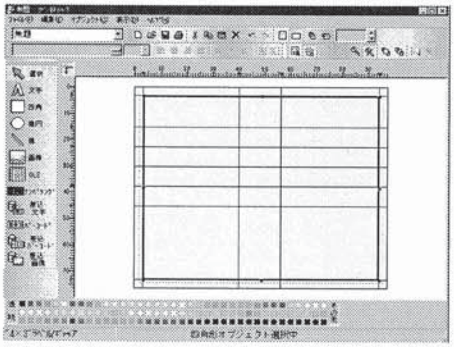


**6** [丸み]ページをクリックします。

**7** [縦]の値を2にします。直接キーボードから「2」と入力するか、スピンボタンの上をクリックします。同様に横も「2」とします。

これにより、四角の角に丸みをつけることができます。

**8** [OK]ボタンをクリックします。
デザイン画面に外枠が表示されました。



線が0.5mmの太さになり、角が適度に丸くなっていることを確認しましょう。

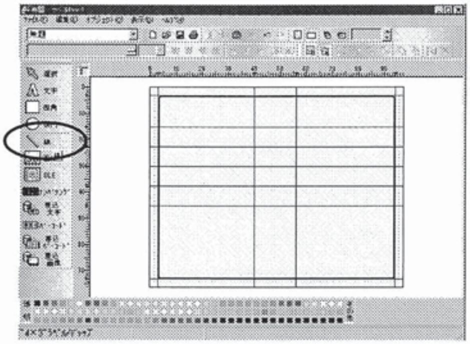
四角オブジェクトの詳細は→92ページ参照

## 横線を引く

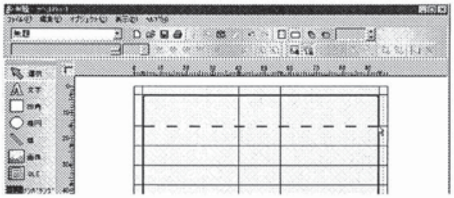
次にほかの線を描きましょう。今度は線オブジェクトを使用します。
線の書き方も四角と同様に、始点と終点を指定します。

**1** オブジェクトバーの[線]オブジェクトアイコンをクリックします。

**2** 線の始点にマウスを合わせます。

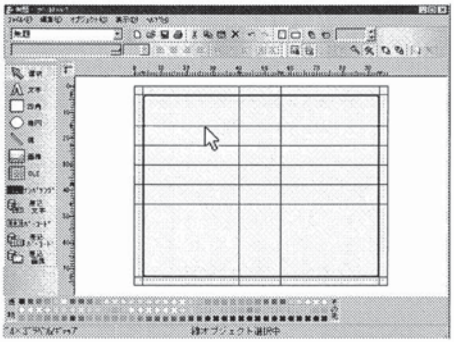


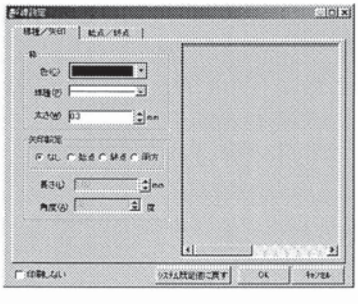
**3** マウスを右図のようにドラッグします。線が表示されました。



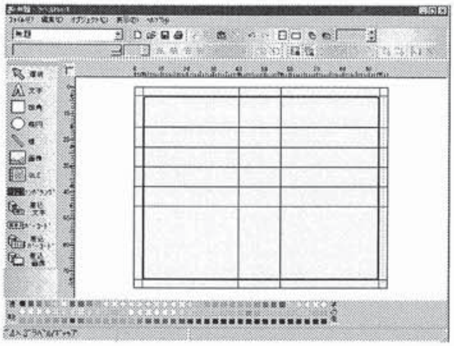
次に、線の太さを変更します。

**4** 線オブジェクトをダブルクリックします。[線設定]画面の[線種／矢印]ページが表示されます。





**5** [枠]の項目の[太さ]にキーボードから「0.3」と入力し、[OK]をクリックします。



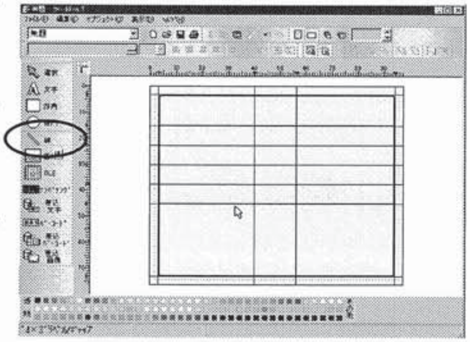
線が太くなったことを確認しましょう。
同様の手順で、もう1本同じ太さの線を書きましょう。

**1** オブジェクトバーの[線]オブジェクトアイコンをクリックします。

**2** 線の始点にマウスを合わせ、ドラッグします。

**3** 線オブジェクトをダブルクリックします。[線設定]画面の[線種／矢印]ページが表示されます。

**4** [枠]の項目の[太さ]にキーボードから「0.3」と入力し、[OK]をクリックします。



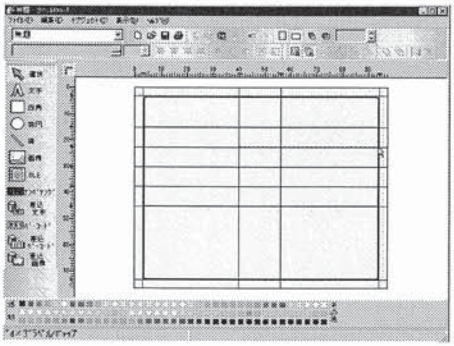
横線が2本になったことを確認しましょう。

## しきり線を引く

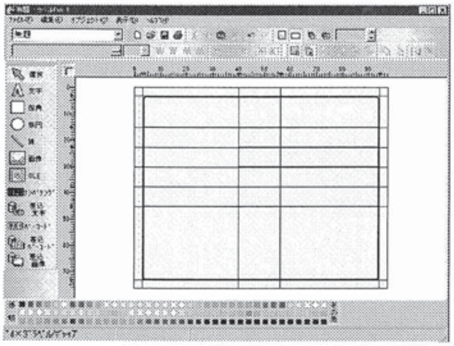
次は項目のしきりとして横に細い線を3本、縦に2本書きましょう。手順は今までと同様です。線の太さを変える必要はありません。

**1** オブジェクトバーの[線]オブジェクトアイコンをクリックします。

**2** 線の始点にマウスを合わせ、ドラッグします。



**3** この手順を5回繰り返して図のように横線と縦線を描きます。



複数の罫線が描けました。

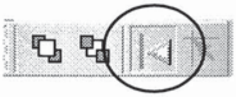
線オブジェクトの詳細は→100ページ参照

## 7 文字を入力しましょう。

線が描けましたら、次は必要な部分に文字を配置します。これには[文字オブジェクト]を使用します。[文字オブジェクト]は、まず文字を書き込みたい範囲を矩形(四角形)で指定します。その後、その範囲内に文字を入力します。

## ガイドバー吸着の解除

**1** まず「ガイドバー吸着」を解除しましょう。
デザイン画面の[ガイドバー吸着]をクリックします。



ガイドバーの吸着を解除すると、ガイドバーより、ひとまわりだけ小さい範囲指定をしたいときに微調整できるようになります。

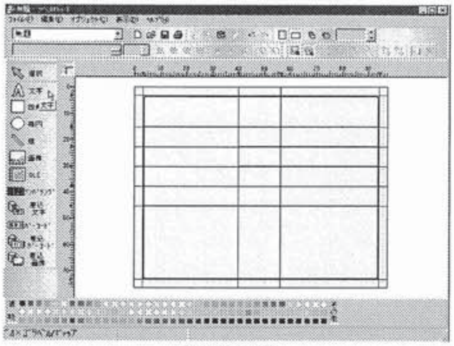
### オブジェクトの連続入力

続けて同じオブジェクトを作成する場合は、1回ずつオブジェクトバーのオブジェクトアイコンをクリックする必要があります。例えば、線を複数描くときは、[線]オブジェクトアイコンを1回ずつクリックします。
オブジェクトバーのオブジェクトアイコンをクリックしないで、デザイン画面のラベル面をクリックすると、すでに設定されているオブジェクトが選択されることになりますので、新しくオブジェクトを追加することができません。

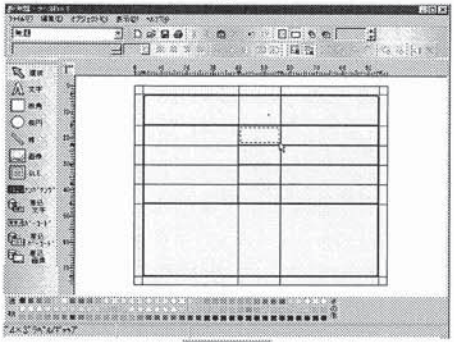
## 「商品名」の入力

「商品名」を入力しましょう。

**1** オブジェクトバーの[文字]オブジェクトアイコンをクリックします。

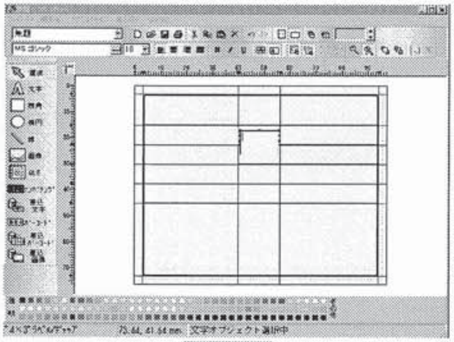


**2** 文字を入力したい範囲を四角形の対角点(始点・終点)で指定します。
この方法は四角を描くときと同じです。まず始点にしたいところにマウスを移動します。

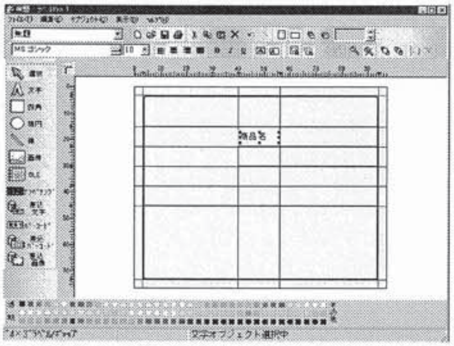


**3** マウスをドラッグし、終点の位置でマウスのボタンを離します。
文字を入力するための枠が表示され、カーソルが表示されます。ここにキーボードから文字を入力していきます。

**4** 「商品名」と入力します。

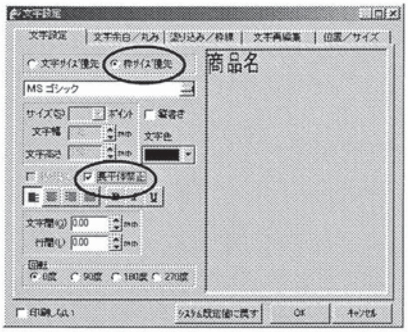


**5** 文字を入力できる枠以外のところでマウスをクリックします。入力した文字がラベル面に表示されます。



このままではバランスが悪いので、文字の大きさを変更します。

**6** 「商品名」文字オブジェクトをダブルクリックします。
[文字設定]画面の[文字設定]ページが表示されます。



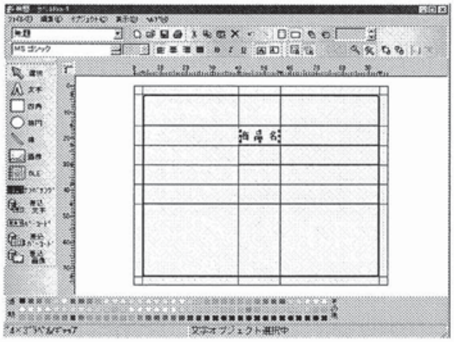

**7** [枠サイズ優先]を選択します。

[枠サイズ優先]は、文字が枠の中で適度な大きさになるよう自動設定されます。

**8** [長平体禁止]をチェックします。

[長平体禁止]は、文字が必要以上に縦長、あるいは横長に変形しなくなります。

**9** [OK]ボタンをクリックします。
デザイン画面に戻ります。




「商品名」という文字がバランスよく配置されました。

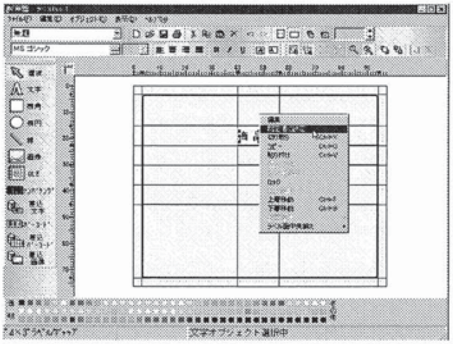
## 既定値の設定

同じオブジェクトを繰り返し設定する場合は、すべて自動的に同じ設定になるよう、「既定値」として設定しておくことができます。

**1** いま作成した「商品名」の文字オブジェクトにマウスを合わせ、マウスを右クリックします。

**2** ポップアップメニューが表示されます。

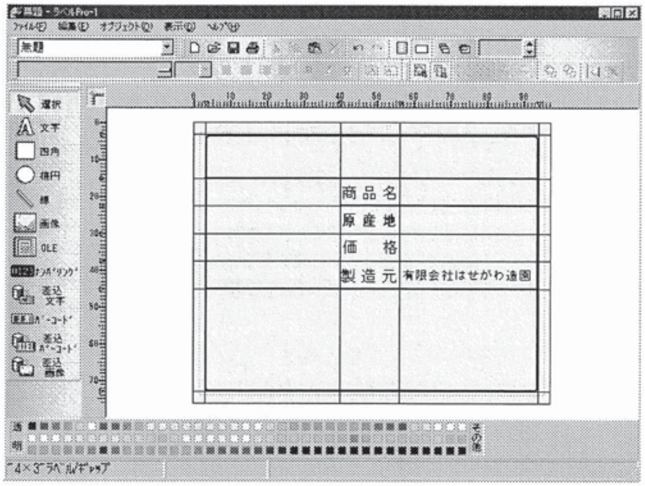
**3** ポップアップメニューの[既定値に設定]をクリックします。




これで次から入力する文字は、すべて枠サイズ優先、長平体禁止になります。

## その他の文字の入力

「商品名」入力の手順**1**から**5**を繰り返して「原産地」、「価格」、「製造元」、そして製造元に「有限会社はせがわ造園」を入力しましょう。すべて入力すると、画面は次のようになります。




「有限会社はせがわ造園」の文字は既定値ではなく、[文字サイズ優先]に設定し、サイズを「10」としてみます。
いままでの手順を参考に、調整してみましょう。

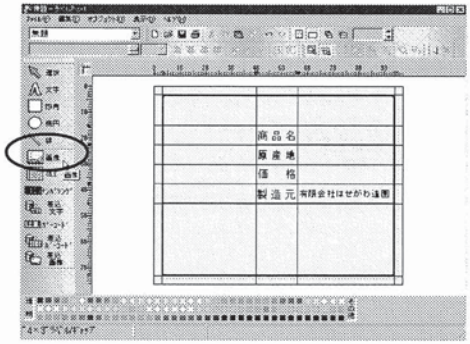
文字設定の詳細は→81ページ参照

## 8 画像を貼り付けましょう。

会社のロゴをラベルの左上に貼り付けます。これには、画像オブジェクトで作成します。

**1** オブジェクトバーの[画像]オブジェクトアイコンをクリックします。

**2** 画像を貼り付ける範囲を矩形で指定します。
始点にしたい位置に、マウスを移動します。マウスをドラッグし、終点の位置でマウスのボタンを離します。

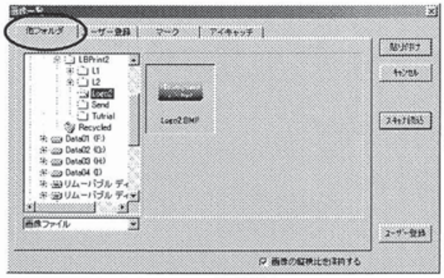


**3** [画像一覧]画面が表示されます。

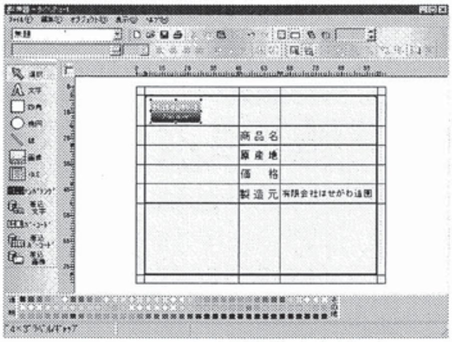
**4** [他フォルダ]タページブをクリックします。

**5** [チュートリアル] フォルダを指定します。

**6** 貼り付けたい画像をクリックして選択し、[貼り付け]ボタンをクリックします。ここでは、[logo2.bmp] を指定します。



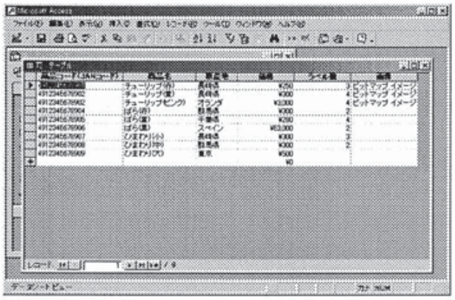
**7** デザイン画面に戻ります。
マークが表示されました。




## 9 差込するデータを用意しましょう。

商品名、原産地、価格、製造元などは、商品によって異なる項目です。このような項目は、Microsoft Accessを使ってデータを順番に入れ替えることにより、それぞれの商品に合わせて自動的に印刷できるようになります。

**1** Microsoft Accessで、データベースを作成しましょう。
右のようなテーブルを作成します。



テーブルは、例として「花」という名前で作成します。ファイル名も同様に「花.mdb」という名前をつけて保存します。そして、このデータベースファイルを「ラベルPro-1」で差込データベースに設定します。

ここでは、数量指定ができるように「ラベル数」という項目を用意しました。このようにすると、それぞれの商品に対して必要なラベル数を変えながら印刷できるようになります。

Microsoft Accessでは、ひとつのデータベースファイルに複数のテーブルを作成することができます。ただし、「ラベルPro-1」では、ひとつのラベルに指定できるテーブルはひとつだけです。
Microsoft Accessについての詳細は、Microsoft Accessの操作説明書をご覧ください。

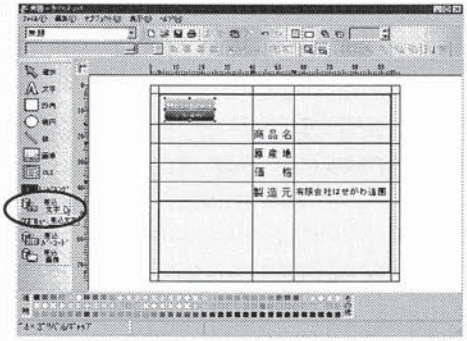
## 10 差込文字を設定しましょう。

差込データベースとして利用するデータベースファイルは作成できましたか？それでは、差込文字の設定をしましょう。

### データベースの設定

**1** オブジェクトバーの[差込文字]オブジェクトアイコンをクリックします。
まだ差込データベースの設定をしていないラベルでは、[差込データベース選択]画面が表示されます。

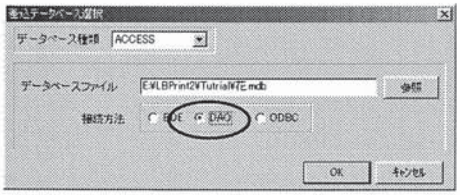
差込データベース設定の詳細は
→158ページ参照




**2** [データベース種類]は「ACCESS」とします。

**3** [参照]ボタンをクリックします。
[ファイルを開く]画面が表示されますので、先ほど作成した「花.mdb」を選択します。

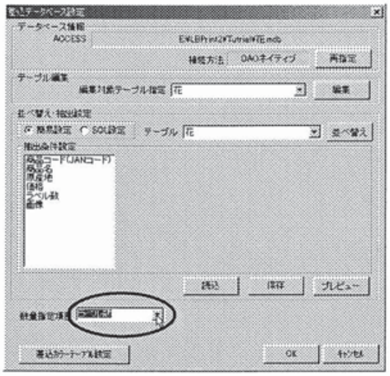
**4** [接続方法]では[DAO]を選択します。
[OK]ボタンをクリックします。



**5** [差込データベース設定]画面が表示されます。

**6** [数量指定項目]に「ラベル数」を指定します。

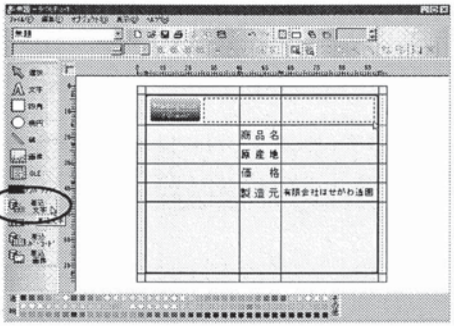
**7** [OK]ボタンをクリックします。



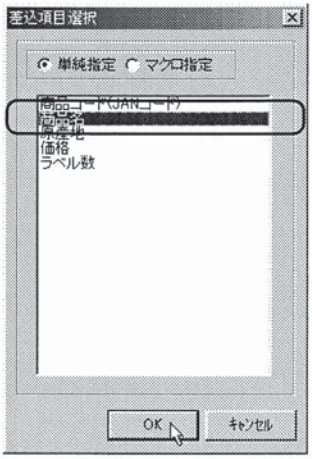
ここまでで、差込データベースの設定ができました。以降は、この設定をもとに項目を差し込んでいきます。

## 商品名の差込

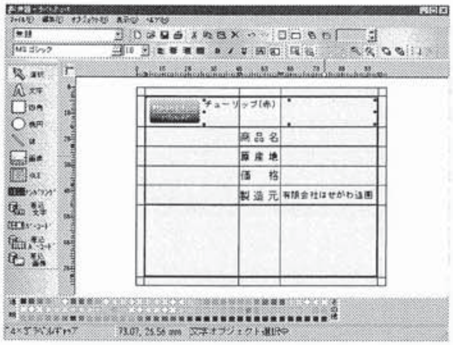
**1** 商品名を印刷したいところに、マウスを移動します。
画面はオブジェクトバーの[差込文字]オブジェクトアイコンが選択された状態で、文字入力と同じように、文字を差し込みたい範囲を四角形の対角点(始点・終点)で指定します。



**2** 文字が差し込まれる範囲に枠が表示され、[差込項目選択]画面が表示されます。
「商品名」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



**3** デザイン画面に商品名が表示されます。



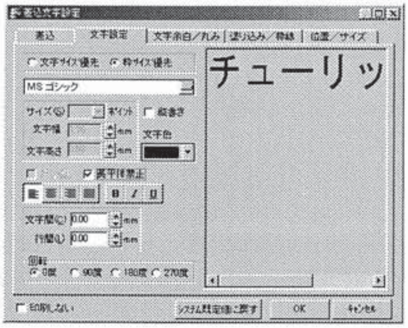
文字を入力したときと同様に、このままではバランスが悪いので、設定を変更します。

**4** 差込文字オブジェクトをダブルクリックします。
[差込文字設定]画面が表示されます。

**5** [文字設定]ページをクリックします。

**6** [枠サイズ優先]を選択します。

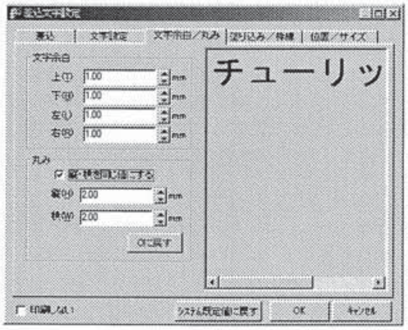
**7** [長平体禁止]をチェックします。




**8** [文字余白/丸み]ページをクリックします。

**9** [文字余白]の上下左右をすべて「1」にします。

**10** [丸み]を縦横とも「2」にします。



**11** [OK]ボタンをクリックして、デザイン画面に戻ります。

商品名がバランスよく配置されました。

差込文字の詳細は→118ページ参照

ここで、次のデータを表示してみましょう。データベースでは、1件のデータのことを1レコードと呼びます。
デザイン画面右上にある[表示レコード番号指定項目]の上下の矢印ボタンをクリックしましょう。

先ほど差込元として作成したテーブルでは、ラベル数という項目を用意しました。「チューリップ(赤)」のラベル数は「3」としましたので、「4」まで進むと表示が次のデータ「チューリップ(黄)」になります。

これによりラベルに印刷される項目がデータベースと連動していることがわかります。上下の上向きのボタンでは順送り、下向きのボタンで逆送りにデータを表示することができます。

では、表示を「1」に戻し、最初のデータを表示しておきましょう。続けて次の設定を行います。

## 品質表示欄の商品名の差込

品質表示欄にある商品名の枠内にも差込文字オブジェクトを作成します。手順は先ほどと同様です。

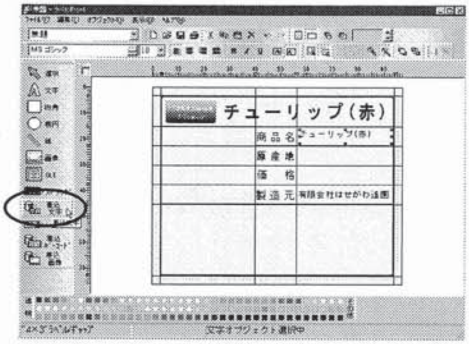
**1** オブジェクトバーの[差込文字]オブジェクトアイコンを選択します。

**2** 商品名を印刷したいところに、マウスを移動します。

**3** マウスをドラッグして領域を指定します。

**4** [差込項目選択]画面が表示されます。

**5** 「商品名」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。
デザイン画面に商品名が表示されます。




ここでも先ほどと同様に、文字のバランスを整えます。

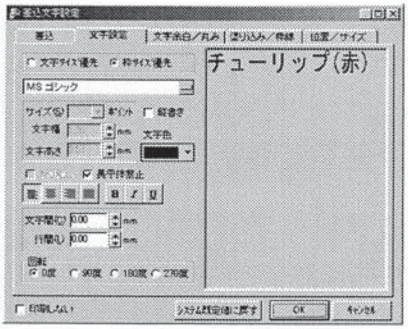
**6** 先ほど、差し込みを行った文字オブジェクトをダブルクリックします。
[差込項目選択]画面が表示されます。

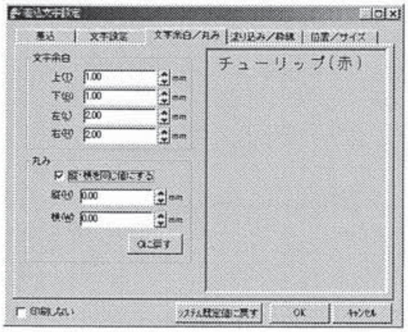
**7** [文字設定]ページをクリックします。

**8** [枠サイズ優先]を選択し、[長平体禁止]をチェックします。

**9** [文字余白/丸み]ページをクリックします。

**10** [文字余白]の上下左右をそれぞれ「1」「1」「2」「2」と入力します。これにより余白が調整されます。



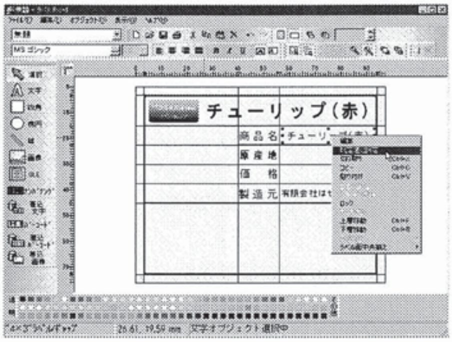
**11** [OK]ボタンをクリックします。デザイン画面に戻ります。

差込文字の詳細は→118ページ参照

この差込文字オブジェクトを「既定値に設定」しておきましょう。

**12** 差込オブジェクト上でマウスを右クリックします。
ポップアップメニューが表示されます。

**13** ポップアップメニューの[既定値に設定]をクリックします。

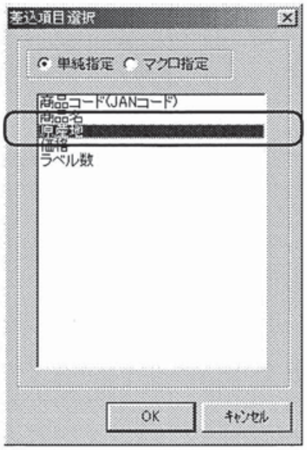


同様に、原産地にも差込オブジェクトを作成し、原産地が印刷されるようにします。
手順は商品名と同様です。

## 原産地の差込

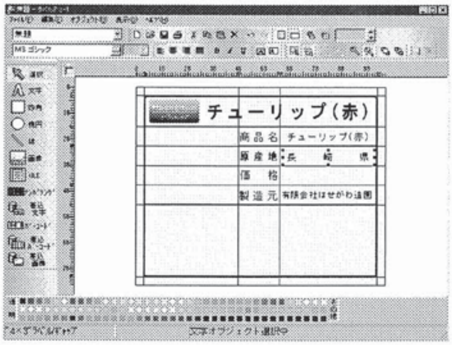
**1** オブジェクトバーの[差込文字]オブジェクトアイコンを選択します。

**2** 原産地を印刷したいところに、マウスで領域を指定します。
[差込項目選択]画面が表示されます。



**3** 「原産地」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

デザイン画面に原産地が表示されます。




## 価格の差込

さらに価格の差込オブジェクトを作成しますが、これにはマクロを指定します。マクロとは、小さなプログラムともいえるもので、一定の法則に従って自動的に文字を連結したり置き換えることができます。
ここでは、価格に「円」という文字を連結してみましょう。
文字を連結するマクロは、ウィザードを利用して設定します。ウィザードでは、入力ガイドとなるような画面が順次表示されます。それらの表示された画面に必要な項目を設定していけば、マクロの入力が完成するようになっています。
それでは手順に従って進めていきましょう。差込文字を指定するところまでは、これまでと同じです。

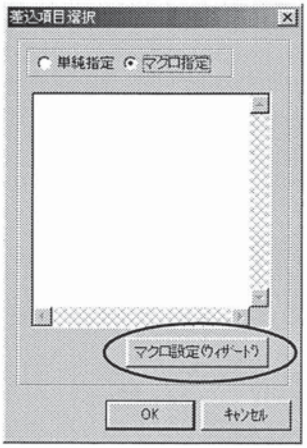
**1** オブジェクトバーの[差込文字]オブジェクトアイコンを選択します。

**2** 価格を印刷したいところを、マウスで指定します。
[差込項目選択]画面が表示されます。

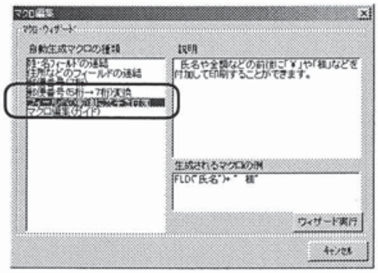
**3** ここで[マクロ指定]をクリックします。
マクロが入力できるように表示が変わります。

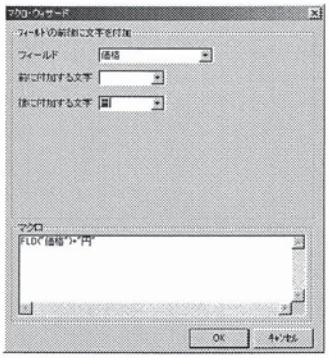
**4** [マクロ設定(ウィザード)]ボタンをクリックします。

**5** [マクロ編集]画面が表示されます。
[自動生成マクロの種類]から「フィールドの前後に文字を付加」を選択し、[ウィザード実行]ボタンをクリックします。



**6** [マクロ・ウィザード]画面が表示されます。
[フィールド]で「価格」を指定、[後に付加する文字]に「円」を入力し、[OK]をクリックします。




**7** [差込項目選択]画面に戻りますので、[OK]ボタンをクリックします。

デザイン画面上で、価格に円が付加されて表示されていることを確認してください。それでは文字のバランスを整えましょう。

**8** 差込を行った文字をダブルクリックします。
[文字設定]画面が表示されます。

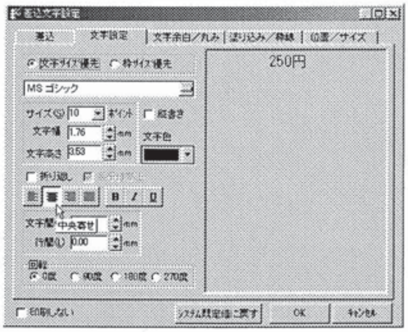
**9** [文字設定]ページをクリックします。

**10** [文字サイズ優先]にします。

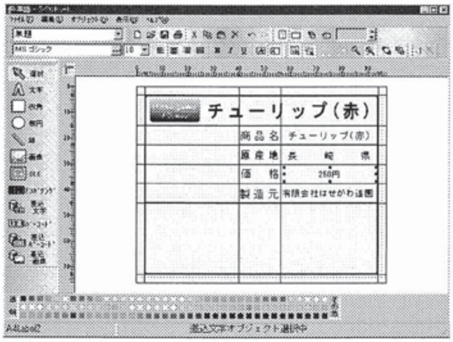
**11** [文字サイズ]を「10」にします。

**12** [中央寄せ]ボタンをクリックします。

**13** [OK]ボタンをクリックします。




デザイン画面上で、正しく設定されていることを確認しましょう。

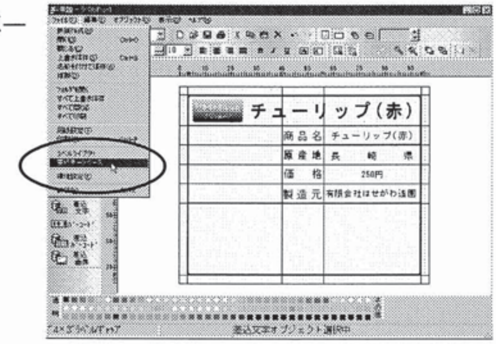



差込文字の文字設定の詳細は
→119ページ参照

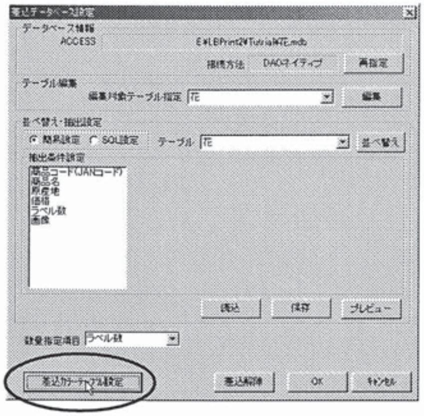
## 11 差込カラーを指定しましょう。

差込カラーを設定すると、オブジェクトの色をデータに合わせて変えることができます。このラベルでは、商品名の差込文字オブジェクトを花の色に合わせてみましょう。

**1** [ファイル]メニューの[差込データベース]を選択します。



**2** [差込データベース設定]画面の[差込カラーテーブル設定]ボタンをクリックします。



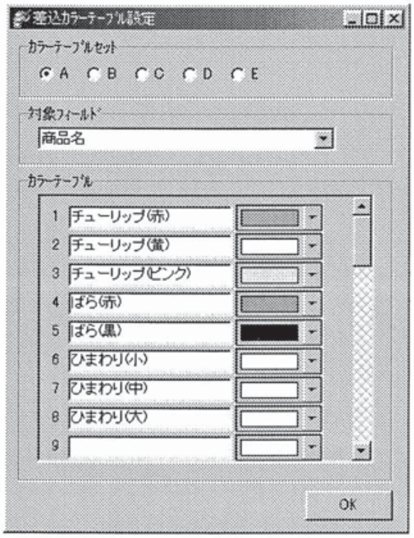
**3** [カラーテーブルセット]は「A」を選択します。

**4** [対象フィールド]で「商品名」を選択します。

**5** [カラーテーブル]の[1]に1件目の商品名である「チューリップ(赤)」を入力します。

**6** カラーコンボボックスをクリックして、カラーテーブルから赤を選択します。

**7** 以下、カラーテーブルの「2」から「8」までを適宜設定します。




このとき、実際のデータのとおりに項目を入力しないと正しく色が印刷されません。
全角と半角も区別されますので、アルファベットやかっこなどの記号を使用しているときは注意してください。

**8** [OK]ボタンをクリックします。

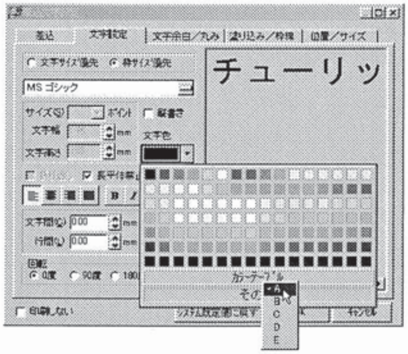
**9** [差込データベース設定]画面でも[OK]ボタンをクリックします。
デザイン画面に戻ります。

**10** 今設定したカラーテーブルを利用するオブジェクトを指定しましょう。
最初に設定した差込文字オブジェクトの「商品名」をダブルクリックします。

**11** [差込文字]画面が表示されます。[文字設定]ページをクリックします。

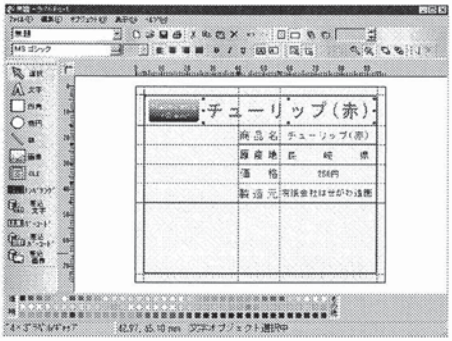
**12** [文字色]をクリックします。

**13** 表示されたカラーパレットの「カラーテーブル」をクリックします。




**14** テーブルリストが表示されますので、「A」をクリックします。

**15** [OK]ボタンをクリックします。



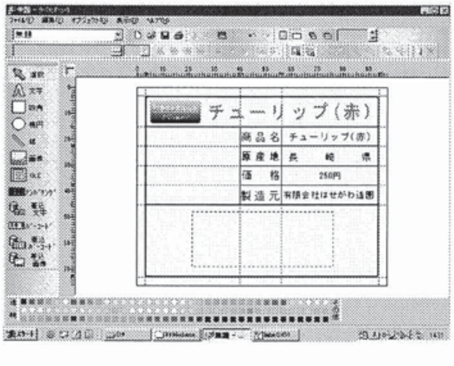

デザイン画面上で、商品名の色が変更されていることを確認しましょう。

## 12 バーコードを差込みましょう。

次はバーコードを設定しましょう。バーコードのもととなるコードも、先ほどのデータベースに商品コードとして用意しました。
「ラベルPro-1」では、差込バーコードオブジェクトを利用することで、商品名と同様に自動的にバーコードを印刷することができます。

**1** オブジェクトバーの[差込バーコード]オブジェクトアイコンをクリックします。

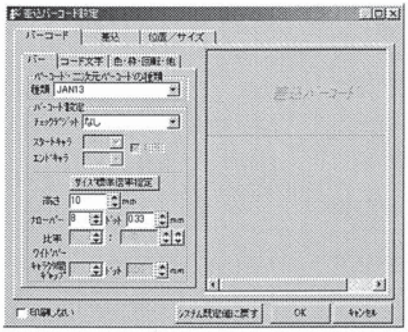
**2** バーコードを印刷したい範囲をマウスで指定します。



**3** バーコードが差し込まれる範囲に枠が表示され、[差込バーコード設定]画面が表示されます。

**4** バーコードの種類で「JAN13」を選択します。

**5** 高さを10mmにします。高さの欄に、キーボードから「10」と入力します。



**6** [差込]ページをクリックします。

**7** [差込]ページで差込の対象とする項目を指定します。「商品コード(JANコード)」を選択します。

**8** [OK]ボタンをクリックします。

デザイン画面上で、バーコードが表示されたことを確認しましょう。

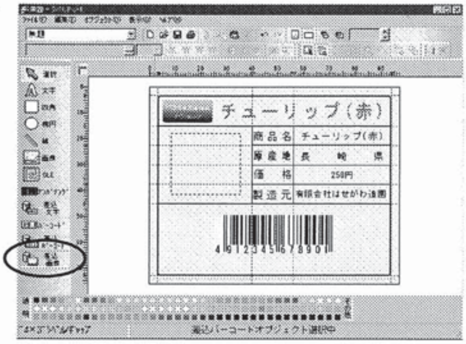
差込バーコードの詳細は→131ページ参照

## 13 差込画像を設定しましょう。

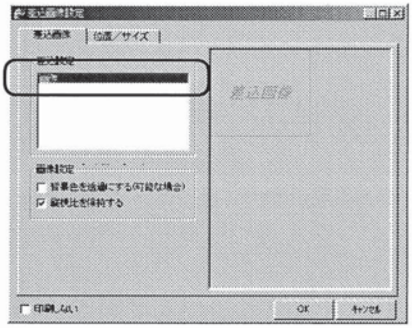
用意しているデータベースには、商品の写真も入っていますので、ラベルにも画像を貼り付けてみましょう。

**1** オブジェクトバーの[差込画像]オブジェクトアイコンをクリックします。

**2** 画像を印刷したい範囲をマウスで指定します。
画像が差し込まれる範囲に枠が表示され、[差込画像設定]画面の、[差込画像]ページが表示されます。




**3** 画像の含まれている項目を指定します。




**4** [OK]ボタンをクリックします。デザイン画面

デザイン画面に戻ります。
画像が表示されました。

差込画像の詳細は→133ページ参照

## 14 シート表示で印刷イメージを確認しましょう。

ここまででレッスン2のラベルデザインは完了です。保存し、シート表示に切り替えて印刷イメージを確認しましょう。

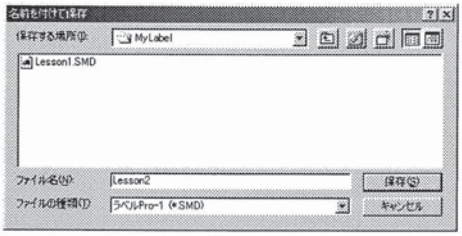


### データを保存する

1 [ファイル]メニューをクリックします。

2 表示されたメニューから[名前を付けて保存]をクリックします。

3 [名前を付けて保存]画面が表示されます。
「Lesson2」と名前を入力し、[保存]ボタンをクリックします。
デザイン画面に戻ります。



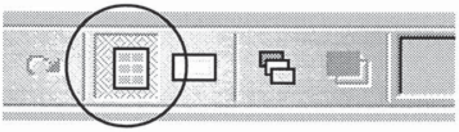

名前を付けて保存の詳細は→137ページ参照

これでデータが保存されました。

### シート表示で確認

1 デザイン画面のツールバーにある[シート表示]ボタンをクリックします。

2 画面はシート表示に切り替わります。
[デザイン表示]ボタンをクリックすると、デザイン画面に戻ります。



データベースと連動してラベルの文字と色が変化していることが確認できます。

## 15 印刷しましょう。

それでは、印刷してみましょう。

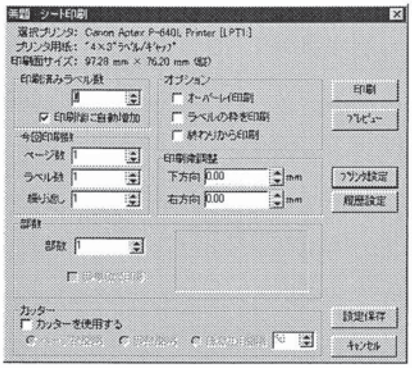
**1** [ファイル]メニューをクリックします。

**2** 表示されたメニューから[印刷]をクリックします。
[シート印刷] 画面が表示されます。

プリンタの電源が入っていること、さらに正しく用紙がセットされていることを確認します。

**3** [印刷]ボタンをクリックします。

印刷の詳細は→139ページ参照




以上で、レッスン2は終わりです。品質表示ラベルが作成できましたか？
データベース連携機能をマスターすると、多くの種類のラベルでも効率よく作成することができます。
次のレッスンでは、作成したラベルをライブラリとして保存し、さまざまなものに応用する方法を説明していきます。

# Lesson3 ラベルライブラリを使ってみよう！

## ラベルライブラリとは

「ラベルPro-1」には、ラベルのデザインを一括して管理することができるラベルライブラリという機能があります。
ラベルライブラリは、デザインのデータベースともいえるもので、保存の単位が用紙ではなく、デザインそのものになっています。また、ラベルライブラリには検索画面も用意されていますので、目的のデザインのラベルを探すときに、いちいちファイルを開いて確認する必要もありません。
通常、ラベルのデザインはデザインファイルとして保存します。デザインファイルは用紙を基準に考えられています。いままでのレッスンで作成したラベルも、用紙単位で保存をしていました。このような方法でラベルを保存すると、異なる種類のラベルをあとから1枚のラベル用紙に並べることはできません。
その点、ラベルライブラリを利用すると、必要なデザインのラベルを複数の種類でも同じ用紙に並べて印刷することができます。さらに、ラベルライブラリには外部のデータベースとの連携機能もありますので、すべての売場の商品が一括して登録されているようなデータベースから、売場単位でデータを選択し、デザインを変えて印刷することが自動的にできるようになります。

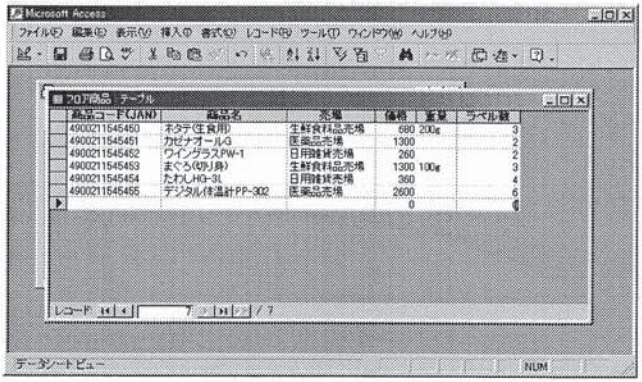
ラベルライブラリを利用するポイントをまとめると、次のようになります。

1. 異なるデザインのラベルをあとから1枚の用紙に並べて印刷できます。
2. ラベルデザインの変更が必要になった場合でも、目的のラベルを簡単に検索できます。
3. データベースと連携させることで、必要なデータを選択して、それぞれのデザインで印刷することができます。

ここでは、ラベル面差込機能を利用して、Microsoft Accessのデータベースファイルと連動させながら売場ごとに異なるデザインのラベルを印刷してみましょう。
このレッスンでは、次のように3種類のラベルを作成します。

## 1 データベースを作成しましょう。

売場のデータに合わせて自動的にデザインを変更できるように、データベースを作成しましょう。データベースは、Microsoft Accessを利用して、次のようなテーブルを作成します。




テーブル名は「フロア商品」、データベースファイル名として「スーパー.mdb」とします。あるスーパーの1フロアの商品が複数登録されているようなデータベースです。

Microsoft Accessについての詳細は、Microsoft Accessの操作説明書をご覧ください。

## 2 ラベルを作成して登録しましょう。

ラベルライブラリに登録するためのラベルをデザインします。いままでのレッスンをもとに、ラベルを作成してみましょう。

### 生鮮食品用ラベルの作成

**1** Windowsを起動し、「ラベルPro-1」を起動します。

**2** 新規作成を選択し、4インチ×3インチの用紙を選択します。
（→レッスン**1**手順**3**を参照）

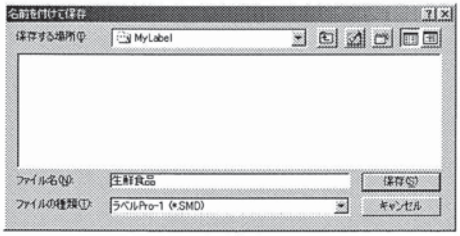
**3** 線オブジェクト、四角オブジェクトを利用して各項目の罫線や枠を書きます。
（→レッスン**1**手順**5**、**6**を参照）

**4** 差込文字オブジェクトを利用して、商品名、価格、重量を設定します。
差し込むデータベースは種類を「ACCESS」として、手順1で作成した「スーパー.mdb」を指定します。

**5** 差込バーコードオブジェクトを利用して、バーコードを設定します。
（→レッスン**2**手順**12**を参照）

デザイン画面のようになりましたか？

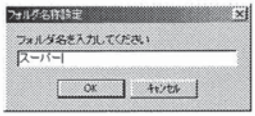
**6** 名前を「生鮮食品」として保存しましょう。（→レッスン**1**手順**9**を参照）



**7** このデザインをラベルライブラリに登録します。[ラベルライブラリ]ボタンをクリックします。

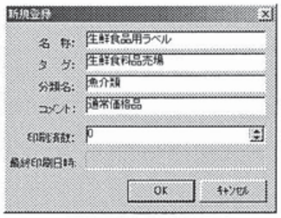
**8** [ラベルライブラリ]画面が表示されます。
[フォルダ]の[作成]ボタンをクリックします。

**9** [フォルダ名称設定]画面が表示されます。
フォルダ名に「スーパー」と入力し、[OK]ボタンをクリックします。




**10** [ラベルデータ]の[登録]ボタンをクリックします。

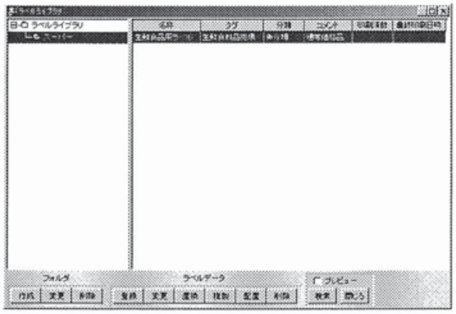
**11** [新規登録]画面が表示されます。ここで次のように入力します。




**入力例**

- ・[名　称]　:「生鮮食品用ラベル」
- ・[タ　グ]　:「生鮮食料品売場」
- ・[分類名]　:「魚介類」
- ・[コメント]:「通常価格品」

**12** [OK]ボタンをクリックします。
ラベルライブラリ画面にデザインが登録されました。



**13** [ラベルライブラリ]画面の[閉じる]ボタンをクリックします。

**14** デザイン画面の[ファイル]メニューの[閉じる]を選択し、デザインファイルを閉じます。

ここで重要なのは、[タグ]という項目を、手順1で作成した「スーパー.mdb」データベースの「売場」項目の内容と一致させている点です。これにより、ここで登録したデザインのラベルは「生鮮食料品売場」という項目のデータに適用することができます。
また、登録処理は、必ず現在編集中のラベルデザインが対象になることに注意しましょう。
なお、「名称」、「分類名」、「コメント」は、それぞれわかりやすいものを入力しておくようにします。

## 医薬品売場用ラベルの作成

それでは手順**3**「生鮮食料品ラベルの作成」と同様に、医薬品売場用ラベルを作成しましょう。

**1** デザイン画面の[ファイル]メニューの[新規作成]をクリックします。

**2** 4インチ×3インチの用紙を選択します。

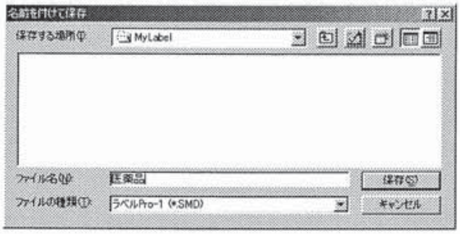
**3** 線オブジェクト、四角オブジェクトを利用して各項目の罫線や枠を書きます。

**4** 差込文字オブジェクトを利用して、商品名、価格を設定します。
差し込むデータベースも同様に種類を「ACCESS」として、先ほどの「スーパー.mdb」を指定します。

**5** 差込バーコードオブジェクトを利用して、バーコードを設定します。

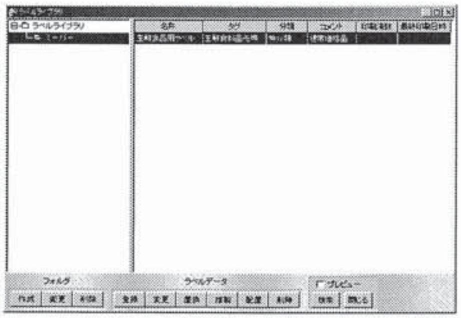
**6** デザイン画面のようになりましたか? データは「ホタテ」ですが、ここではこのままでかまいません。

手順**2**操作**6**と同様、デザインファイルとしても保存しておきます。名前は「医薬品」としておきます。




**7** このデザインをラベルライブラリに追加登録します。[ラベルライブラリ]ボタンをクリックします。(→手順**2**操作**7**〜**14**を参照)

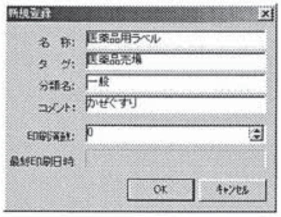
**8** 手順**2**操作**8**〜**9**で作成したフォルダ「スーパー」が選択されていることを確認します。[ラベルデータ]の[登録]ボタンをクリックします。



**9** ここでは次のように入力します。

**入力例**

- **[名　称]　:「医薬品用ラベル」**
- **[タ　グ]　:「医薬品売場」**
- **[分類名]　:「一般」**
- **[コメント]:「かぜぐすり」**




**10** [OK]ボタンをクリックします。デザインが登録されます。

**11** [ラベルライブラリ]画面の[閉じる]ボタンをクリックします。
(→手順**2**操作**13**を参照)

**12** デザイン画面で、[ファイル]メニューの[閉じる]を選択し、デザインファイルを閉じます。

ここでも[タグ]という項目を、手順**1**で作成した「スーパー.mdb」データベースの「売場」項目の内容と一致させています。これにより、ここで登録したデザインのラベルは「医薬品売場」という項目のデータに適用する事ができます。
「名称」、「分類名」、「コメント」は、それぞれわかりやすいものを入力しておくようにします。

## 日用雑貨売場用ラベルの作成

最後に、日用雑貨売場用ラベルを作成しましょう。

**1** デザイン画面の[ファイル]メニューの[新規作成]をクリックします。

**2** 4インチ×3インチの用紙を選択します。

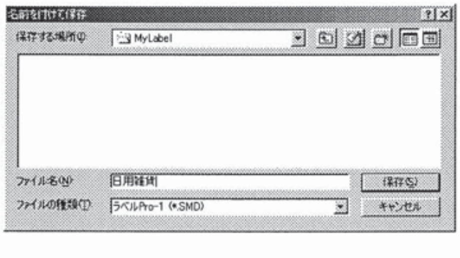
**3** 四角オブジェクトを利用して外枠を書きます。

**4** 差込文字オブジェクトを利用して、商品名、価格を設定します。差し込むデータベースも先ほどと同様です。

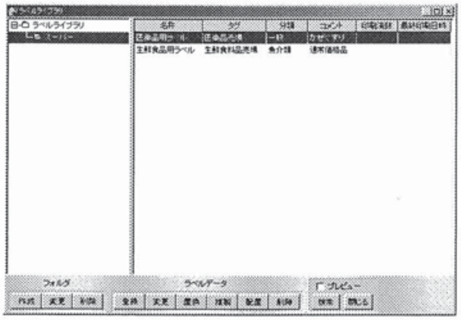
**5** 差込バーコードオブジェクトを利用して、バーコードを設定します。

**6** デザイン画面のようになりましたか?

ここでもデータは「ホタテ」ですが、このままでかまいません。
先ほどと同様、デザインファイルとしても保存しておきます。
名前は「日用雑貨」としておきます。

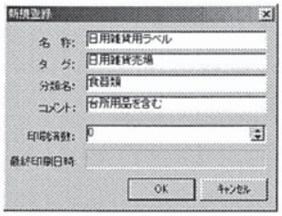


**7** このデザインをラベルライブラリにさらに追加登録します。[ラベルライブラリ]ボタンをクリックします。



**8** [ラベルデータ]の[登録]ボタンをクリックします。

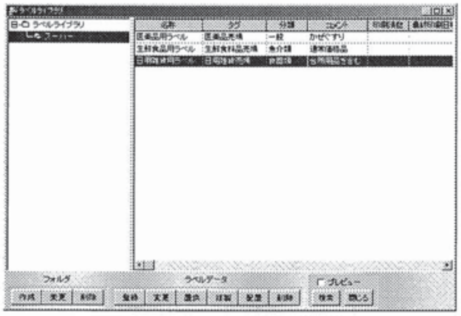
**9** ここでは次のように入力します。




**入力例**

- ・[名　称]　:「日用雑貨用ラベル」
- ・[タ　グ]　:「日用雑貨売場」
- ・[分類名]　:「食器類」
- ・[コメント]:「台所用品含む」

**10** [OK]ボタンをクリックします。ラベルライブラリ画面は図のようになります。



以上で作成したラベルはラベルライブラリとして登録されました。
作成したラベルは閉じておきます。

**11** [ラベルライブラリ]画面の[閉じる]ボタンをクリックします。

**12** デザイン画面で、[ファイル]メニューの[閉じる]を選択し、デザインファイルを閉じます。

## 3 配置データベースを指定しましょう。

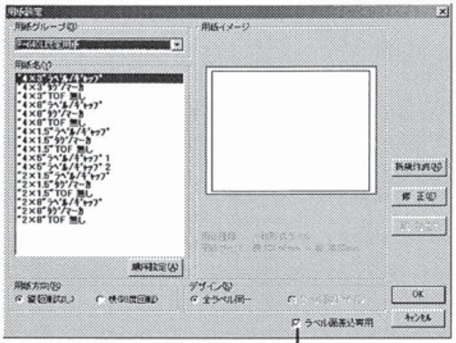
登録されたラベルライブラリを使うために、配置データベースを指定します。

1 デザイン画面の[ファイル]メニューの[新規作成]をクリックします。

2 用紙を選択します。ラベルライブラリに登録してあるデザインと同じ種類の用紙を選択しておきます。

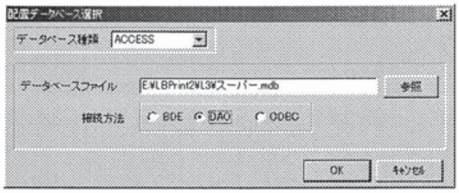
3 [ラベル面差込専用]チェックボックスをチェックします。

4 [OK]ボタンをクリックします。




[ラベル面差込専用]チェックボックス

5 [配置データベース選択]画面が表示されます。作成してあるデータベースを指定します。
[データベース書類]を「ACCESS」とし、[データベースファイル]に「スーパー.mdb」を指定します。

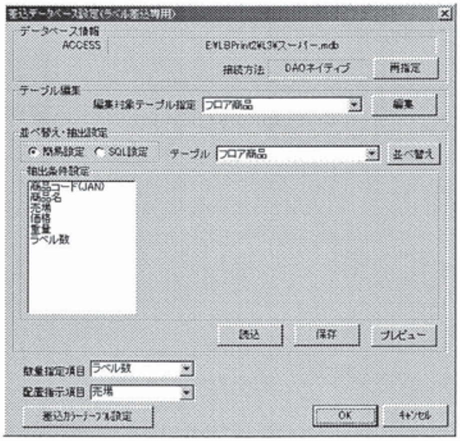



6 [OK]ボタンをクリックします。

7 [差込データベース設定(ラベル差込専用)]画面が表示されます。[数量指定項目]に「ラベル数」を指定します。

8 [配置指示項目]に「売場」を指定します。

9 [OK]ボタンをクリックします。



**10** デザイン画面が表示されます。[シート表示]ボタンをクリックして全体を確認してみましょう。
売場ごとに異なるデザインのラベルが、指定された枚数ずつ表示されています。

このようにラベル面差込専用として用紙を指定すると、ラベルライブラリに登録されているタグの内容を持つデータに対して、自動的にラベルが配置されるようになります。

また、ラベル面差込専用ではなく、通常のデザインラベルとして用紙を指定すると、ラベルライブラリに登録されているデザインを簡単に複写することができますので、さまざまな応用方法が考えられます。

ライブラリの詳細は→151ページ参照

4
章

# 機能編

オブジェクトの入力と編集
オブジェクト関連の機能
ファイル機能
用紙新規作成
ページ数・ラベル数・繰り返し
ラベルライブラリの操作
差込データベースの設定
差込項目のマクロ操作
マクロ編集
編集機能
レイアウトに便利な機能（表示）
文字書式設定機能
その他の機能
バーコードの仕様

# オブジェクトの入力と編集

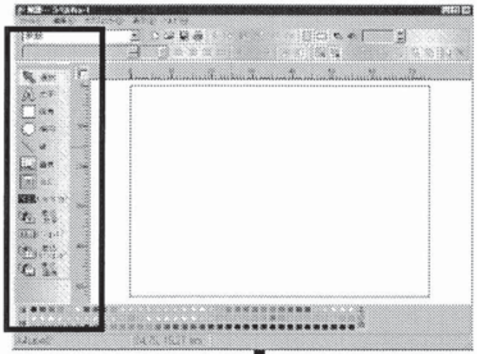
ここでは、オブジェクトについて詳しく説明します。オブジェクトについてもっと詳しく知りたいときや、操作中に分からなくなったときなどにご活用ください。

## オブジェクト入力の基本操作

オブジェクトの入力は、オブジェクトアイコンまたはメニュー項目を選択するところからはじめます。

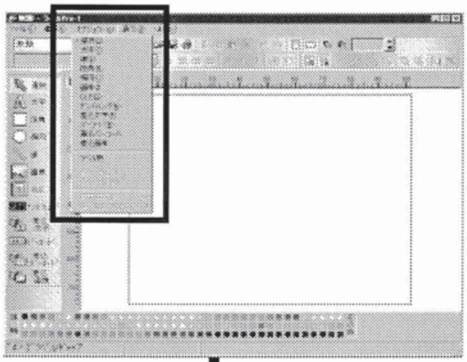
### オブジェクトメニュー・ツールバーから選択

入力したいオブジェクトアイコンをクリックします。



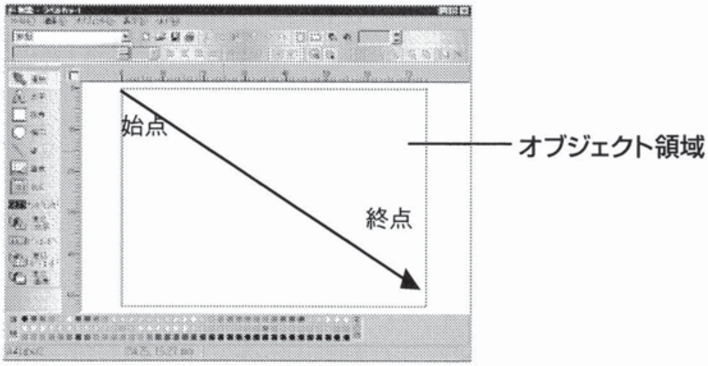
### メニューバーから選択

［オブジェクト］メニューをクリック→入力したいメニュー項目をクリックします。



### オブジェクト範囲指定

マウスの左ボタンを押しながら、ドラッグしてオブジェクト範囲を指定します。



# 文字オブジェクト

## 新規作成

1 デザイン画面で文字アイコンをクリックします。または、メニューバーの［オブジェクト］→［文字］をクリックします。

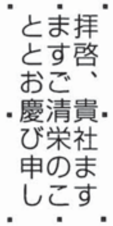
2 オブジェクト領域を範囲指定します。
文字の詳細設定は、次からの「編集」をご参照ください。

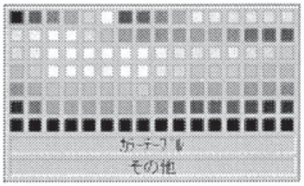
## 編集

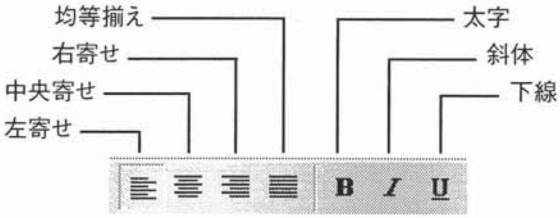
編集したい文字オブジェクトを選択し、ダブルクリックすると、文字設定画面が表示されます。

### 「文字設定」ページ

入力された文字のフォントやサイズ、書式等を設定します。また、オブジェクト枠等の設定も、この「文字設定」で行います。

| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 文字サイズ優先／枠サイズ優先 | **文字サイズ優先**…入力された文字は[サイズ]、[文字幅]、[文字高さ]などで指定した文字サイズが優先されます。指定した文字サイズで文字を作成するときに選択します。<br><br>**枠サイズ優先**…オブジェクト領域にフィットするように、文字サイズが決定されます。 | <br> |
| フォント | 文字のフォントを設定します。<br>フォントには「ひらがな」、「カタカナ」、「漢字」が含まれる日本語用と、「アルファベット」のみの英語他用の2種類があります。<br>英語他用のフォントを選び漢字を入力すると、文字化けをおこし、正しく印字できませんので、ご注意ください。 | |
| サイズ | この設定は[文字サイズ優先]が設定されているときのみ有効です。<br>ここでは、文字のサイズ(フォントサイズ)を設定します。ポイントで文字のサイズを入力してください。ポイントではなくミリやインチ単位でサイズを設定したい場合は後述の「文字幅」、「文字高さ」を参照してください。 | |
| 縦書き | このオプションを設定すると、文字は縦書きで印刷されます。 | <br> |

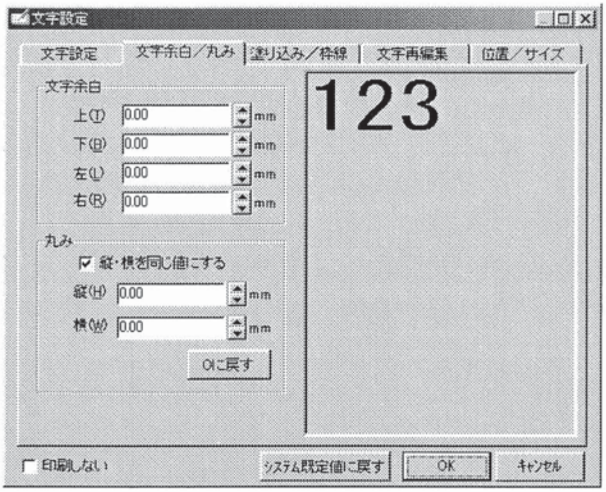
| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 文字幅<br>(「文字サイズ優先」のときのみ有効) | ここでは、文字の幅をミリまたはインチ単位で設定します。<br>たとえばここに、「8」と入力すると文字の幅は8mmになります。インチ単位で指定したい場合は、「8i」のように数字の後ろに「i」を付けて入力してください。自動的に再計算され、数値が置き換えられます。 | |
| 文字高さ<br>(「文字サイズ優先」のときのみ有効) | ここでは、文字の高さを文字幅同様にミリまたはインチ単位で設定します。<br>たとえばここに、「8」と入力すると文字の高さは8mmになります。インチ単位で指定したい場合は、「8i」のように数字の後ろに「i」を付けて入力してください。自動的に再計算され、数値が置き換えられます。 | |
| 文字色 | カラーパレットで、文字の色を変更できます。[カラーテーブル]を選ぶと、色の差し込みオブジェクトを利用することができます。[その他]を選ぶと、さらに詳細に色を設定するための[色]ダイアログボックスが表示されます。 |  |
| 折り返し<br>(「文字サイズ優先」のときのみ有効) | オブジェクト領域内で文字列が自動的に折り返します。<br>また、この[折り返し]機能では、通常行頭には書かれない文字である句読点(「、」や「。」)などが印刷されないように行末禁則処理が自動的に行われます。 | |

| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 長平体禁止<br>(「枠サイズ優先」のときのみ有効) | 文字の形を正体のままにしておくときに設定します。また、[縦書き]オプションがチェックされている場合には、文字が長体にならないようにすることができます。 | 長谷川二郎<br>田中太郎<br>林花子<br>▼<br>長谷川二郎<br>田中太郎<br>林　花　子 |
| 書式 | 下図のボタンをクリックすることで、文字の書式を設定することができます。<br> | |
| | **左寄せ**(「文字サイズ優先」のときのみ有効)<br>オブジェクト領域枠内で、文字列が左に寄ります。 | 田中太郎 |
| | **中央寄せ**(「文字サイズ優先」のときのみ有効)<br>オブジェクト領域枠内で、文字列が左右中央に寄ります。 | 田中太郎 |
| | **右寄せ**(「文字サイズ優先」のときのみ有効)<br>オブジェクト領域枠内で、文字列が右に寄ります。 | 田中太郎 |
| | **均等揃え**(「文字サイズ優先」のときのみ有効)<br>オブジェクト領域枠内で、文字列が左右いっぱいに配置されます。 | 田　中　太　郎 |

| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 書式 | **太字**<br>**B** 文字を太くします。<br><br>**斜体**<br>*I* 文字を斜めにします。<br><br>**下線**<br><u>U</u> 文字の下に線を描きます。<br><br>なお、斜体を設定すると、最後の文字が欠けてしまう場合があります。<br>これは、[枠サイズ優先]に設定した場合によくおこります。後で説明する[文字余白／丸み]タブ画面で、右余白を設定すると補正することができます。 | **田 中 太 郎**<br><br>*田 中 太 郎*<br><br><u>田 中 太 郎</u><br><br>*田 中* |
| 文字間 | 文字と文字の間をmm単位で設定します。<br>文字間の数値をインチ単位で指定した場合は、「0.3i」のように数字の後ろに「i」を付けて入力してください。自動的に再計算され、数値が置き換えられます。 | あ い う<br>mm |
| 行間 | 文字列と文字列の間をmm単位で設定します。<br>文字間の数値をインチ単位で指定した場合は、「0.3i」のように数字の後ろに「i」を付けて入力してください。自動的に再計算され、数値が置き換えられます。 | あいう<br>mm<br>えおか |

| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 回転 | 文字を90度単位で回転します。<br>「90度」、「180度」、「270度」のいずれかを選びます。 | 【0度】<br> <br>【90度】<br> <br>【180度】<br> <br>【270度】<br> |

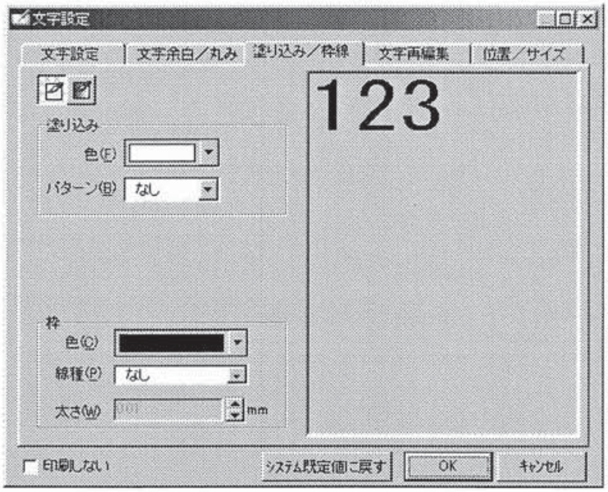
# 「文字余白／丸み」ページ



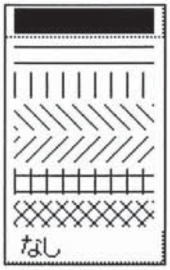

文字の余白、丸み等を設定します。

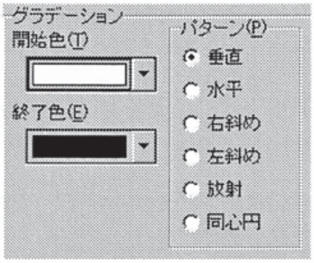
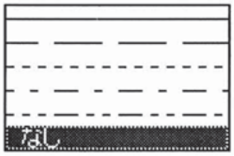
| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 文字余白 | オブジェクト領域枠から文字までの余白をmm単位で設定することができます。<br>余白の数値をインチ単位で指定したい場合は、「0.3i」のように数字の後ろに「i」を付けて入力してください。自動的に再計算され、数値が置き換えられます。 | |
| 丸み | オブジェクトの枠線が設定されているか、塗り込み色が設定されている場合、オブジェクトの枠に丸みがかかります。<br>丸みの設定は、縦・横別々に設定することができますが、[縦・横を同じ値にする]オプションをチェックすると、常に縦と横の値は同じになります。<br>設定した丸みを解除したい場合は、[0に戻す]ボタンをクリックしてます。数値をインチ単位で指定したい場合は、「0.3i」のように数字の後ろに「i」を付けて入力してください。自動的に再計算され、数値が置き換えられます。 | |

## 「塗り込み／枠線」ページ




文字の塗り込みおよび枠線の設定をします。

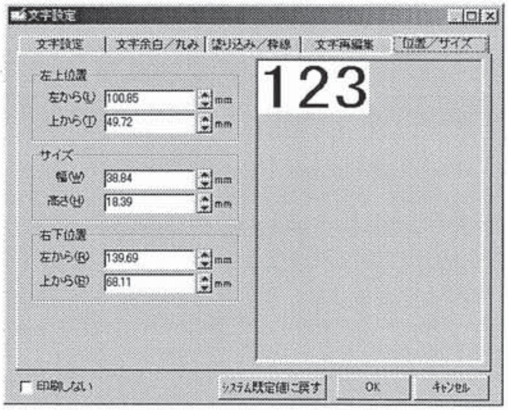
<table>
<tr><th>編集項目</th><th colspan="2">編集内容</th></tr>
<tr><td rowspan="2">塗り込み／<br>枠線</td><td colspan="2">ボタンで塗り込みの方法を選択します。<br> <br></td></tr>
<tr><td>塗り込み<br>オブジェクト領域内を一色で塗りつぶします。また、網掛けを行うこともできます。<br>・色…塗り込み色を選択します。<br>・パターン…網掛けのパターンを選択します。<br>「なし」を選ぶと、塗り込みを行いません。</td><td>塗り込み・パターン<br> <br><br><br><br>一番上の黒パターンを選択すると、[色]で設定された色でベタ塗りします。</td></tr>
</table>

| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 塗り込み／<br>枠線 | **グラデーション**<br>オブジェクト領域内を開始色から終了色までのグラデーションで塗りつぶします。<br>・開始色…グラデーションの開始色を選択します。<br>・終了色…グラデーションの終了色を選択します。<br><br>**パターン**<br>グラデーションの進む方向を選択します。<br>垂直…… 上から下に向かって進む<br>水平…… 左から右に向かって進む<br>右斜め… 左下から右上に向かって進む<br>左斜め… 左上から右下に向かって進む<br>放射…… 中心から外に向かって進む<br>同心円… 中心から外に向かって同心円上に進む | 【グラデーション】<br> <br> |
| | **枠**<br>オブジェクト領域に枠を付けます。次の項目を設定します。<br>・色……枠の色を設定します。<br>ここを[透明]に設定するとオブジェクトの枠は解除されます。<br><br>・線種…線の種類を設定します。<br>実線(一番上の線種)以外を設定すると、「太さ」は自動設定されますので、変更はできません。<br><br>・太さ…線の太さをmm単位で設定します。<br>ポイント単位で指定したい場合は「2p」のように数字の後ろに「p」を入力して下さい。自動的に再計算され数値が置き換えられます。 | <br>【線種の種類】<br><br>最後の[なし]を設定すると、オブジェクトの枠は解除されます。 |

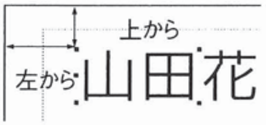
## 「文字再編集」ページ

ここでは、1文字単位で文字列を再編集することができます。入力した文字オブジェクトをクリックすることで再入力ができるようになりますが、この画面でも同様に入力編集が行えます。

## 「位置／サイズ」ページ




ここでは、オブジェクトの位置やサイズを数値で設定することができます。次の項目を設定します。

| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 左上位置 | 用紙の左上からの距離で、オブジェクト位置をmm単位で指定することができます。インチ単位で設定したい場合は「5i」のように後ろに「i」を付けて入力して下さい。自動的に再計算され数値が置き換えられます。「p」を付けるとポイント単位での設定もできます。 |  |
| サイズ | オブジェクト領域の高さと幅をmm単位で指定することができます。インチ単位で設定したい場合は「5i」のように後ろに「i」を付けて入力して下さい。自動的に再計算され数値が置き換えられます。「p」を付けるとポイント単位での設定もできます。なお、この数値を変更すると、[右下位置]は左上位置とサイズから自動的に計算され、数値がセットされます。 | |
| 右下位置 | 用紙の左上からの距離で、オブジェクトの右下の位置をmm単位で指定することができます。<br>インチ単位で設定したい場合は「5i」のように後ろに「i」を付けて入力して下さい。自動的に再計算され数値が置き換えられます。「p」を付けるとポイント単位での設定もできます。この数値を変更すると、[サイズ]は左上位置と右下位置から自動的に計算され、数値がセットされます。 | |

## その他の項目

そのほかに、次の項目があります。必要に応じて設定してください。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 印刷しない | このオプションを設定すると、オブジェクトはデザイン画面では表示されますが、印刷は行われません。 |
| システム既定値に戻す | このボタンをクリックすると、設定した内容を破棄し、すべての項目の内容をシステムの既定値に戻します。 |

# 四角オブジェクト

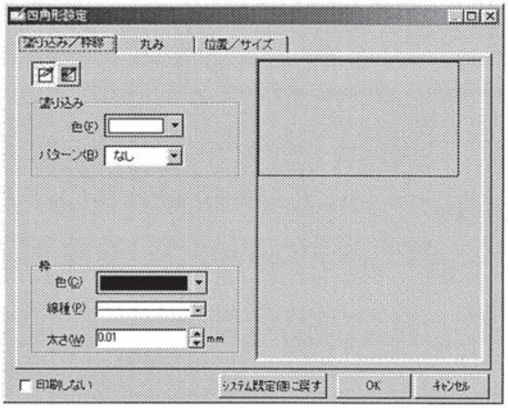
## 新規作成

1. デザイン画面で、四角アイコンをクリックします。または、メニューバーの［オブジェクト］→［四角］とクリックします。
2. オブジェクト領域を範囲指定します。四角の詳細設定は、次からの「編集」をご参照ください。

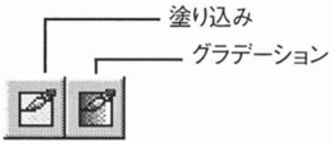
## 編集

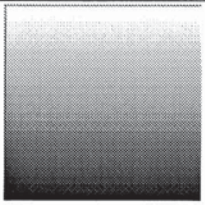
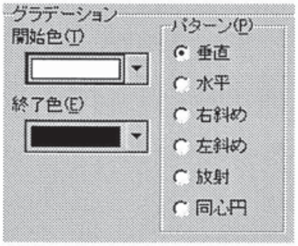
四角オブジェクトを選択し、ダブルクリックすると、四角形設定画面が表示されます。

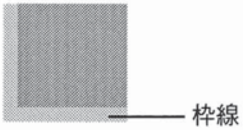
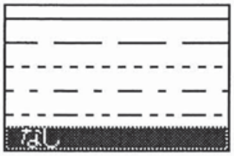
### 「塗り込み／枠線」ページ



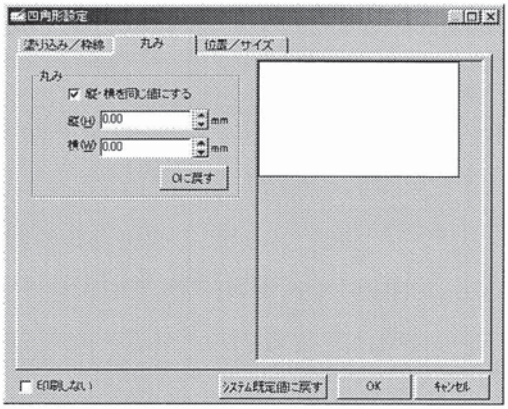

四角オブジェクト内部の塗り込み処理や枠線・囲み線の設定をします。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 塗り込み | 下図ボタンで塗り込みの方法を選択します。<br><br> |

| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 塗り込み(つづき) | **塗り込み**<br>オブジェクト領域内を一色で塗りつぶします。また、網掛けを行うこともできます。<br>・色…塗り込み色を選択します。<br>・パターン…網掛けのパターンを選択します。「なし」を選ぶと、塗り込みを行いません。 | 塗り込み・パターン<br> <br><br>一番上の黒パターンを選択すると、[色]で設定された色でベタ塗りします。 |
| | **グラデーション**<br>オブジェクト領域内を開始色から終了色までのグラデーションで塗りつぶします。<br>・開始色…グラデーションの開始色を選択します。<br>・終了色…グラデーションの終了色を選択します。<br>・パターン…グラデーションの進む方向を選択します。<br>垂直…… 上から下に向かって進む<br>水平…… 左から右に向かって進む<br>右斜め… 左下から右上に向かって進む<br>左斜め… 左上から右下に向かって進む<br>放射…… 中心から外に向かって進む<br>同心円… 中心から外に向かって同心円上に進む | <br><br> |
| 枠線 | **枠**<br>オブジェクト領域に枠を付けます。次の項目を設定します。<br>・色……枠の色を設定します。[透明]に設定するとオブジェクトの枠は解除されます。 | |

| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 枠線（つづき） | ・色……枠の色を設定します。<br>ここを[透明]に設定するとオブジェクトの枠は解除されます。<br>・線種…線の種類を設定します。<br>最後の[なし]を設定すると、オブジェクトの枠は解除されます。<br>実線(一番上の線種)以外を設定すると、「太さ」はプ自動設定されますので、変更はできません。<br>・太さ…線の太さを設定します。<br>ポイント単位で指定したい場合は「2p」のように数字の後ろに「p」を入力して下さい。自動的に再計算され数値が置き換えられます。 | <br><br>【線種の種類】<br><br><br>最後の[なし]を設定すると、オブジェクトの枠は解除されます。 |

## 「丸み」ページ

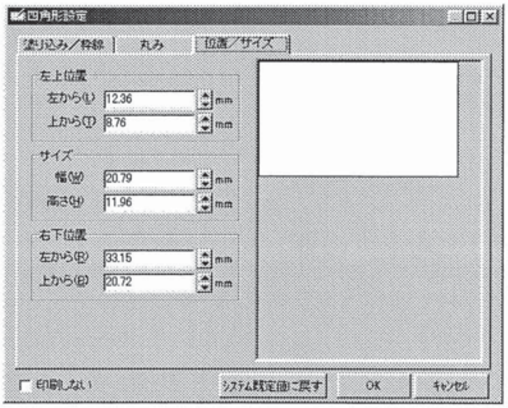



四角オブジェクトの四隅に丸みをつけます。

| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 丸み | オブジェクトの枠線が設定されているか、塗り込み色が設定されている場合に、オブジェクトの四隅に丸みがかかります。<br>この丸みの設定は、縦・横別々に設定することができますが、オプションである[縦・横を同じ値にする]チェックボックスをチェック | |

| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 丸み（つづき） | すると、常に縦と横の値は同じになります。設定した丸みを解除したい場合は、[0に戻す]ボタンをクリックします。<br><br>インチ単位で指定したい場合は、「0.3i」のように数字の後ろに「i」を付けて入力してください。自動的に再計算され数値が置き換えられます。 | |

## 「位置／サイズ」ページ




ここでは、オブジェクトの位置やサイズを数値で設定することができます。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 左上位置 | 「文字オブジェクト 位置／サイズ」をご覧ください。 →91ページ参照 |
| サイズ | 「文字オブジェクト 位置／サイズ」をご覧ください。 →91ページ参照 |
| 右下位置 | 「文字オブジェクト 位置／サイズ」をご覧ください。 →91ページ参照 |

## その他の項目

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 印刷しない | 「文字オブジェクト その他の項目」をご覧ください。→91ページ参照 |
| システム既定値に戻す | 「文字オブジェクト その他の項目」をご覧ください。→91ページ参照 |

# 楕円オブジェクト

## 新規作成

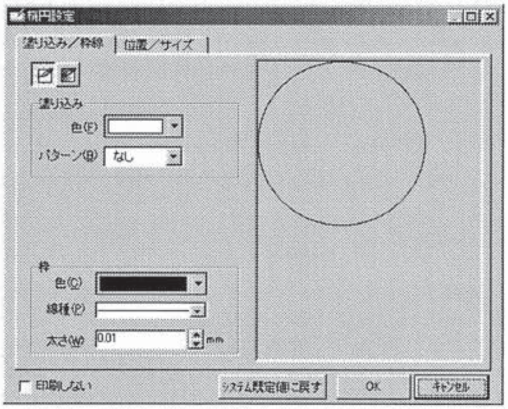
**1** デザイン画面で、楕円アイコンをクリックします。
または、メニューバーの［オブジェクト］→［楕円］をクリックします。

**2** オブジェクト領域を範囲指定します。
楕円の詳細設定は、次からの「編集」をご参照ください。

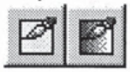
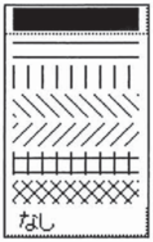
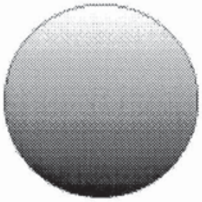
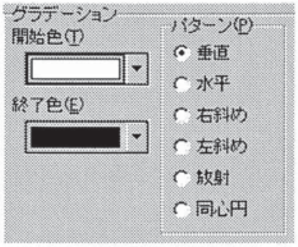
## 編集

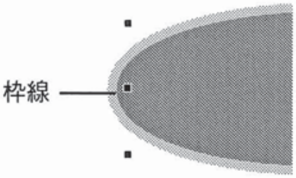
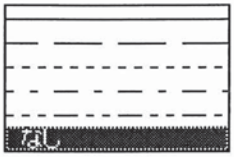
楕円オブジェクトを選択し、ダブルクリックすると、楕円設定画面が表示されます。

### 「塗り込み／枠線」ページ

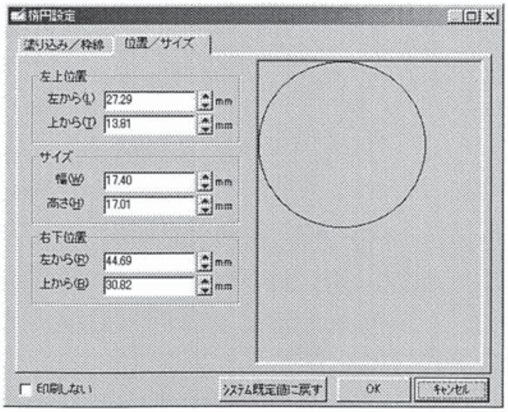



楕円オブジェクト内部の塗り込み処理や、枠線・囲み線の設定をします。

<table>
<tr><th>編集項目</th><th colspan="2">編集内容</th></tr>
<tr><td rowspan="3">塗り込み／<br>枠線</td><td colspan="2">ボタンで塗り込みの方法を選択します。<br>塗り込み　グラデーション<br></td></tr>
<tr><td>塗り込み<br>オブジェクト領域内を一色で塗りつぶします。また、網掛けを行うこともできます。<br>・色…塗り込み色を選択します。<br>・パターン…網掛けのパターンを選択します。<br>「なし」を選ぶと、塗り込みを行いません。</td><td>塗り込み・パターン<br> <br><br><br>一番上の黒パターンを選択すると、[色]で設定された色でベタ塗りします。</td></tr>
<tr><td>グラデーション<br>オブジェクト領域内を開始色から終了色までのグラデーションで塗りつぶします。<br>・開始色…グラデーションの開始色を選択します。<br>・終了色…グラデーションの終了色を選択します。<br>・パターン…グラデーションの進む方向を選択します。<br>垂直……　上から下に向かって進む<br>水平……　左から右に向かって進む<br>右斜め…　左下から右上に向かって進む<br>左斜め…　左上から右下に向かって進む<br>放射……　中心から外に向かって進む<br>同心円…　中心から外に向かって同心円上に進む</td><td><br><br></td></tr>
</table>

| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 塗り込み／<br>枠線 | 枠<br>オブジェクト領域に枠を付けます。<br>・色……枠の色を設定します。<br>ここを[透明]に設定するとオブジェクトの枠は解除されます。<br><br>・線種…線の種類を設定します。<br>最後の[なし]を設定すると、オブジェクトの枠は解除されます。<br>実線(一番上の線種)以外を設定すると、次の「太さ」はプリンタが印刷できる最も細い線に自動設定されますので、変更はできません。<br><br>・太さ…線の太さを設定します。<br>ここで、1mmを設定する場合は「1」と入力してください。ポイント単位で指定したい場合は「2p」のように数字の後ろに「p」を入力して下さい。自動的に再計算され数値が置き換えられます。 | <br>【線種の種類】<br><br>最後の[なし]を設定すると、オブジェクトの枠は解除されます。 |

# 「位置／サイズ」ページ




楕円オブジェクトの位置やサイズを数値で設定することができます。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 左上位置 | 「文字オブジェクト 位置／サイズ」をご覧ください。 →91ページ参照 |
| サイズ | 「文字オブジェクト 位置／サイズ」をご覧ください。 →91ページ参照 |
| 右下位置 | 「文字オブジェクト 位置／サイズ」をご覧ください。 →91ページ参照 |

# その他の項目

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 印刷しない | 「文字オブジェクト その他の項目」をご覧ください。→91ページ参照 |
| システム既定値に戻す | 「文字オブジェクト その他の項目」をご覧ください。→91ページ参照 |

# 線オブジェクト

## 新規作成

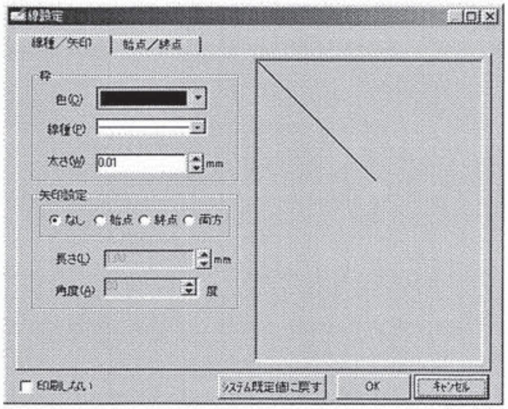
**1** デザイン画面で、線アイコンをクリックします。
または、メニューバーの［オブジェクト］→［線］をクリックします。

**2** オブジェクト領域を範囲指定します。
線の詳細設定は、次からの「編集」をご参照ください。

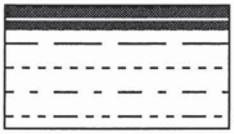
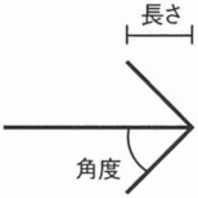
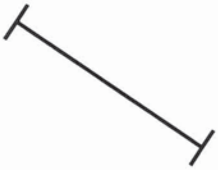
## 編集

編集したい線オブジェクトを選択し、マウスをダブルクリックすると、線設定画面が表示されます。

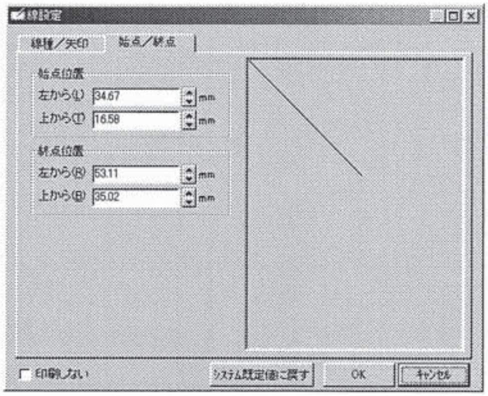
### 「線種／矢印」ページ



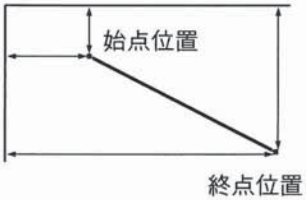

線オブジェクトの線種・色・大きさの設定、また矢印の形状の設定をします。

| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 線種 / 矢印 | **枠**<br>線(枠)の色、種類、太さを設定します。<br>・色……線の色を設定します。<br>・線種…線の種類を設定します。<br>実線(一番上の線種)以外を設定すると、[太さ]は自動設定されますので、変更はできません。<br>・太さ…線の太さを設定します。<br>ここで、1mmを設定する場合は「1」と入力してください。また、ポイント単位で指定したい場合は「2p」のように後ろに「p」を入力して下さい。自動的に再計算され数値が置き換えられます。 | 【線種の種類】<br><br>最後の[なし]を設定すると、オブジェクトの枠は解除されます。 |
| | **矢印設定**<br>線に矢印を付けるための設定ができます。<br>・なし…矢印はつけません。<br>・始点…線の始点に矢印をつけます。<br>・終点…線の終点に矢印をつけます。<br>・両方…線の始点と終点の両方に矢印をつけます。<br>・長さ…矢印の長さをmm単位で設定します。<br>ポイント単位で指定したい場合は「2p」のように後ろに「p」を入力して下さい。自動的に再計算され数値が置き換えられます。<br>・角度…矢印の角度を設定します。値を小さくすると線と平行に近づき、逆に値を大きくすると線との角度が広がってゆきます。<br>たとえば、ここに90度を設定すると、右図のように寸法線として使うこともできます。 | <br><br> |

## 「始点／終点」ページ




ここでは、線の始点と終点を数値で設定できます。

| 編集項目 | 編集内容 | |
|---|---|---|
| 始点／終点 | **始点位置**<br>用紙の左上からの距離で、オブジェクトの始点の位置をmm単位で指定することができます。インチ単位で設定したい場合は「5i」のように後ろに「i」を付けて入力して下さい。自動的に再計算され数値が置き換えられます。同様に「p」を付けるとポイント単位での設定もできます。 |  |
| | **終点位置**<br>用紙の左上からの距離で、オブジェクトの終点の位置をmm単位で指定することができますインチ単位で設定したい場合は「5i」のように後ろに「i」を付けて入力して下さい。自動的に再計算され数値が置き換えられます。同様に「p」を付けるとポイント単位での設定もできます。 | |

## その他の項目

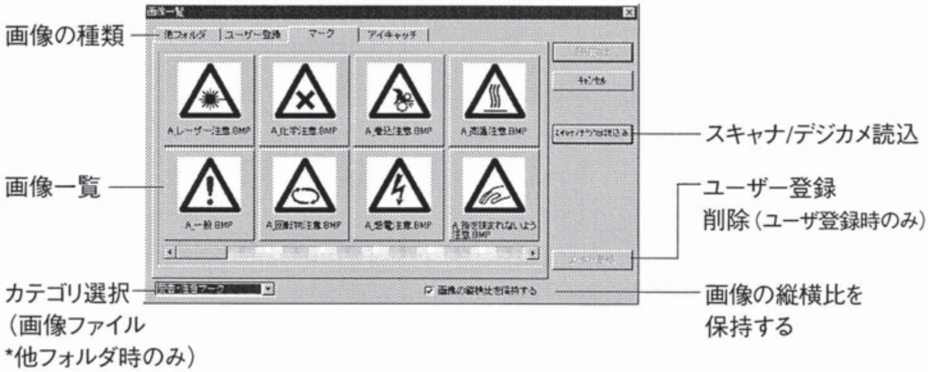
| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 印刷しない | 「文字オブジェクト　その他の項目」をご覧ください。→91ページ参照 |
| システム既定値に戻す | 「文字オブジェクト　その他の項目」をご覧ください。→91ページ参照 |

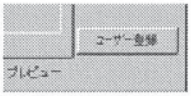
# 画像オブジェクト

## 新規作成

**1** デザイン画面で、画像アイコンをクリックします。
または、メニューバーの［オブジェクト］→［画像］をクリックします。

**2** オブジェクト領域を範囲指定します。
［画像一覧］画面が表示されますので、画像の選択を行います。
画像を選択した後、［OK］ボタンをクリックします。



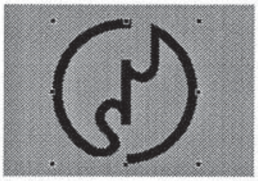

| 選択項目 | 内　容 |
|---|---|
| 画像の種類／<br>画像一覧／<br>カテゴリ選択 | ・他フォルダ … フォルダを指定し、画像ファイルを表示して選択します。<br>・ユーザー登録 … 予めユーザーが登録したオリジナル画像を選択します。<br>※画像の保存先　環境設定→141ページ参照<br>・マーク …… ［画像の種類］を選択し、［カテゴリ選択］を行い、［画像一覧］から目的の画像を選択します。画像の種類は付録の画像一覧を参照してください。※付録D.1マーク一覧→付録D33ページ参照<br>・アイキャッチ … ※付録D.2アイキャッチ一覧→付録D40ページ参照 |
| スキャナ／<br>デジカメ読込 | スキャナ･デジタルカメラから画像を取り込む際に、TWAINドライバを起動させます。→106ページ参照 |
| 画像の縦横比を<br>保持する | 画像の縦横比を保持して貼り付けます。 |
| ユーザー登録 | ユーザー独自のオリジナル画像を、画像一覧として登録します。［他フォルダ］で目的の画像を選択し、［ユーザー登録］ボタンをクリックします。［ユーザー登録］内に保存されます。  |
| 削除 | ユーザー登録の画像一覧から削除する画像を選択し、［削除］ボタンをクリックします。 |

## 編集

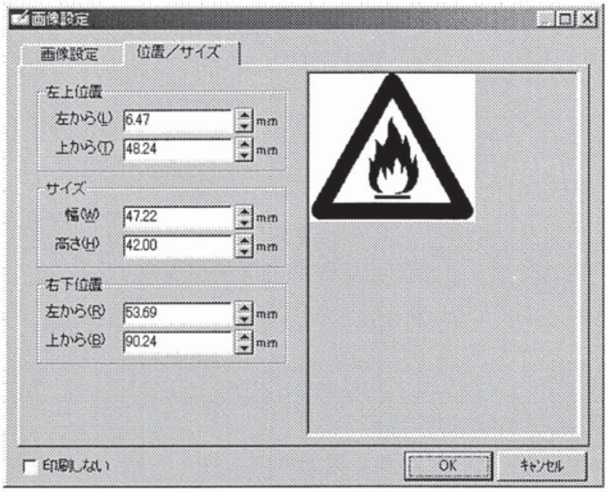
編集したい画像オブジェクトを選択しダブルクリックすると、画像設定画面が表示されます。

### 「画像設定」ページ

画像オブジェクトの状態および保存・変更を行います。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 背景色を透明にする | 画像オブジェクト枠の四隅の色を透明にすることができます。たとえば、赤色で塗りつぶした四角の上に画像を配置したときに、画像の図柄以外の部分が透過され、赤色になります。  |
| 縦横比を保持する | 画像の縦横の比率を崩さないように、オブジェクト枠を固定することができます。 |
| ファイルに保存 | 読み込んだ画像を保存することができます。 |
| 画像の選択 | 画像を変更することができます。 |

## 「位置／サイズ」ページ




ここでは、オブジェクトの位置やサイズを数値で設定することができます。
次の項目を設定します。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 左上位置 | 「文字オブジェクト 位置／サイズ」をご覧ください。 →91ページ参照 |
| サイズ | 「文字オブジェクト 位置／サイズ」をご覧ください。 →91ページ参照 |
| 右下位置 | 「文字オブジェクト 位置／サイズ」をご覧ください。 →91ページ参照 |

## その他の項目

そのほかに、次の項目があります。

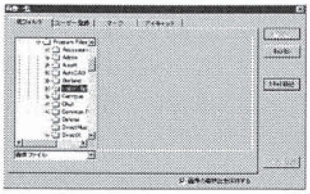
| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 印刷しない | 「文字オブジェクト その他の項目」をご覧ください。→91ページ参照 |

## スキャナ、デジタルカメラから画像を取り込むには

「ラベルPro-1」は、「TWAIN対応ドライバ」に対応していますので、この規格に対応したスキャナまたデジタルカメラから直接、画像を取り込みことができます。

TWAIN対応機器に関するお問合せは、各社サポートセンターにお問い合わせください。

新規作成、または画像変更のときに表示されます。
「画像一覧」画面で[スキャナ読込]をクリックします。

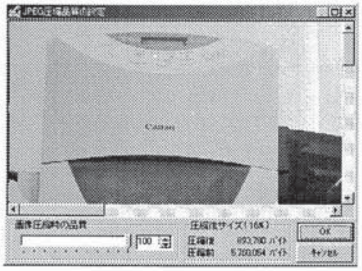


使用する入力機器のドライバを選択します。
ここでは、TWAIN対応デジタルカメラ「CANON IXY DEGITAL USB」を例とします。

[読込]をクリックします。
しばらくすると、選択した入力機器のドライバが起動します。各メーカーのドライバ使用方法にしたがって設定を行い、読込を完了させてください。

読込が終了すると、画面に画像が表示されます。

出力形式を選択します。
JPEGを選択するときに、[品質プレビュー]をクリックして圧縮率の画像品質を確認できます。



**注 意**

「TWAIN規格」に対応していないスキャナ、またはデジタルカメラの画像は読み込めません。
スキャナの場合、解像度を高く設定して画像を読み込むと、ファイルサイズが極端に大きくなり、読込作業時や貼り付け作業時に著しく処理速度が低下することがあります。読み込みの際にファィルサイズを確認しながら解像度などの設定を行ってください(5MB程度。ただし、環境によっても異なります)

# OLEオブジェクト

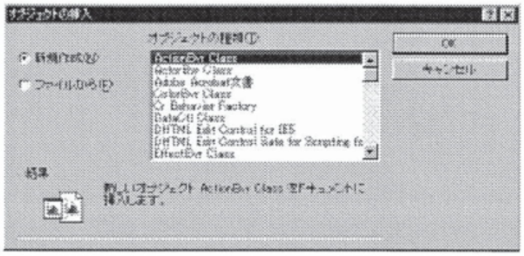
OLEとは、複数のアプリケーションの間でそれぞれのデータを共有しあうためのWindowsの標準機能です。OLE機能を使用すれば、他のアプリケーションをその場で起動させて図形描画や文書作成、表計算などを行うことができます。作成したデータは、そのまま「ラベルPro-1」のオブジェクト領域に取り込むことができます。



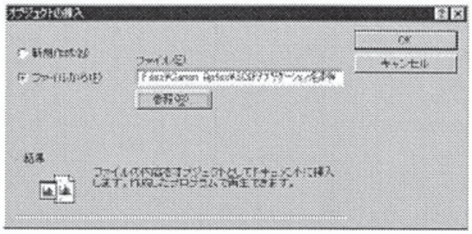
## 新規作成

**1** メニューバーの［オブジェクト］→［OLE］とクリックします。

**2** オブジェクト領域を範囲指定します。



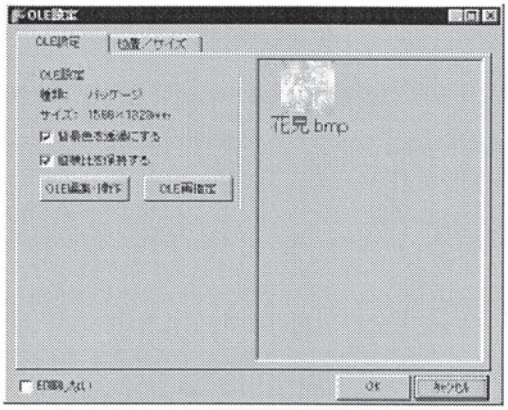
| 編集項目 | |
|---|---|
| 新規作成 | ①アプリケーションを選択します。「オブジェクトの種類」で表示されている内容が、そのパソコンで作成できるデータとなります。<br>②[OK]をクリックすると、アプリケーションが起動し、その場で図形を描画することができます。アプリケーションを終了すると、描いた図がオブジェクト領域に貼り付きます。<br>すでにアプリケーションを起動し、文書やワークシートなどを編集していた場合、OLEオブジェクトを新規作成すると、新たにそのアプリケーションが起動せずに、すでに起動しているアプリケーションの中にあらたな文書やワークシートが生成される場合があります。これはそのアプリケーションがMDIアプリケーション(*1)である場合に起こります。このようなアプリケーションでは前述のようにアプリケーションを閉じてしまうと、先に編集していた文書を失う可能性があります。このようなアプリケーションでは、アプリケーションを閉じるのではなく、その文書やワークシートを閉じる操作を行ってください。また、アプリケーションまたは文書やワークシートを閉じる操作では、OLEオブジェクトが貼り付かないアプリケーションもいくつかあります。そのようなアプリケーションでは「ﾘﾝｸ先の更新」や「ｵﾌﾞｼﾞｪｸﾄの更新」などの名前のメニューがあり、これを選択することで貼り付けを行う場合がありますのでご注意ください。<br>(*1) "マルチドキュメントインターフェイス"の略。ひとつのアプリケーションで同時に複数の文書やワークシートを開くことができるアプリケーションをいいます。 |

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| ファイルから | 既存のデータファイルを選択することができます。<br>①「ファイルから」をクリックすると、次の画面が表示されます。<br><br>※[参照]をクリックすると、そのパソコンに保存されているファイルを見ることができます。例えば、拡張子が「.DOC」のファイルを指定し、[OK]をクリックすると、指定したMicrosoft Wordの文書ファイルが貼り付けられます。<br>②「OK」ボタンをクリックします。オブジェクトが貼り付きます。 |

## 編集

編集したいOLEオブジェクトを選択し、[プロパティ] をクリックすると、OLE 設定画面が表示されます。

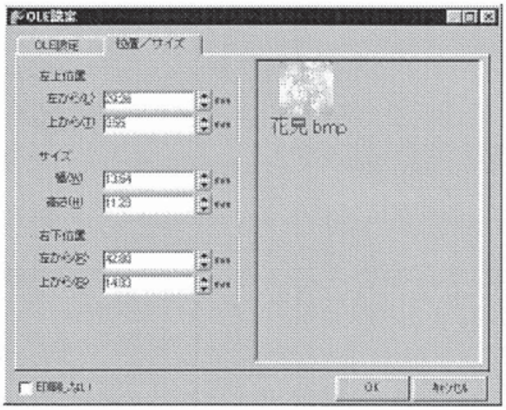
### 「OLE 設定」ページ



| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 背景色を透過する | 貼り付けたOLEオブジェクトに背景がある場合は、この背景を透過することでができます。 |

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 縦横比を保持する | OLEオブジェクトの縦・横の比率が常に固定されます。<br>オブジェクトを拡大・縮小するときに、縦・横の比率が変わることなく、拡大・縮小されます。 |
| OLE 編集・操作 | このボタンをクリックすると、選択されているOLEオブジェクトに対して行える操作の一覧が表示されます。例えば、Microsoftペイントでは、「編集」と「開く」の2つの操作が選択できます。この場合、「編集」「開く」いずれをクリックしても、Microsoftペイントが起動し、図を再編集することができます。<br>OLEオブジェクトとOLEサーバーの仕組みは複雑なため、Windowsの規定している機能を完全に網羅していないものがあります。このようなアプリケーションからOLEオブジェクトを取り込もうとするとエラーが発生して、せっかく編集したデザインが失われしまうこともあります。はじめて使用するOLEオブジェクトを貼り付ける場合には、必ず保存してから実行してください。 |
| OLE 再指定 | このボタンをクリックすると、新規作成時と同様にOLEオブジェクトを選択する画面が表示され、OLEオブジェクトを再指定することができます。 |

## 「位置／サイズ」ページ



オブジェクトの位置やサイズを数値指定で変更することができます。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 左上位置 | 「文字オブジェクト 位置／サイズ」をご覧ください。 →91ページ参照 |
| サイズ | 「文字オブジェクト 位置／サイズ」をご覧ください。 →91ページ参照 |
| 右下位置 | 「文字オブジェクト 位置／サイズ」をご覧ください。 →91ページ参照 |

## その他の項目

| 編集項目 | 編集内容 |
| --- | --- |
| 印刷しない | 「文字オブジェクト　その他の項目」をご覧ください。→91ページ参照 |

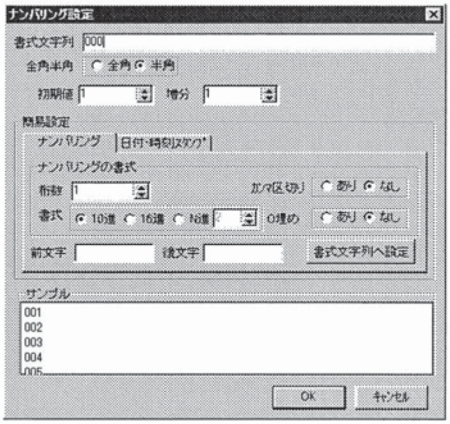
# ナンバリングオブジェクト

## 新規作成

**1** デザイン画面で、ナンバリングアイコンをクリックします。
または、メニューバーの［オブジェクト］→［ナンバリング］をクリックします。

**2** オブジェクト領域を範囲指定します。
ナンバリングを細かく設定したい場合は、「編集」をご参照ください。

**3** [ナンバリング設定]が表示されます。
最初にナンバリング文字の設定を行います。




| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 書式文字列 | ナンバリングの書式を入力します。<br>書式に使用できる文字の意味は次の通りです。 |
| # | 必要な桁数分この文字を記入することで、任意桁数の数字を表現します。 |
| 0 | 必要な桁数分この文字を記入することで、任意桁数の数字を表現します。<br>数値の長さがこの　桁数に満たない場合、先頭から必要数分の"0"を補充します。 |
| : | 時刻の区切り記号です。オペレーティング システムの国別情報の設定によっては、 |

第4章 機能編 リファレンス

| 編集項目 | 編集内容 |
| --- | --- |
| | 時刻の区切り記号として他の記号が使用されることがあります。時刻を時間、分、秒で区切ることができます。変換後の時刻の区切り記号は、コントロール パネルの設定によって決まります。 |
| / | 日付の区切り記号です。オペレーティング システムの国別情報の設定によっては、他の記号が使用されることがあります。日付を年、月、日で区切ることができます。変換後の区切り記号は、コントロール パネルの設定によって決まります。 |
| c | ddddd および t t t t t の書式で表した日付と時刻を、日付、時刻の順で表現します。指定された値に小数部がない場合には日付のみ、整数部がない場合には時刻のみを表す文字列を表現します。 |
| d | 日付を表現します。1 桁の場合も先頭に 0 は付きません (1 ～ 31)。 |
| d d | 日付を表現します。1 桁の場合には先頭に 0 が付きます (01 ～ 31)。 |
| d d d | 曜日を英語 (省略形) で表現します (Sun ～ Sat)。 |
| a a a | 曜日を日本語 (省略形) で表現します (日～土)。 |
| d d d d | 曜日を英語で表現します (Sunday ～ Saturday)。 |
| a a a a | 曜日を日本語で表現します (日曜日～土曜日)。 |
| d d d d d | 年、月、日を含む短い形式 (コントロール パネルで設定) で表した日付を表現します。Microsoft Windows の既定の短い日付形式は、m/d/yy です。 |
| d d d d d d | 年、月、日を含む長い形式 (コントロール パネルで設定) で表した日付を表現します。Microsoft Windows の既定の長い日付形式は mmmm dd, yyyy です。 |
| w | 曜日を示す数値を表現します (日曜日が 1、土曜日が 7 となります)。 |
| w w | その日が一年のうちの何週めであるかを示す数値を表現します (1 ～ 53)。 |
| m | 月を示す数値を表現します。1 桁の場合も先頭に 0 は付きません (1 ～ 12)。ただし、h や hh の直後に m を指定した場合には、月ではなく分と解釈されます。 |
| mm | 月を示す数値を表現します。1 桁の場合には先頭に 0 が付きます (01 ～ 12)。ただし、h や hh の直後に m を指定した場合には、月ではなく分と解釈されます。 |
| mmm | 月の名前を英語 (省略形) の文字列に変換します (Jan ～ Dec)。 |
| mmmm | 月の名前を英語で表現します (January ～ December)。 |
| q | 1 年のうちの何番めの四半期に属するかを示す数値を表現します (1 ～ 4)。 |
| g | 年号の先頭の 1 文字を漢字で表現します (明、大、昭、平)。 |
| g g | 年号を表現します (明治、大正、昭和、平成)。 |
| e | 年号に基づく和暦の年を表現します。1 桁の場合も先頭に 0 は付きません。 |
| e e | 年号に基づく和暦の年を 2 桁の数値を使って表現します。1 桁の場合には先頭に 0 が付きます。 |

| | |
|---|---|
| y | 1年のうちの何日めかを数値で表現します (1 ～ 366)。 |
| y y | 西暦の年を下 2 桁の数値で表現します (00 ～ 99)。 |
| y y y y | 西暦の年を 4 桁の数値で表現します (100 ～ 9999)。 |
| h | 時間を表現します。1 桁の場合も先頭に 0 は付きません (0 ～ 23)。 |
| hh | 時間を表現します。1 桁の場合には先頭に 0 が付きます (00 ～ 23)。 |
| n | 分を表現します。1 桁の場合も先頭に 0 は付きません (0 ～ 59)。 |
| nn | 分を表現します。1 桁の場合には先頭に 0 が付きます (00 ～ 59)。 |
| s | 秒を表現します。1 桁の場合も先頭に 0 は付きません (0 ～ 59)。 |
| ss | 秒を表現します。1 桁の場合には先頭に 0 が付きます (00 ～ 59)。 |
| t t t t t | コントロール パネルで設定されている形式で時刻を表現します。先頭に 0 を付けるオプションが選択されている場合、時刻が午前もしくは午後 10 時より前のときは、先頭に 0 が付きます。Microsoft Windows の既定の形式は、h:mm:ss です。 |
| AM／PM | 時刻が正午より前の場合は大文字で AM を、正午～午後 11 時 59 分の間は大文字で PM を表現します。 |
| am／pm | 時刻が正午より前の場合は小文字で am を、正午～午後 11 時 59 分の間は小文字で pm を表現します。 |
| A／P | 時刻が正午より前の場合は大文字で A を、正午～午後 11 時 59 分の間は大文字で P を表現します。 |
| a／p | 時刻が正午より前の場合は小文字で a を、正午～午後 11 時 59 分の間は小文字で p を表現します。 |
| AMPM | "12 時間制" を選択しているとき、時刻が正午より前の場合は午前を表す文字列を、正午～午後11時 59 分の間は午後を表す文字列を表現します。これらの文字列の設定および "12 時間制" の選択は、コントロール パネルで行います。AMPM は大文字、小文字のどちらで指定してもかまいません。Microsoft Windowsの既定の形式は、AM/PM です。 |
| その他 | 任意の文字を設定できます。上記の文字と重なる場合は "y" というように、「"」で囲んでください。 |

**サンプル**

●書式文字列入力例

| "MC" | yy | m | d | h | n | s | A/P |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| その他 | 西暦 下2桁 | 月 1桁 | 日付 1桁 | 時間 1桁 | 分 1桁 | 秒 1桁 | 午前/午後 |

↓

●ナンバリング例

MC00713111925A

[2000/7/13(午前11時19分25秒)]

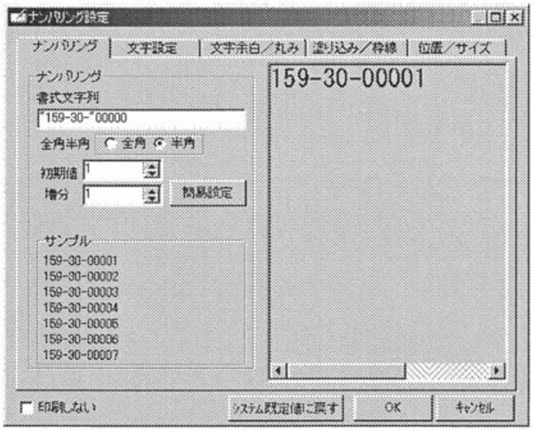
第4章 機能編 リファレンス

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 全角／半角 | ナンバリングの文字を全角で印刷するか、半角で印刷するかを選びます。 |
| 初期値 | ナンバリングの番号を自動採番するときに、最初の数値を指定します。通常は1です。<br>このオブジェクトがラベルライブラリに登録されていたり、差込データベースが指定されている（差込印刷状態である）場合には、ナンバリング番号はシステムによって管理されています。システムが管理している番号が120の場合、ここに2を設定すると、最初に印刷されるカード面のナンバリングオブジェクトの番号は、121となります。<br>詳しくは機能リファレンスの「【ファイルメニュー】印刷」、「【ファイルメニュー】ラベルライブラリ」を参照してください。 |
| 増分 | ナンバリングの番号を自動採番するときに、番号の増分を指定します。通常は1です。<br>たとえば10を設定すると、1、11、21、31と自動採番されます。 |
| 簡易設定 | ここでは、書式文字列を簡単に設定することができます。<br>**ナンバリング**<br>・桁数 ･･････････ ナンバリングの桁数を入力します。<br>・カンマ区切 ････ ナンバリングの数値を3桁ごとに区切るかどうかを選びます。<br>・書式 ･･････････ 10進,16進,N進のうち、いずれかを選びます。N進は2～9進までの間で選ぶことができます。<br>・0埋め ･････････ 桁数にナンバリングの数値が満たない場合0で埋めます。<br>**日付・時刻スタンプ**<br>印刷日付、印刷時刻の書式をリストから選びます。<br>**前文字・後文字**<br>ナンバリングの前後に印刷する文字を入力します。<br><br>これらの項目を設定して、[書式文字列へ設定]ボタンをクリックすると、設定した内容に従って、その書式文字列がセットされます。<br>これらの項目を入力・操作し、書式文字列が設定できたら、[OK]ボタンをクリックします。 |

## 編集

編集したいナンバリングオブジェクトを選択し、ダブルクリックすると、ナンバリング設定画面が表示されます。

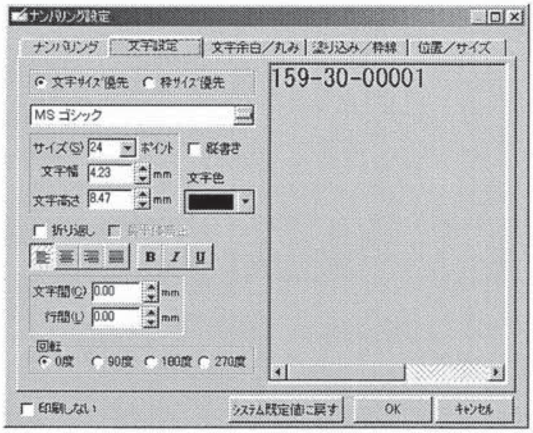
### 「ナンバリング」ページ




既存のナンバリングオブジェクトの文字列および値を変更します。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 書式文字列 | ナンバリングの書式を入力します。<br>書式に使用できる文字の意味は、前項の「書式文字一覧表」をご参照ください。 |
| 全角半角 | ナンバリングの文字を全角で印刷するか、半角で印刷するかを選択します。 |
| 初期値 | ナンバリング番号を自動採番するときに、最初の数値を指定します。通常は1です。 |
| 増分 | ナンバリング番号を自動採番するときに、番号の増分を指定します。通常は1です。 |
| 簡易設定 | このボタンをクリックすると、作成時に表示される[ナンバリング設定]画面が表示されます。ナンバリングの書式について、くわしくは前項の「ナンバリングの書式を設定する」を参照して下さい。 |

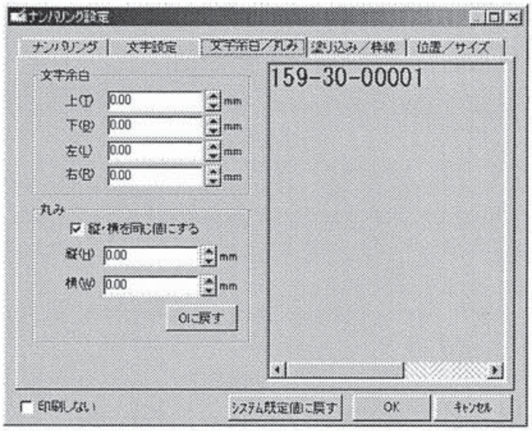
## 「文字設定」ページ




ナンバリングの文字設定を行うことができます。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| | 「文字オブジェクト 文字設定」をご覧ください。→81ページ参照 |

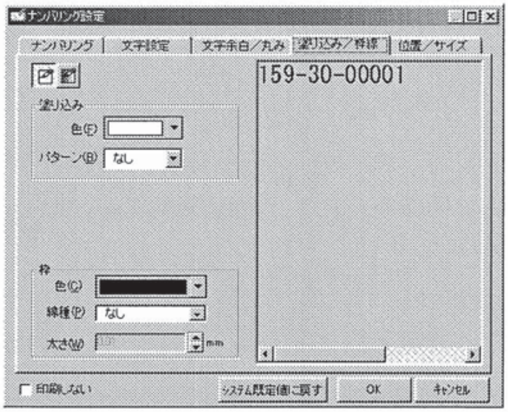
## 「文字余白／丸み」ページ




オブジェクトの文字余白や、オブジェクト枠の丸み付けの設定を行います。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| | 「文字オブジェクト 文字余白／丸み」をご覧ください。→87ページ参照 |

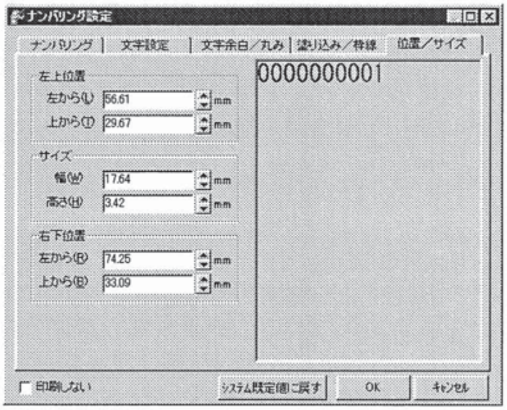
## 「塗り込み／枠線」ページ




背景の塗り込みや、オブジェクトの枠線の設定ができます。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| | 「文字オブジェクト　塗り込み/枠線」をご覧ください。→88ページ参照 |

## 「位置／サイズ」ページ




ここでは、オブジェクトの位置やサイズを数値で設定することができます。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| | 「文字オブジェクト　位置サイズ」をご覧ください。→91ページ参照 |

## その他の項目

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 印刷しない | 「文字オブジェクト　その他の項目」をご覧ください。→91ページ参照 |

# 差込文字

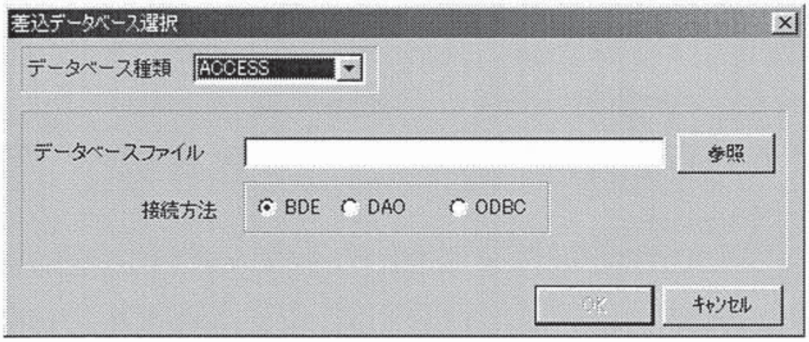
## 新規作成

**1** デザイン画面で、差込文字アイコンをクリックします。または、メニューバーの[オブジェクト]→[差込文字]をクリックします。

**2**「差込データベース選択」画面が表示されます。

### 差し込みデータベースを選ぶには

差込文字オブジェクトは、データベースやワークシートなどから商品名などの文字データを取り出して印刷することのできる差込オブジェクトです。
上記のメニューあるいはアイコンを選ぶと、[差込データベース選択]画面が表示されることがあります。

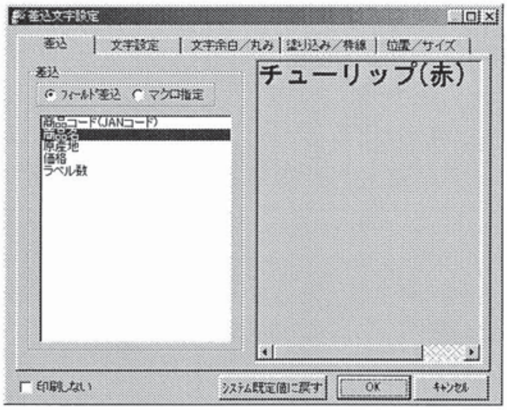



この[差込データベース]画面は、まだメニューの[ファイル]-[差込データベース]で差込元となるデータベースやワークシートを設定していない場合に表示されます。
ここでの操作方法については機能リファレンスの「【ファイルメニュー】差込データベース」を参照してください。

## 編集

編集したい差込文字オブジェクトを選択し、ダブルクリックすると、[差込文字設定]画面が表示されます。

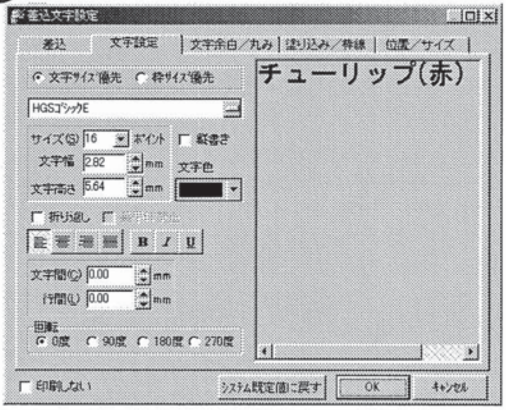
### 「差込」ページ




ここでは、差込フィールドまたは差込データを取得するためのマクロを設定します。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| | 「差込項目の操作 マクロ編集」→169ページ参照<br>「付録C マクロ式」をご覧ください。→付録C30ページ参照 |

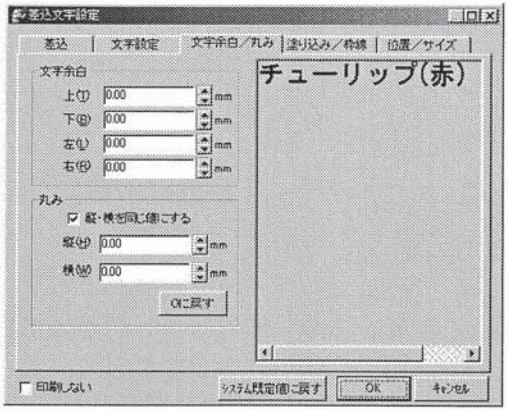
### 文字設定ページ




| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| | 「文字オブジェクト 文字設定」をご覧ください。→81ページ参照 |

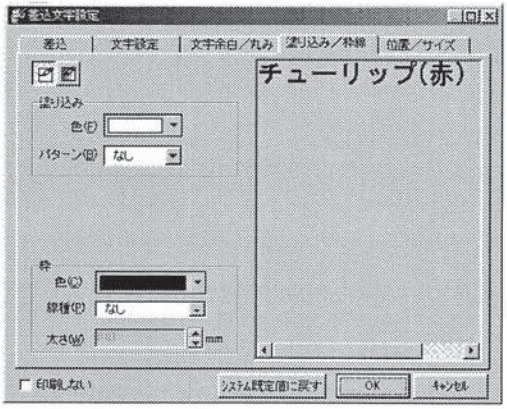
第4章 機能編 リファレンス

## 「文字余白／丸み」ページ



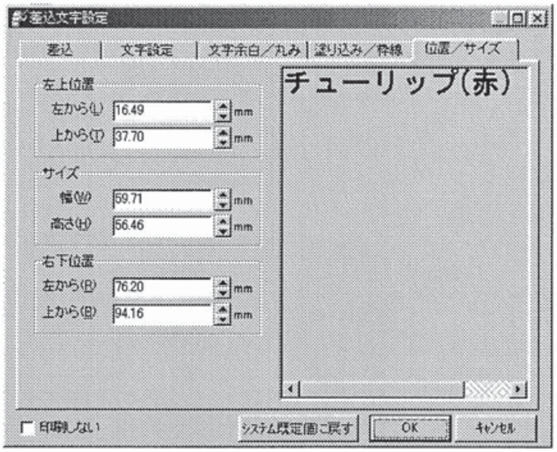

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| | 「文字オブジェクト　文字余白／丸み」をご覧ください。→87ページ参照 |

## 「塗り込み／枠線」ページ




| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| | 「文字オブジェクト　塗り込み/枠線」をご覧ください。→88ページ参照 |

## 「位置／サイズ」ページ




| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| | 「文字オブジェクト　位置サイズ」をご覧ください。→91ページ参照 |

## その他の項目

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| | 「文字オブジェクト　その他の項目」をご覧ください。→91ページ参照 |

# バーコード

## 新規作成

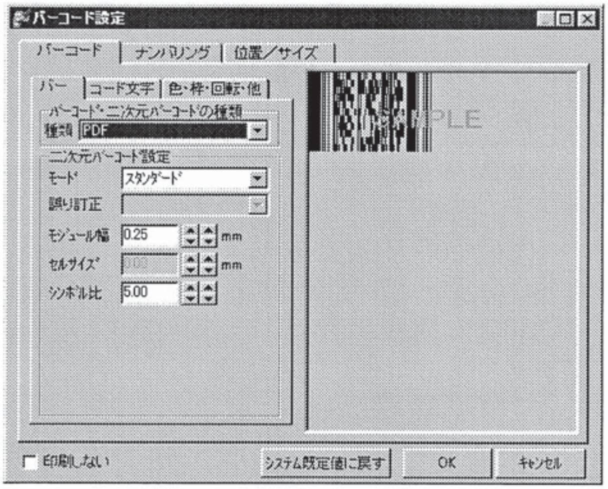
**1** デザイン画面で、バーコードアイコンをクリックします。または、メニューバーの[オブジェクト]→[バーコード]をクリックします。

**2** オブジェクト領域を範囲指定します。

## 編集

編集したいバーコードオブジェクトを選択し、ダブルクリックすると、[バーコード設定]画面が表示されます。

### 「バーコード（バー）」ページ




ここでは、バーコードの種類などを設定します。
次の項目を設定してください。

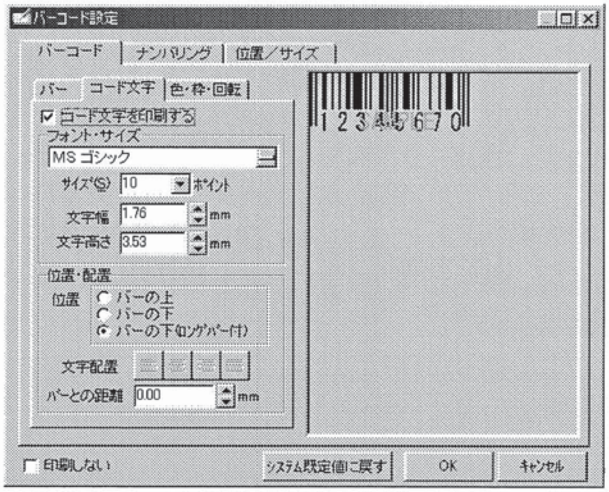
| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| バーコード・二次元コードの種類 | 次から、バーコード・二次元コードの種類を選択します。<br>［JAN8, JAN13, ITF, NW7, Code39, Code128, UPC-A, UPC-E, UCC/EAN128, 郵便局カスタマーコード, MAXI CODE, PDF, QR/Micro QR］<br>二次元コードは通常の一次元バーコードと違い、水平と垂直方向、つまり二次元方向に情報を持つコードです。 |

<table>
<tr><th>編集項目</th><th>編集内容</th></tr>
<tr><td></td><td>二次元コードは大きく分けてスタック式とマトリックス式とがあります。<br>スタック式とは、一次元バーコードを縦に積み重ねて縦横で情報を表示したコードです。<br>マトリックス式とは、情報を白黒交互のます目でモザイク状に表示したコードです。<br>ここで選択できるバーコードの種類とそのバーコードの主な用途については<br>バーコードの仕様→184ページ参照</td></tr>
<tr><td>チェックデジット</td><td>下記のうちから、バーコードのチェックデジットを選択します。
<table>
<tr><th>種類</th><th>チェックデジット</th></tr>
<tr><td>JAN8</td><td>なし／モジュラス10ウェイト3</td></tr>
<tr><td>JAN13</td><td>なし／モジュラス10ウェイト3</td></tr>
<tr><td>ITF</td><td>なし／モジュラス10ウェイト3</td></tr>
<tr><td>NW7</td><td>なし／モジュラス10ウェイト3／モジュラス16</td></tr>
<tr><td>Code39</td><td>なし／モジュラス10ウェイト3／モジュラス43</td></tr>
<tr><td>Code128</td><td>モジュラス103</td></tr>
<tr><td>UPC-A</td><td>なし／モジュラス10ウェイト3</td></tr>
<tr><td>UPC-E</td><td>なし／モジュラス10ウェイト3</td></tr>
<tr><td>UCC/EAN128</td><td>モジュラス103</td></tr>
<tr><td>郵便局<br>カスタマバーコード</td><td>設定不可</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>スタート・エンドキャラクタ</td><td>バーコードの種類をNW7、Code128のいずれかを選んだ場合、下記のうちから、バーコードのスタート･エンドキャラクタを選択します。
<table>
<tr><td>NW7</td><td>スタート：A～D　エンド：A～D</td></tr>
<tr><td>Code128</td><td>スタート：A～C、Auto</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>編集項目</th><th>編集内容</th></tr>
<tr><td>サイズ標準倍率指定</td><td>バーサイズを標準倍率から設定します。標準倍率指定ボタンをクリックすると、標準倍率を指定する画面が開きますので、ここで標準倍率を指定します。<br>標準倍率値は次の通りです。
<table>
<tr><th>種類</th><th>高さ(mm)</th><th>ﾅﾛｰﾊﾞｰ(mm)</th><th>比率(N:W)</th><th>ｷｬﾗｸﾀ間ｷﾞｬｯﾌﾟ(mm)</th></tr>
<tr><td>JAN8</td><td>18.23</td><td>0.33</td><td>1:1</td><td>0</td></tr>
<tr><td>JAN13</td><td>22.86</td><td>0.33</td><td>1:1</td><td>0</td></tr>
<tr><td>ITF</td><td>31.80</td><td>1.02</td><td>1:2.5</td><td>0</td></tr>
<tr><td>NW7</td><td>15.00</td><td>0.50</td><td>1:2.5</td><td>0.50</td></tr>
<tr><td>CODE39</td><td>15.00</td><td>0.57</td><td>1:2.5</td><td>0.57</td></tr>
<tr><td>CODE128</td><td>15.00</td><td>0.57</td><td>1:1</td><td>0</td></tr>
<tr><td>UPC-A</td><td>18.23</td><td>0.33</td><td>1:1</td><td>0</td></tr>
<tr><td>UPC-E</td><td>22.86</td><td>0.33</td><td>1:1</td><td>0</td></tr>
<tr><td>ｶｽﾀﾏﾊﾞｰｺｰﾄﾞ</td><td>3.60</td><td>0.60</td><td>1:1</td><td>0</td></tr>
</table>
上表の各値に指定された標準倍率を乗算した値が各プロパティにセットされます。</td></tr>
<tr><td>高さ</td><td>バーの長さを指定します。</td></tr>
<tr><td>ナローバー</td><td>ナローバー(細バー)の幅を指定します。<br>・ドットで指定した場合は、mmには「ドット×25.4÷ﾌﾟﾘﾝﾀ解像度(DPI)」が代入されます。このとき、小数点第3桁は四捨五入されます。<br>・mmで指定された場合は、ドットには「mm÷(25.4÷ﾌﾟﾘﾝﾀ解像度(DPI))」を代入されます。このとき、小数点第1桁は四捨五入されます。</td></tr>
<tr><td>比率</td><td>ワイドバー(太バー)を使用する種類のバーコードでは、細バーと太バーの比率を「細:太」の形式で指定します。比率(細)は整数、比率(太)は小数点以下2桁の精度とします。(適用種類:ITF/NW7/CODE39)</td></tr>
<tr><td>キャラクタ間ギャップ</td><td>キャラクタ間の空白部分の幅を指定します。<br>(適用種類:NW7/CODE39/CODE128)</td></tr>
</table>

| 編集項目 | 編集内容 |
| --- | --- |
| モード<br>(二次元コードのみ有効) | 二次元コードのモードを指定します。(適用種類:PDF/QR/MicroQR)<br>PDF･･･スタンダードまたはトランスケートシンボルのいずれかを指定します。<br>QR/MicroQR･･･モデル1、モデル2、マイクロQRのいずれかを指定します。 |
| 誤り訂正<br>(二次元コードのみ有効) | 二次元コードの誤り訂正を指定します。<br>(適用種類:MAXI CODE/QR/MicroQR)<br>MAXI CODE･･･50%(ECC)または25%(SEC)のいずれかを指定します。<br>QR/MicroQR･･･超高信頼度レベル、高信頼度レベル、標準レベル、高密度レベルのいずれかを指定します。 |
| モジュール幅<br>(二次元コードのみ有効) | 二次元コードのモジュールの幅をmm単位で指定します。<br>(適応種類:PDF) |
| セルサイズ<br>(二次元コードのみ有効) | 二次元コードのセルサイズをmm単位で指定します。<br>(適応機種:QR/MicroQR) |
| シンボル比<br>(二次元コードのみ有効) | 二次元コードのシンボル比を指定します。<br>(適応機種:PDF) |

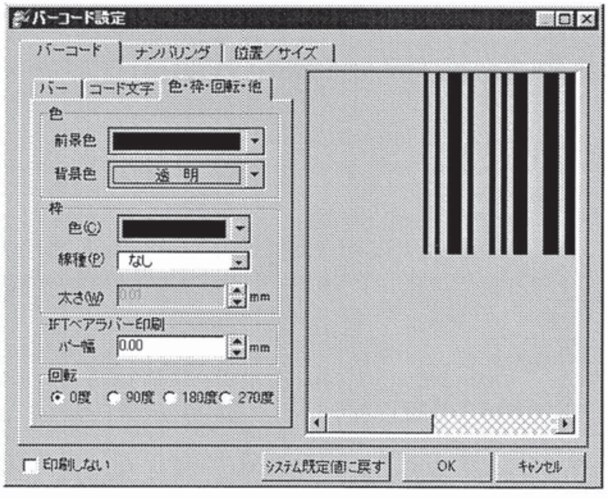
## 「バーコード（コード文字)」ページ




| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| コード文字 | コード文字を印刷する ･･･ チェックすると、次のプロパティが有効となります。なお、郵便番号カスタマバーコードが選択されている場合は常に無効となります。<br>フォント ･･････ コード文字のフォントを選択することができます。<br>サイズ ･･････････ コード文字のフォントサイズをポイントで設定することができます。この指定を行うと、文字幅・文字高さにはmmに換算された値が代入されます。<br>文字幅・高さ ････ コード文字のフォント幅・高さをmmで設定することができます。このときサイズは空白となります。 |

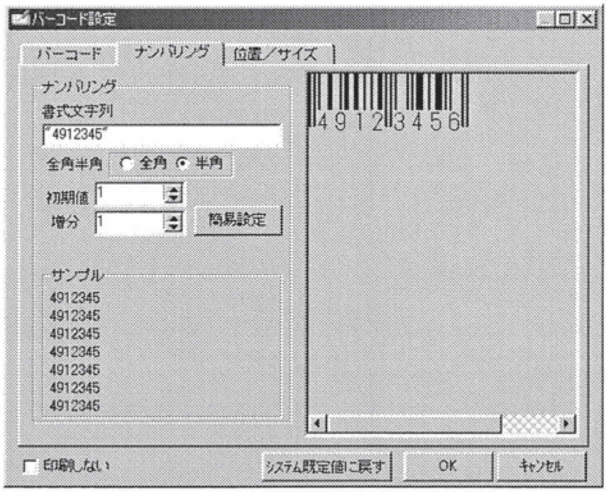
<table>
<tr><th>編集項目</th><th>編集内容</th></tr>
<tr><td>コード文字</td><td>
位置 … コード文字の印字位置を選択することができます。各バーコードの種類において有効な値は下表の通りです。
<table>
<tr><th>位置＼種類</th><th>バーの上</th><th>バーの下</th><th>バーの下<br>(ﾛﾝｸﾞﾊﾞｰ付き)</th></tr>
<tr><td>JAN8</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>JAN13</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>ITF</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td></tr>
<tr><td>NW7</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td></tr>
<tr><td>CODE39</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td></tr>
<tr><td>CODE128</td><td>○</td><td>○</td><td>×</td></tr>
<tr><td>UPC-A</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>UPC-E</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>ｶｽﾀﾏﾊﾞｰｺｰﾄﾞ</td><td>×</td><td>×</td><td>×</td></tr>
</table>
文字配置 ……… コード文字の横の配置を左詰、中央、右詰、均等から選択することができます。<br>ただし、位置で「バーの下(ロングバー付き)」が選ばれている場合には選択は無効となります。<br>
バーとの距離 … コード文字とバーの下端あるいは上端との距離を設定することができます。
</td></tr>
</table>

## 「バーコード（色／枠／回転／他）」ページ



| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 色 | **前景色**<br>バーコードのバーの色を指定できます。<br><br>**背景色**<br>バーコードの背景色を指定できます。 |
| 枠 | バーコードオブジェクトに枠を設けます。<br>次の項目を設定します。<br><br>色…………枠の色を設定します。<br>ここを[透明]に設定するとオブジェクトの枠は解除されます。<br>線種………線の種類を設定します。<br>最後の[なし]を設定すると、オブジェクトの枠は解除されます。<br>実線(一番上の線種)以外を設定すると、次の「太さ」は自動設定されますので、変更はできません。<br>太さ………線の太さを設定します。<br>ポイント単位で指定したい場合は「2p」のように数字の後ろに「p」を入力して下さい。自動的に再計算され数値が置き換えられます。 |
| ITFベアラバー印刷 | ベアラバーのバー幅をmm単位で指定します。<br>クワイエットゾーンと全バーコード部分を囲む、バーと同じ色の四角い枠をベアラバーといいます。<br>ITF(JIS-X-0502)では、ベアラバーを付けることが規格になっています。 |
| 回転 | バーコードを90度単位で回転します。<br>「90度」、「180度」、「270度」のいずれかを選びます。 |

## ナンバリングページ

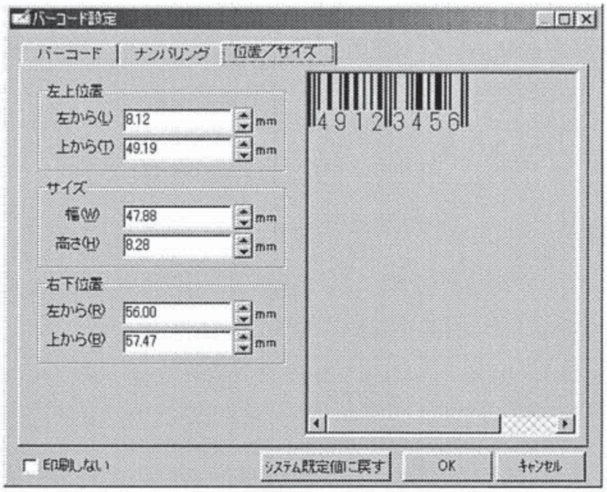



ここでは、バーコードデータとして使用するナンバリングの書式を設定します。書式文字列に直接数字を入力し「"」で囲うことにより、ナンバリングではない固定の値をバーコードデータとして設定できます。
「ナンバリングオブジェクト　ナンバリングの書式を設定する」をご覧ください。

### 注意事項

- バーコードの種類によっては、バーコードデータの桁数が決まっているものがあります。これらのバーコードのナンバリング値や「"」で囲われた固定値が、この桁数と異なる場合には、バーコードは表示されず赤いバツ印が表示されます。また、Code128のスタートキャラクタが正しくない場合も同様に赤いバツ印が表示されます。
- 生成されたバーコードが用紙からはみ出したり、オブジェクトサイズをオーバーした場合、オーバーした部分のバーコードが印刷されませんので、印刷時にバーコード全体が印刷できるかプレビューでご確認ください。
また、差込みバーコードの場合、差込みデータにより、バーコードが欠けることがありますので、印刷前にプレビューでご確認ください。

## 「位置／サイズ」ページ




ここでは、オブジェクトの位置やサイズを数値で設定することができます。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 左上位置 | 「文字オブジェクト　位置／サイズ」をご覧ください→91ページ参照 |
| サイズ | 「文字オブジェクト　位置／サイズ」をご覧ください→91ページ参照 |
| 右下位置 | 「文字オブジェクト　位置／サイズ」をご覧ください→91ページ参照 |

## その他の項目

そのほかに、次の項目があります。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 印刷しない | 「文字オブジェクト　その他の項目」をご覧ください→91ページ参照 |
| システム既定値に戻す | 「文字オブジェクト　その他の項目」をご覧ください→91ページ参照 |

# 差込バーコード

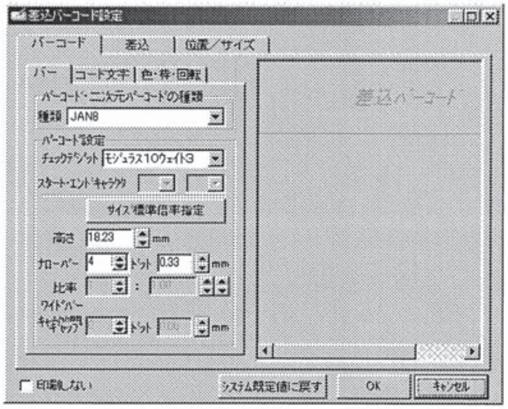
## 新規作成

**1** デザイン画面で、差込バーコードアイコンをクリックします。
または、メニューバーの[オブジェクト]→[差込バーコード]をクリックします。

**2** オブジェクト領域を範囲指定します。

## 編集

### 「バーコード」ページ




編集したい差込バーコードオブジェクトを選択し、ダブルクリックすると、「差込バーコード設定」画面が表示されます。

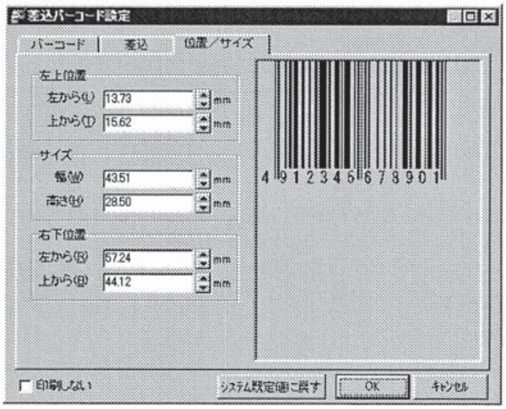
| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| バー | 「バーコードオブジェクト　バーコード(バー)」をご覧ください→122ページ参照 |
| コード文字 | 「バーコードオブジェクト　バーコード(コード文字)」をご覧ください→126ページ参照 |
| 色・枠・回転 | 「バーコードオブジェクト　バーコード(色/枠/回転)」をご覧ください→127ページ参照 |

## 「差込」ページ

差込フィールドまたは差込データを取得するためのマクロを設定します。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| フィールド差込 | 「差込項目のマクロ操作」をご覧ください。→168ページ参照 |
| マクロ指定 | 「差込項目のマクロ操作 マクロ編集」→169ページ参照<br>「付録C マクロ式」をご覧ください。→付録C30ページ参照 |

## 「位置／サイズ」ページ




ここでは、オブジェクトの位置やサイズを数値で設定することができます。

### その他の項目

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 左上位置 | 「文字オブジェクト　位置／サイズ」をご覧ください→91ページ参照 |
| サイズ | 「文字オブジェクト　位置／サイズ」をご覧ください→91ページ参照 |
| 右下位置 | 「文字オブジェクト　位置／サイズ」をご覧ください→91ページ参照 |

# 差込画像

## 新規作成

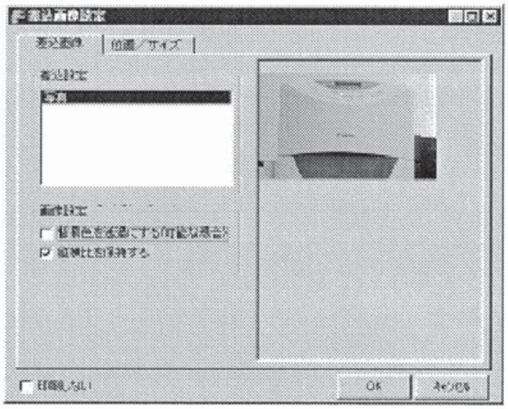
**1** 差込画像アイコンをクリックします。
　または、メニューバーの[オブジェクト]→[差込画像]をクリックします。

**2** オブジェクト領域を範囲指定します。

## 編集

差込画像オブジェクトをダブルクリックすると、「差込画像設定」画面が表示されます。

### 「差込画像」ページ

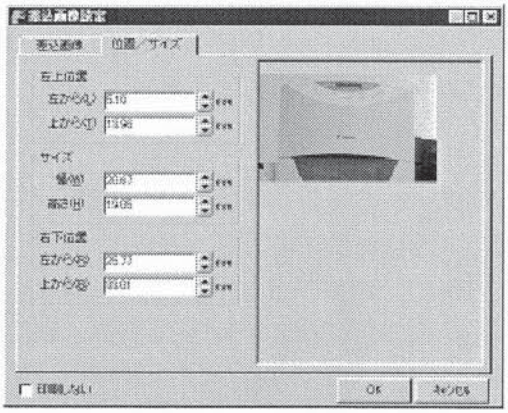



差込データベースの画像データの格納されているフィールドを設定します。

差込データベースに取り扱い可能な画像データフィールドがない場合は、なにも表示されません。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 画像設定 | 背景色を透過にする ････ 画像の背景を透過します。<br>縦横比を保持する ･････ 画像の縦･横の比率を保持します。 |

## 「位置／サイズ」ページ



オブジェクトの位置やサイズを数値で設定することができます。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 左上位置 | 「文字オブジェクト　位置／サイズ」をご覧ください→91ページ参照 |
| サイズ | 「文字オブジェクト　位置／サイズ」をご覧ください→91ページ参照 |
| 右下位置 | 「文字オブジェクト　位置／サイズ」をご覧ください→91ページ参照 |

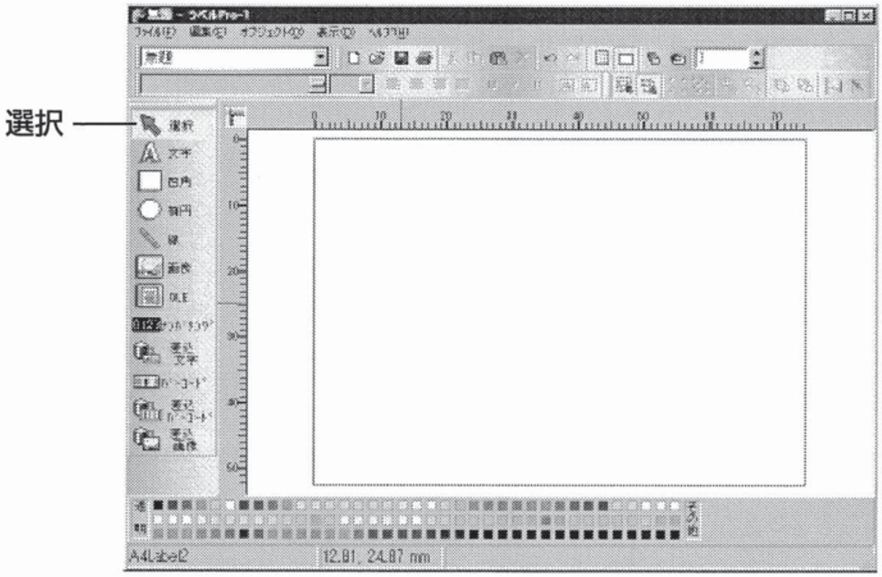
## その他の項目

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 印刷しない | 「文字オブジェクト　その他の項目」をご覧ください→91ページ参照 |

# オブジェクト関連の機能

オブジェクトの選択について説明します。

## デザイン画面




| 機能名 | 内　容 |
|---|---|
| 選択 | オブジェクトの選択、移動、拡大・縮小が可能な状態になります。<br>選択されたオブジェクトには、黒い四角形(オブジェクト選択点)がつきます。<br> |

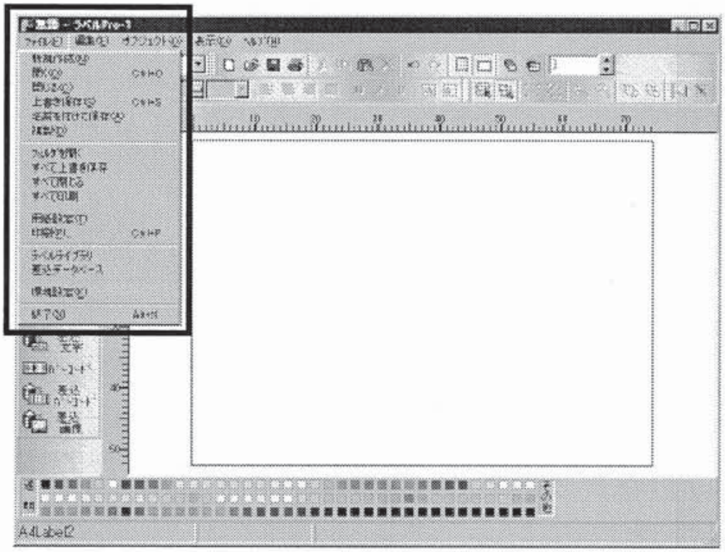
# ファイル機能

新規作成、保存、印刷などファイルに関連した機能について説明します。

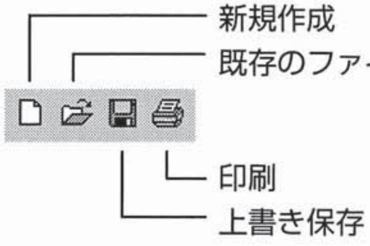
ファイル機能は、［ファイル］メニューから選択します。また、ファイル機能の一部はツールバーのアイコンからも選択することができます。

## メニューバー

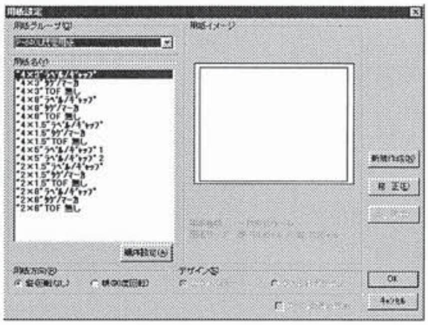
［ファイル］をクリックすると、ファイルメニューが表示されます。



## ツールバー

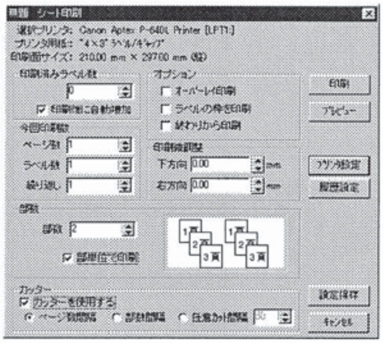


| 機能名 | 内　容 |
| --- | --- |
| 新規作成 | 新規のファイル(デザインウィンドウ)を開くことができます。<br>このとき、ファイル名は未定のため「無題.SMD」となり、用紙設定画面が表示されます。→138ページ参照 |
| 開く | 既存の「ラベルPro-1」ファイルを開くことができます。<br>「ラベルPro-1」では、一度に複数のデザインファイルを開くことができます。 |
| 閉じる | 現在、作業中のデザインウィンドウの内容を閉じることができます。<br>デザイン内容を保存していない場合は、保存をするかどうかの確認メッセージが表示されます。 |
| 上書き保存 | 現在、作業中のデザインウィンドウの内容を既存ファイルに保存することができます。<br>・ファイル名が未定(新規作成)のときは、ファイル保存画面で任意の名前を付けてください。<br>・ファイル名が決定されている(既存のファイルを開いた)ときは、そのファイルに上書き保存されます。 |
| 名前を付けて保存 | 現在、作業中のデザインウィンドウの内容を新たな名前のファイルに保存することができます。 |
| 複製 | 現在、作業中のデザインウィンドウの内容を複製することができます。 |
| フォルダを開く | 指定フォルダに保存されているすべてのデザインファイルを一括して開きます。 |
| すべて上書き保存 | 現在、作業中のデザインファイルすべてを一括して上書き保存します。 |
| すべて閉じる | 現在、作業中のデザインファイルすべてを一括して閉じます。 |
| すべて印刷 | 現在、作業中のデザインファイルすべてを一括して印刷します。 |

<table>
<tr><th>機能名</th><th>内　容</th></tr>
<tr><td rowspan="4">用紙設定</td><td>現在、作業中のデザインウィンドウの用紙を設定することができます。<br><br>用紙設定画面<br><br><br>用紙グループ…使用する用紙グループを選択します。初期状態では専用プリンタCanonカラーラベルプリンタP-640Lに登録されているラベルが表示されます。<br><br>用紙名…初期状態ではデフォルト用紙グループの既定の用紙が選択されています。目的の用紙を選択してください。<br>既存ファイルを開く場合には、保存されている用紙が適用されます。<br><br>用紙方向(縦・横)…ファイル新規作成の場合には「縦」が選択されています。目的の方向を選択してください。<br>既存ファイルを開く場合には、保存されている方向が適用されます。</td></tr>
<tr><td>デザイン<br>・全ラベル同一…用紙ラベル面すべてに同一デザインのラベルが配置されます。<br>・ラベル別デザイン…用紙のラベル面ごとに、それぞれ異なるラベルデザインを行うことができます。<br>繰り返しラベル、自由ラベルの場合のみ有効です。</td></tr>
<tr><td>新規作成<br>新規に用紙を作成することができます。用紙のスタイルは「標準設計(繰り返しラベル)」「自由設計(自由ラベル)」「一枚設計(一枚形式)」の3つから選ぶことができます。 「用紙の新規作成」をご覧ください。→142ページ参照<br><br>修正<br>用紙レイアウトの修正を行うことができます。</td></tr>
<tr><td>削除<br>選択した用紙を削除します。</td></tr>
</table>

| 機能名 | 内　容 |
|---|---|
| 印刷設定 | 現在、作業中のデザインウィンドウの内容を印刷することができます。 |

印刷実行画面




**印刷済みラベル数**…これまでに印刷したラベルの枚数を入力します。

ラベルにナンバリングオブジェクトや差込オブジェクトが配置されている、印刷が継続できなかった場合など、すでに印刷されているラベルと重複せずに、不足分のラベルだけを印刷することができます。

**印刷後に自動増加**…今回印刷したラベル数を、「印刷済みラベル」に加算して保存します。

ナンバリングオブジェクトのナンバリング値は、常に[印刷済みラベル数]の+1、差込オブジェクトが配置されている場合は、常に印刷されたレコード数+1のレコードから開始されます。

**ページ数**…印刷する用紙の枚数(ページ数)を入力します。

**ラベル数**…印刷するラベルの数を入力します。

**繰り返し**…印刷するラベルの数だけ繰り返して印刷します。

149ページ参照

**オプション**

- ・オーバーレイ印刷…オーバーレイ印刷を行うことができます。
- ・ラベルの枠を印刷…印刷と印刷プレビューでラベル面に枠を印刷します。
- ・終わりから印刷…最終ページから印刷されます。

**印刷微調整**…下方向・右方向への印刷位置を移動します。

**部数**………指定した部数分の印刷を行います。

- **・部単位で印刷**…すべてのページを1部印刷し、続けて2部目を印刷します。

**カッターを使用する**…プリンタのカッターを使用して、自動切断を行います。

- **・ページ数間隔**…ページ数の枚数でカットします。
- **・部数間隔**………部数の枚数でカットします。

部単位印刷とカッターの部数間隔は同時に指定できません。

- **・任意カット間隔**…任意入力のカット間隔でカットします。

| 機能名 | 内　容 |
|---|---|
| 印刷設定 | 印刷…印刷が開始されます。<br><br>プレビュー…印刷プレビュー画面が表示されます。<br><br>プリンタ設定…プリンタ設定画面が表示されます。<br><br>履歴設定･･･「ラベルPro-1」では、履歴設定で選んだ差込データベースの情報項目を、印刷するごとに履歴ファイルに保存します。保存のタイミングは、月単位となります。保存場所は、[LabelPro-1]フォルダで、ファイル形式はCSV形式となります。ファイル名は、次の形式で自動的に付けられます。<br>2000年7月に保存されるファイルは、次のようなファイル名になります。PI200007.csv<br><br>設定保存…「シート印刷」画面で設定した内容をデザインファイルに保存します。 |

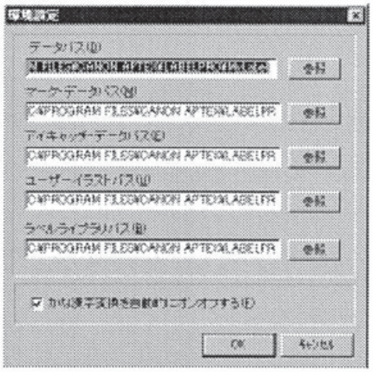
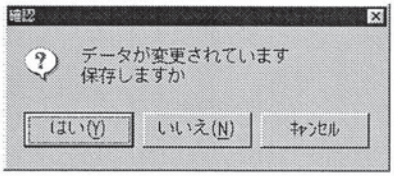
## ラベルライブラリ

| 機能名 | 内　容 |
|---|---|
| ラベル<br>ライブラリ | ラベルライブラリでは、ラベル単位でラベルデザインを保存することができます。必要な用紙に、必要なラベルだけをラベルライブラリから引き出し、配置や複製をすることができます。<br>「ラベルライブラリの操作」をご参照ください。→151ページ参照 |

## 差込データベース

| 機能名 | 内　容 |
|---|---|
| 差込データベース | 差込データベースを設定するための差込データベース設定画面が表示されます。「差込データベースの設定」をご参照ください。→158ページ参照 |

## 環境設定 / 終了

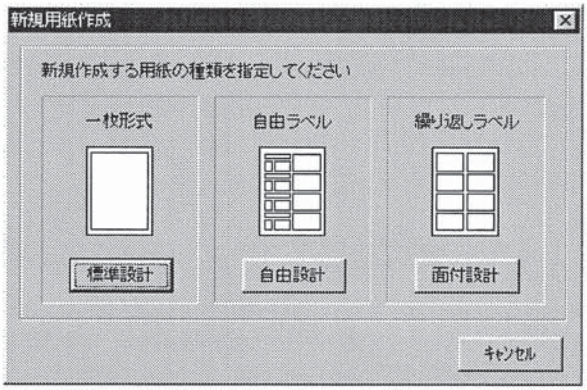
| 機能名 | 内　容 |
|---|---|
| 環境設定 | 「ラベルPro-1」では、作成したデザインや画像などのデータが格納されているフォルダをパスによって指定できます。<br><br><br>**データパス**…デザインファイルを開いたり、保存したりするときに最初に表示させるフォルダを設定します。<br>**マーク・データパス**…画像一覧画面の「マーク」に表示されている画像が納められたフォルダを設定します。<br>**アイキャッチ・データパス**…画像一覧画面の「アイキャッチ」に表示されている画像が納められたフォルダを設定します。<br>**ユーザーイラストパス**…画像一覧画面の「ユーザーイラスト」に表示されている画像が納められたフォルダを設定します。<br>**ラベルライブラリパス**…ラベルライブラリパスの保存されているフォルダを設定します。<br>**かな漢字・変換を自動的にオン・オフする**…文字オブジェクトの文字編集時に自動的にかな変換をオンにします。 |
| 終了 | システムを終了します。<br>現在開かれているファイルが複数あり、保存していないファイルがあるときは、次のメッセージが表示されます。<br><br> |

# 用紙新規作成

この[用紙設定]ダイアログボックスでは既存の用紙以外に、新規に用紙を設計することができます。

## 新規作成

**1** ファイルメニューの［用紙設定］を選択します。用紙設定画面内の[新規作成]ボタンをクリックます。次の画面が表示されます。

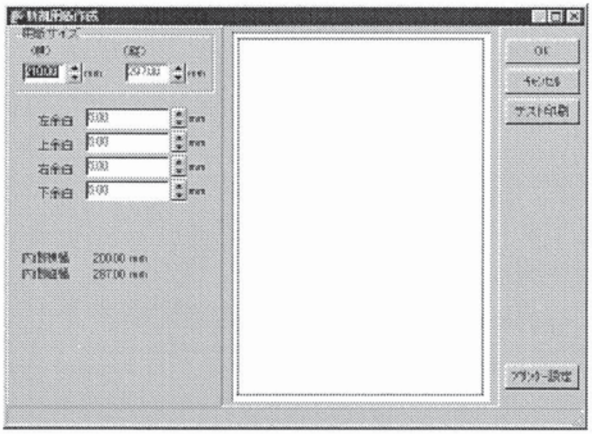



**2** 新規に作成する用紙のスタイルを次の 3 つから選択することができます。

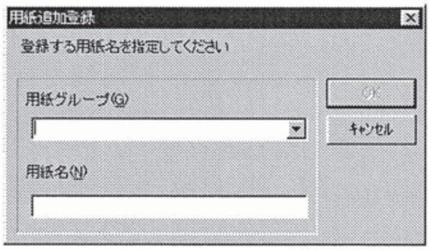
| 選択項目 | 内　容 |
|---|---|
| 標準設計<br>(一枚形式) | 用紙全面がラベル面とみなされるものに使用します。 |
| 面付設計<br>(繰り返しラベル) | 最低寸法(2インチ)より小さい、同じサイズのラベル面が複数配置されているものに使用します。 |
| 自由設計<br>(自由ラベル) | 最低寸法(2インチ)より小さい、異なるサイズのラベル面が配置されているものに使用します。 |

**3** これらのボタンのいずれかをクリックすると、それぞれ次の[新規用紙作成]ダイアログボックスが開きます。

# 標準設計（一枚形式）

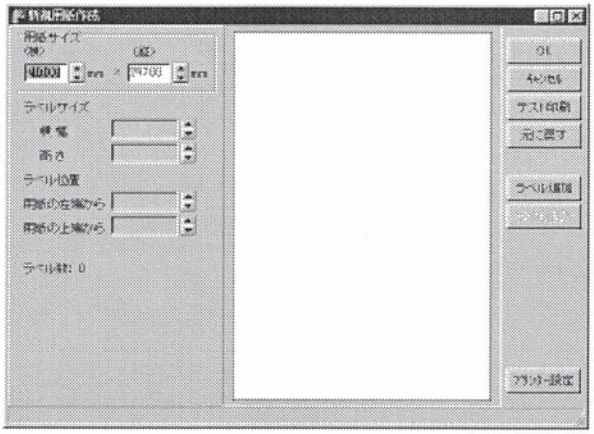



ここで各項目とボタンの意味は次の通りです。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 用紙サイズ(横) | 用紙の横幅を入力します。用紙の横幅がインチ単位の場合は、「10ｉ」のように数値の後ろに「ｉ」をつけて入力します。 |
| 用紙サイズ(縦) | 用紙の縦の長さを入力します。用紙の縦の長さがインチ単位の場合、「5ｉ」のように数値の後ろに「ｉ」をつけて入力します。 |
| 左余白、上余白<br>右余白、下余白 | 用紙の上下左右の余白を設定します。数値がインチ単位の場合は、「0.3ｉ」のように数値の後ろに「ｉ」をつけて入力します。 |
| OK | 今回設計した用紙を登録します。次の「用紙追加登録」画面が表示されたら、名前を付けて保存します。<br>[用紙グループ]を既存のグループから選択、あるいは新しいグループ名を入力してください。次に、[用紙名]を入力し[OK]ボタンをクリックします。<br><br>**キャンセル**<br>今回設計した用紙を破棄し、[用紙設定]画面に戻ります。 |

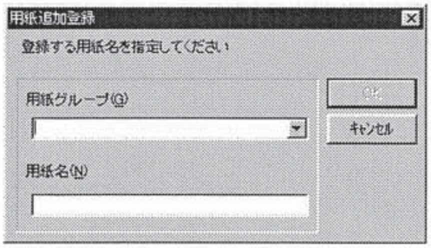
| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| テスト印刷 | 今回設計した用紙を試しに印刷します。ラベル面には枠が印刷されますので、印刷した用紙にぴったり合うかどうか確認してください。 |
| 元に戻す | 現在設定した値を破棄します。 |
| プリンター設定 | 複数のプリンタが接続されている場合や、プリンタドライバの設定を変更したいときなどに、このボタンをクリックしてください。 |

## 自由設計（自由ラベル）

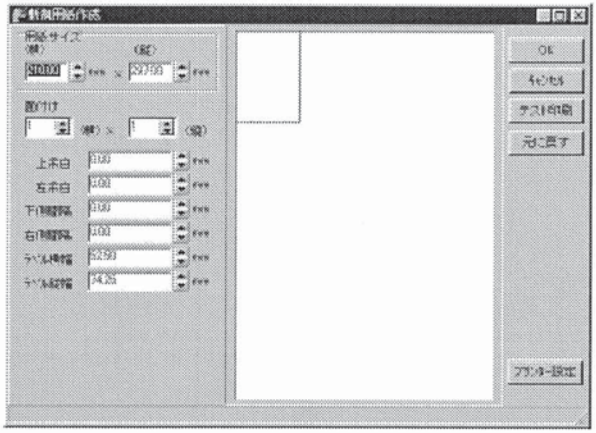


ここで各項目とボタンの意味は次の通りです。

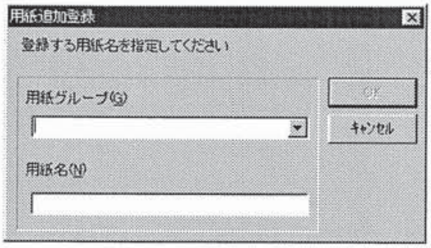
| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 用紙サイズ（横） | 用紙の横幅を入力します。用紙の横幅がインチ単位の場合は、「10ｉ」のように数値の後ろに「ｉ」をつけて入力します。 |
| 用紙サイズ（縦） | 用紙の縦の長さを入力します。用紙の縦の長さがインチ単位の場合は、「5ｉ」のように数値の後ろに「ｉ」をつけて入力します。 |
| ラベル追加 | このボタンをクリックすると、用紙にひとつのラベル面が追加されます。<br>右側の用紙イメージに灰色のラベル面が現れます。これをマウスで拡大・縮小・移動させることができます。 |
| ラベル削除 | [ラベル追加]ボタンで追加されたラベル面を、用紙から削除することができます。<br>右側の用紙イメージで削除したいラベル面をマウスでクリックします。そのラベル面が灰色になり、選択状態であることを示します。ここで[ラベル削除]ボタンをクリックすると、そのラベル面は削除されます。 |
| ラベルサイズ（横幅、高さ） | 右側の用紙イメージでサイズを変更したいラベル面をマウスでクリックします。そのラベル面が灰色になり、選択状態であることを示します。<br>[横幅]、[高さ]の項目にそれぞれラベル面の横幅、高さ（縦幅）を入力します。数値がインチ単位の場合は、「0.3ｉ」のように数値の後ろに「ｉ」をつけて入力します。 |

| 編集項目 | 編集内容 |
| --- | --- |
| ラベル位置<br>（用紙の左端から、用紙の上端から） | 右側の用紙イメージで位置を変更したいラベル面をマウスでクリックします。そのラベル面が灰色になり、選択状態であることを示します。<br>[用紙の左端から]には用紙の左端からラベル面の左端までの距離、[用紙の上端から]には用紙の上端からラベル面の上端までの距離をそれぞれ入力します。数値がインチ単位の場合は、「0.3ｉ」のように数値の後ろに「ｉ」をつけて入力します。 |
| OK | 今回設計した用紙を登録します。次の「用紙追加登録」画面が表示されたら、名前を付けて保存します。<br>[用紙グループ]を既存のグループから選択、あるいは新しいグループ名を入力してください。次に、[用紙名]を入力し[OK]ボタンをクリックします。<br><br>**キャンセル**<br>今回設計した用紙を破棄し、[用紙設定]画面に戻ります。 |
| テスト印刷 | 今回設計した用紙を試しに印刷します。ラベル面には枠が印刷されますので、印刷した用紙にぴったり合うかどうか確認してください。 |
| 元に戻す | 現在設定した値を破棄します。 |
| プリンター設定 | 複数のプリンタが接続されている場合や、プリンタドライバの設定を変更したいときなどに、このボタンをクリックしてください。 |

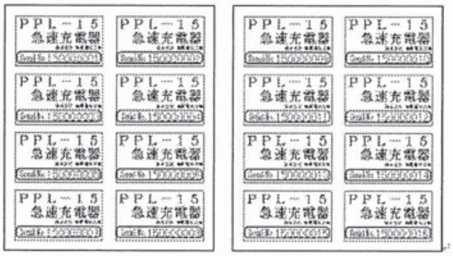
# 面付設計（繰り返しラベル）

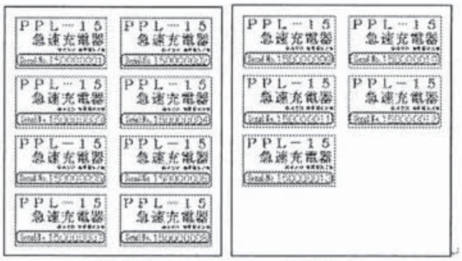


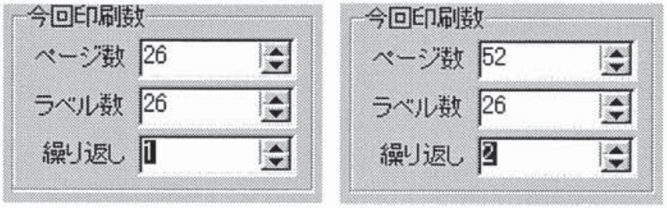
| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 用紙サイズ（横） | 用紙の横幅を入力します。用紙の横幅がインチ単位の場合、「10ｉ」のように数値の後ろに「ｉ」をつけて入力します。この場合254mmに変換されます。 |
| 用紙サイズ（縦） | 用紙の縦の長さを入力します。用紙の縦の長さがインチ単位の場合、「5ｉ」のように数値の後ろに「ｉ」をつけて入力します。 |
| 面付け | 用紙に配置するラベル面の数を横の数、縦の数でそれぞれ入力します。右側の用紙表示に、入力したラベル面が表示されます。 |
| 余白 | 用紙の一番上に配置されているラベル面の上端から、用紙の上端までの距離を設定します。数値がインチ単位の場合は、「0.3ｉ」のように数値の後ろに「ｉ」をつけて入力します。 |
| 左余白 | 用紙の一番上に配置されているラベル面の左端から、用紙の左端までの距離を設定します。数値がインチ単位の場合は、「0.3ｉ」のように数値の後ろに「ｉ」をつけて入力します。 |
| 下側間隔 | ラベル面どうしの上下の間隔を設定します。数値がインチ単位の場合は、「0.3ｉ」のように数値の後ろに「ｉ」をつけて入力します。 |
| 右側間隔 | ラベル面どうしの左右の間隔を設定します。数値がインチ単位の場合は、「0.3ｉ」のように数値の後ろに「ｉ」をつけて入力します。 |

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| ラベル横幅 | ラベル面の横幅を設定します。数値がインチ単位の場合は、「4 i 」のように数値の後ろに「 i 」をつけて入力します。 |
| ラベル縦幅 | ラベル面の縦幅(高さ)を設定します。数値がインチ単位の場合は、「0.3 i 」のように数値の後ろに「 i 」をつけて入力します。 |
| OK | 今回設計した用紙を登録します。次の「用紙追加登録」画面が表示されたら、名前を付けて保存します。<br>[用紙グループ]を既存のグループから選択、あるいは新しいグループ名を入力してください。次に、[用紙名]を入力し[OK]ボタンをクリックします。<br><br>**キャンセル**<br>今回設計した用紙を破棄し、[用紙設定]画面に戻ります。 |
| テスト印刷 | 今回設計した用紙を試しに印刷します。ラベル面には枠が印刷されますので、印刷した用紙にぴったり合うかどうか確認してください。 |
| 元に戻す | 現在設定した値を破棄します。 |
| プリンター設定 | 複数のプリンタが接続されている場合や、プリンタドライバの設定を変更したいときなどに、このボタンをクリックしてください。 |

# ページ数、ラベル数、繰り返し

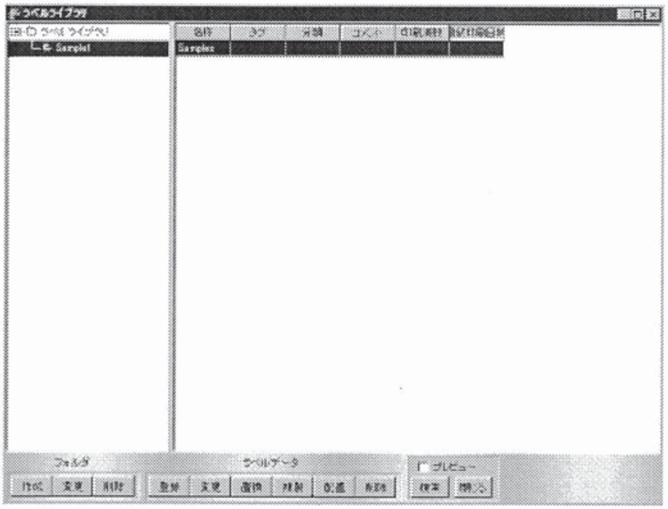
<table>
<tr><th>編集項目</th><th>編集内容</th></tr>
<tr><td>1. ページ数</td><td>印刷する用紙の枚数を入力します。<br>差込オブジェクトが配置されていない場合は、任意の数値が入力できます。<br>差込オブジェクトが配置されている場合は、差込データベースのレコード数を最大とする数値が入力できます。ただし、「印刷済みラベル数」が0以外に設定されている場合は、その枚数分のレコードはスキップされます。入力できる数値の最大は、差込データベースのレコード数から「印刷済みラベル数」を引いた数になります。<br>なお、「ページ数」と似た機能で「部数」があります。「ページ数」との違いは次の通りです。(この例ではSerial-No.の右側の数値はナンバリングオブジェクトです)<br><br>ページ数 2、部数 1 の場合<br><br>1 枚目　　　2 枚目<br><br>ページ数 1 、部数 2 の場合<br> <br>1 枚目　　　2 枚目<br><br>「ページ数」で枚数を指定すると、ナンバリングオブジェクトや差込オブジェクトが連続して印刷されますが、「部数」で枚数を指定すると、同じ内容の印刷が部数分印刷されます。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>編集項目</th><th>編集内容</th></tr>
<tr><td>2. ラベル数</td><td>
印刷するラベルの数を入力します。<br>
差込オブジェクトが配置されていない場合は、任意の数値が入力できます。<br>
差込オブジェクトが配置されている場合は、差込データベースのレコード数を最大とする数値が入力できます。ただし、「印刷済みラベル数」が0以外に設定されている場合は、その枚数分のレコードはスキップされます。入力できる数値の最大は、差込データベースのレコード数から「印刷済みラベル数」を引いた数になります。「ラベルPro-1」が推奨する「一枚形式」のラベルを利用している場合は、「繰り返し」が1の場合、「ページ数」=「ラベル数」となります。<br>
面付けラベルを利用した場合、「ページ数」ではなく、このラベル数を指定すると、必要な数だけのラベルを印刷できます。たとえば、次のように用紙の面付け数で割り切れない数のラベルも印刷できます。<br>
ラベル数1 3の場合(このとき自動的に「ページ数」は 2 になっています)<br>


1枚目　2枚目
</td></tr>
<tr><td>3. 繰り返し</td><td>
「繰り返し」を 2 以上に設定すると、印刷するラベルを指定の数だけ繰り返して印刷できます。<br>
「ラベルPro-1」が推奨する「一枚形式」のラベルを利用している場合は、「繰り返し」を2以上に設定すると、「ラベル数」の値は変化しませんが、「ページ数」の値が2倍、3倍...、と変化します。<br>


</td></tr>
</table>

# ラベルライブラリの操作



この[ラベルライブラリ画面]での操作は次のように行います。

## 分類フォルダリストでの操作

「分類フォルダ」には、ラベルを分類しているフォルダ（格納先）が表示されています。目的のフォルダをクリックすると、[ラベルリスト]にそのフォルダに格納されているラベルデザインが表示されます。
ここでは、次の操作が行えます。

### フォルダの作成

新たにフォルダを作成するには、フォルダを作成する位置をクリックしてから、操作パネルの[作成]ボタンをクリックします。「フォルダ名を入力してください」というメッセージが表示されますので、ここで新規に作成するフォルダの名前を入力してください。

フォルダを作成する位置をたとえば[ラベルライブラリ]にすると、一番最後の行に新規に作成したフォルダが作成されます。また、フォルダを作成する位置をすでに存在するフォルダにすると、新規に作成したフォルダはそのフォルダの最終行のサブフォルダとして作成されます。

### フォルダ名の変更

作成済みのフォルダの名前を変更するには、まず目的のフォルダをクリックして選択し、操作パネルの[名称変更]ボタンをクリックします。すると、「フォルダ名を入力してください」というメッセージが表示されますので、変更する名前を入力してください。

### フォルダの削除

作成済みのフォルダを削除するには、まず目的のフォルダをクリックして選択し、操作パネルの[削除]ボタンをクリックします。すると、確認のため削除されるフォルダとその中にあるラベルとフォルダの数がメッセージ表示されます。

削除するフォルダにサブフォルダがある場合、このサブフォルダも削除されますので、ご注意下さい。

## フォルダの基本操作

### フォルダを開く

分類フォルダの前に「+」マークが表示されている場合、この分類フォルダの中にさらに分類フォルダがあることを示しています。この「+」マークをクリックすると、フォルダの中のフォルダ（サブフォルダと呼びます）が表示されて、「+」マークは「−」マークに変わります。

### フォルダを閉じる

分類フォルダの前に「—」マークが表示されている場合、この分類フォルダの中にさらに分類フォルダがあり、これが現在表示されていることを示しています。この「—」マークをクリックすると、フォルダの中のフォルダ（サブフォルダと呼びます）は非表示になり、「−」マークは「+」マークに変わります。

### フォルダを移動する

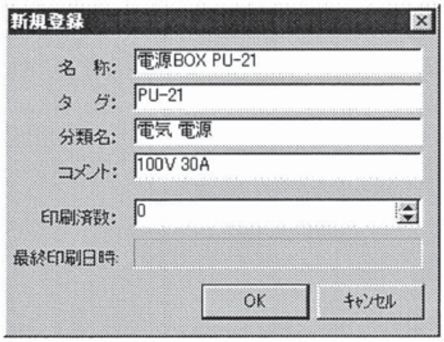
作成済みのフォルダの位置を変更するには、まず目的のフォルダの上にマウスを移動し、マウス左ボタンを押したまま、移動先のフォルダへマウスを移動させ、左ボタンを離します。すると、フォルダは移動先のフォルダのサブフォルダとなります。また、移動先を一番下のフォルダの下にすると、最後の行にフォルダを移動させることができます。

## ラベルリストでの操作

ここには、[分類フォルダリスト]で選択されているフォルダの中に格納されているラベルが一覧で表示されています。次の操作が行えます。

### 【ラベルを新規に登録する】

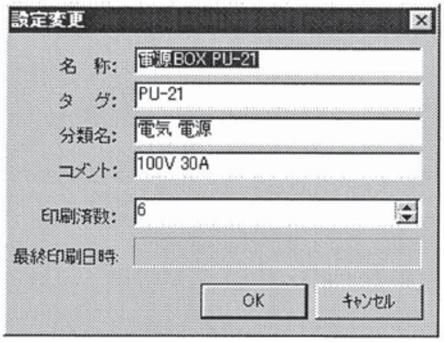
ラベルを新規に登録します。操作パネルの[登録]ボタンをクリックします。すると、次の画面が表示されます。ここではラベルの各項目を入力します。




| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| 名　　称 | このラベルの名称を入力します。　　　例）"電源BOX PU-21 名盤" |
| タ　　グ | このラベル固有の識別文字を入力します。<br>例）"PU-21"<br>タグはこのラベルを識別する固有の文字でなければなりません。同じ文字を複数のラベルに設定することはできません。このタグは、データベースやワークシートからラベル面を差し込んで印刷するためのものです。たとえばタグに "PU-21 "などのように商品の型番を入力しておくと、データベースのレコードにこの型番が記入されていればこのラベルを自動的に用紙に配置することができます。この機能を使うと、データベースに登録されている型番に従ってそれぞれの商品のラベルを用紙に配置して印刷できます。 |
| 分 類 名 | 分類を入力します。　　　例）"電気　電源" |
| コメント | 必要時、コメントを入力します。　　　例）"100V　30A" |
| 印刷枚数 | ここは特に入力の必要はありません。 |

## 【ラベルの名称やタグを変更する】

すでに登録されているラベルの名称やタグ、分類などを変更します。目的のラベルをクリックして選択状態（行が反転している状態）にし、操作パネルの[変更]ボタンをクリックします。次の画面が表示されますのでここで各項目の内容を変更します。




【印刷枚数】にはこれまでにこのラベルが何枚印刷されたかという数値が自動設定されています。この数値は、ラベルにナンバリングオブジェクトが作成されていた場合には、そのナンバリング値マイナス1を示します。ラベルのナンバリング値を変更したい場合には、この数値を変更してください。

## 【ラベルを用紙に複製する】

ラベルライブラリのラベルを現在編集中のデザインファイルの用紙に複製します。次のように操作します。

① 目的のラベルをクリックして選択状態（行が反転している状態）にします。

② 現在編集中のデザインファイルが[ラベル別デザイン]の場合は、デザイン画面でシート表示に切り替えて、ラベルを複製したいラベル面をクリックして選択状態（網掛け状態）にします。[全ラベル同一]の場合は、この操作は必要ありません。

### タグ内容の変更のご注意

[タグ]の内容を変更する場合は、十分に注意してください。デザインファイルは、タグをもとにラベルを識別しています。タグの内容を変更してしまうと、デザインファイルがこのラベルを認識できなくなってしまいます。このような場合は、デザインファイルのタグを再配置しなければなりません。

③ この状態でラベルライブラリ画面の操作パネルの[複製]ボタンをクリックします。
デザイン画面で選択したラベル面にラベルライブラリに登録されているラベルが複製されます。

デザイン画面に複製されたラベルは任意に修正することができます。
先の操作以外に、次のマウス操作によっても複製を行うことができます。
次のように操作します。

① 現在編集中のデザインファイルをシート表示に切り替えます。
② ラベルライブラリ画面で、目的のラベルの行にマウスを移動させ、マウス左ボタンを押します。（ボタンはそのまま離さないでください）
③ デザイン画面の目的のラベル面にマウスカーソルを移動させ、マウス左ボタンを離します。

ラベルライブラリにラベルの雛形となるものを登録しておき、この複製操作で複製したラベルを修正するようにすると、類似したデザインのラベルを大量に作成することができます。たとえば、棚ラベルの基本的なデザインをラベルライブラリに登録しておき、これを用紙に複製して商品名と値段だけを変更するようにすれば、簡単に多くの商品の棚ラベルが作成できます。



## 【ラベルを用紙に配置する】

ラベルライブラリのラベルを現在編集中のデザインファイルの用紙に配置します。配置操作をするには次のように操作します。

この「配置」は「複製」と異なり、用紙に配置したラベルは変更することができません。変更しようとすると、ラベルデザインのすべてが消去されます。

① 目的のラベルをクリックして選択状態（行が反転している状態）にします。
② 現在編集中のデザインファイルが[ラベル別デザイン]の場合は、デザイン画面でシート表示に切り替えて、ラベルを配置したいラベル面をクリックして選択状態（網掛け状態）にします。[全ラベル同一]の場合は、この操作は必要ありません。
③ この状態でラベルライブラリ画面の操作パネルの[配置]ボタンをクリックします。デザイン画面で選択したラベル面にラベルライブラリに登録されているラベルが配置されます。

上記の操作以外に、次のマウス操作によっても配置を行うことができます。
次のように操作します。

1．現在編集中のデザインファイルをシート表示に切り替えます。
2．ラベルライブラリ画面で、目的のラベルの行にマウスを移動させ、マウス左ボタンを押します。（ボタンはそのまま離さないでください）
3．デザイン画面の目的のラベル面にマウスカーソルを移動させ、マウス左ボタンを離します。

このラベルライブラリからのラベル配置機能は、つぎのような場合に便利です。たとえば、商品ラベルに記載されている価格が変更になった場合、そのラベルのあるデザインファイルを開き、値段を変更して保存しておく必要があります。しかし、この商品ラベルを複製したものが、複数のデザインファイルに存在した場合には、そのすべてのデザインファイルをひとつひとつ変更しなければなりません。
このような煩雑な作業を避けるために、デザインファイルのラベル面にラベルライブラリに登録してあるラベルを「配置」しておきます。「配置」は「複製」と異なり、実際のラベルデザインの情報はラベルライブラリに存在します。このため、ラベルライブラリのデザインを変更するだけで、そのラベルを配置しているすべてのデザインファイルに変更内容が反映されます。

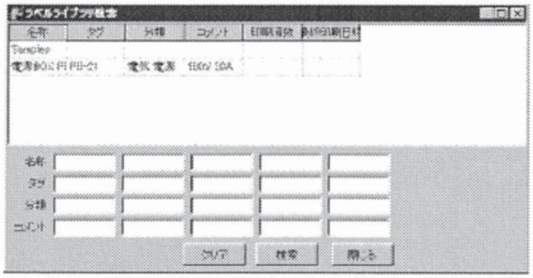
## 【ラベルを削除する】

登録されているラベルを削除します。
目的のラベルをクリックして選択状態（行が反転している状態）にします。この状態で操作パネルの[削除]ボタンをクリックします。ラベルが削除されます。

削除されたラベルを配置したデザインファイルが存在した場合に、デザインファイルはそのラベルを認識できなくなってしまいますので注意してください。デザインファイルは、削除された部分のラベル面が空白になります。もしもラベル別デザインでこのような状態になったら、空白部分を詰める作業が必要になります。

## 【ラベルを検索する】

登録されているラベルを名称や分類で検索します。
操作パネルの[検索]ボタンをクリックします。次の検索画面が表示されます。ここでは最初に、ラベルライブラリに登録されているすべてのラベルが表示されています。
[名称] [タグ] [コメント]に、検索したい内容を入力して[検索]ボタンをクリックすると、その検索条件に合致したものだけが表示されます。



検索結果から、目的のラベルの行をダブルクリックすると、そのラベルの属するフォルダに移動することもできます。

### 【ラベルを別のフォルダに移動する】

登録されているラベルを別のフォルダに移動（変更）します。
ラベルリストの移動したいラベル上でマウス左ボタンを押します。そのまま、分類フォルダリストの移動先のフォルダの上にマウスを移動させ、左ボタンを離します。

### 【ラベルデザインをプレビューする】

操作パネルの[プレビュー]をチェックすると、分類フォルダリストの下に、選択中のラベルのデザインを表示することができます。

### 【ラベルリストを並び替える】

ラベルリストの表題部分（名称、タグなどが表記されている部分）をクリックすると、その項目の大小順でリストが並び替わります。

# 差込データベースの設定

差込データベースを設定するための「差込データベース設定」画面を表示します。
まだ差込データベースが設定されていない場合には、次の「差込データベースの選択」画面が表示されます。

## 差込データベースの選択

### 1. データベース種類

差込データベースとして指定するデータベースの種類を次から選択します。

| | |
|---|---|
| ・ACCESS | Microsoft Access 95/97/2000/2002/2003/2007のデータベースファイル |
| ・PARADOX | Borland Paradox for Windowsのデータベースファイル |
| ・DBASE | Borland dBASE for Windowsのデータベースファイル |
| ・TEXT | カンマ区切り形式（CSV）のテキストファイル |
| ・EXCEL | Microsoft Excel 95/97/2000/2002/2003/2007のワークシートファイル |
| ・BDEｴﾘｱｽ | Borland Database Engineで使用できるデータベース |
| ・ODBCﾃﾞｰﾀｿｰｽ | ODBC接続可能なデータベース |

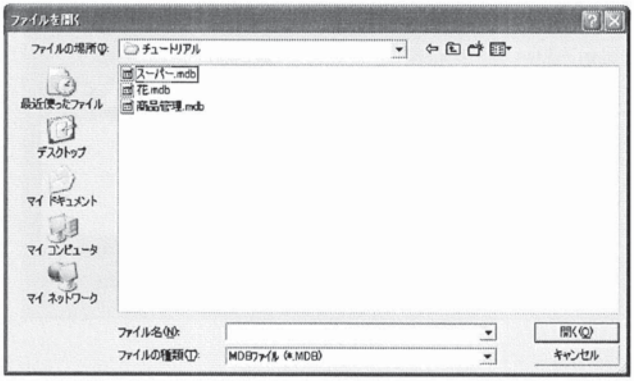
## 2. データベースファイル

**この項目では差込データベースとして指定するデータベースのファイル名を指定します。**
**なお、この項目が有効となるデータベース種類は次の通りです。**

- ACCESS　Microsoft Access 95/97/2000/2002/2003/2007のデータベースファイル
- PARADOX　Borland Paradox for Windowsのデータベースファイル
- DBASE　Borland dBASE for Windowsのデータベースファイル
- TEXT　カンマ区切り形式（CSV）のテキストファイル
- EXCEL　Microsoft Excel 95/97/2000/2002/2003/2007のワークシートファイル
- BDEエリアス　Borland Database Engineで使用できるデータベース
- ODBCデータソース　ODBC接続可能なデータベース

BDE、ODBCは様々な種類のデータベースにアクセスするためのインターフェイスを提供するものです。つまり、これらを利用することにより、異なる製品の異なるデータベースファイルを使用することができるようになります。
選択できるBDEエリアス、ODBCデータソースはWindowsのコントロールパネルの「32ビットODBC」、「BDE Administrator」で設定します。その設定方法の詳細に関しては使用しているデータベースのマニュアルなどをご覧下さい。

[参照]ボタンをクリックすると、[ファイルを開く]ダイアログボックスが表示されますので、ここから、ファイルを選択できます。




上記項目の設定が完了したら [OK] ボタンをクリックして下さい。次の画面に進みます。

## 3. 接続方法（BDE、DAO、ODBC）

**この項目では差込データベースへの接続方法を選択します。**
**この項目が有効となるデータベース種類は次の通りです。**



- ACCESS　　Microsoft Access 95/97/2000/2002/2003/2007のデータベースファイル
- PARADOX　　Borland Paradox for Windowsのデータベースファイル
- DBASE　　Borland dBASE for Windowsのデータベースファイル

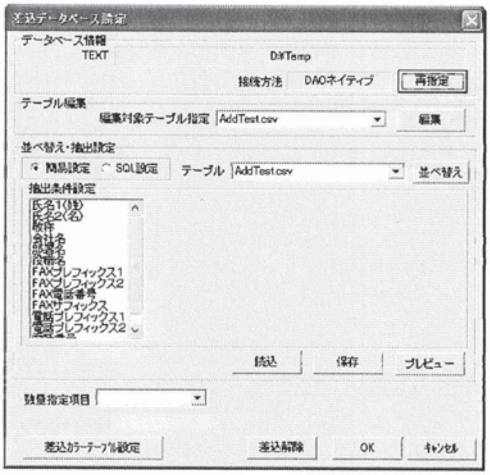
BDE、DAO、およびODBCそれぞれは接続の形態はほぼ同じですから、どの方法を選択しても動作に影響はありません。ただし、お客様のマシンにODBCがインストールされていない場合には、BDEを、BDEで正常に接続できない場合はDAOを選択して下さい。

上記項目の設定が完了したら [OK] ボタンをクリックして下さい。次の画面に進みます。

**ODBC と BDE**

ODBC と BDE は、それぞれ異なるインターフェイスを提供するものですが、BDE は ODBC のインターフェイスを再利用する形で構成されています。このため、どちらもほぼ同じ種類のデータベースへの接続を可能にしています。ただし、BDE ではBorland 社製のデータベースソフト Paradox や dBASE などのデータベースファイルの所在、フォルダを別の名前であるエリアスで管理できるようになっているなどの違いがあります。エリアスを利用すると、長いフォルダ名などを一時的にわかりやすい別の名前にすることができ、簡単に管理できるようになります。

# 差込データベースの設定




## 1. データベース情報

「差込データベースの選択」画面で設定した、差込データベースの名前や接続方法が表示されています。これらを変更するには［再指定］ボタンをクリックしてください。「差込データベースの選択」画面が表示され、データベース種類やデータベースファイル名、接続方法などが変更できます。

## 2. テーブル編集

「差込データベースの選択」画面で設定した、差込データベースのテーブルを編集することができます。
［編集対象テーブル指定］でテーブルを選択し、［編集］ボタンをクリックすると編集画面に移り、データを編集することができます。

［テーブル］とはデータベースの中に含まれるデータの単位を示します。
この［テーブル］の意味はデータベースの種類によって異なります。

・ACCESS

Microsoft Access 95/97/2000/2002/2003/2007のデータベースファイルの中に格納されているデータの単位を示します。

・PARADOX、dBASE、TEXT

データベースフォルダとして指定したフォルダにあるデータの格納されているファイルを示します。

・EXCEL

Microsoft Excel 95/97/2000/2002/2003/2007のワークシートファイルに存在するシートの単位を示します。

・BDEエリアス、ODBCデータ ソース

接続先のデータベースの種類によって異なります。

## 3. 並び替え・抽出設定

**指定した差込データベースから、どのようなデータを抽出するかの設定と、並び替えの方法を設定します。**

これらの設定には、[簡易設定]と[SQL設定]の2種類の方法があります。
[簡易設定]では、画面の操作だけで比較的簡単に抽出・並び替えの設定ができます。
[SQL設定]では、テーブルを連結して取り出す、集計値を取得するなど、簡易設定よりも高度な指定ができます。この場合、[SQL文]といわれるデータベースからデータを取得するための言語を入力します。

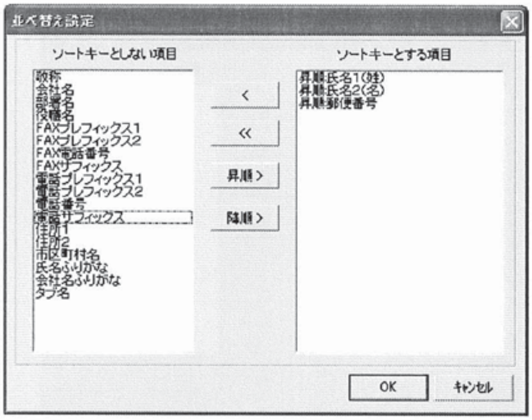
## [簡易設定] の方法

### テーブルの指定

[テーブル] でデータを抽出したいテーブルを選択します。

### 並べ替えの指定

テーブルを選択した後に、[並べ替え] ボタンをクリックします。



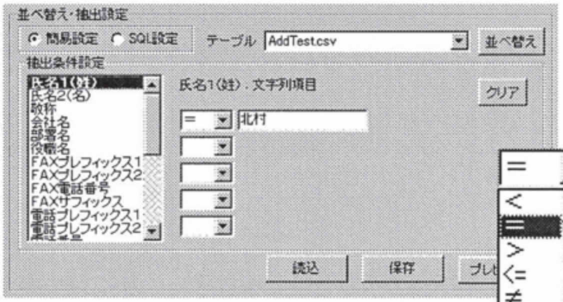
[ソートキーとしない項目]には先に指定したテーブルの項目が並んでいます。たとえば出荷日順にラベルを印刷したい場合は、[出荷日]をクリックし、[昇順>]ボタンをクリックしてます。右側の[ソートキーとする項目]に項目が移動します。これでラベルは古い出荷日のものから順に印刷されます。
逆に、新しい出荷日のものから順にラベル印刷したい場合は、[降順>]ボタンをクリックして、右側の[ソートキーとする項目]に項目を移動させます。
また、古い出荷日のものから順にラベル印刷し、しかも同じ出荷日ならば納品伝票番号順に印刷したい場合には、まず、[出荷日]を[昇順>]ボタンで[ソートキーとする項目]に移動させ、続けて同様に[納品伝票NO]を[昇順>]ボタンで[ソートキーとする項目]に移動させます。[ソートキーとする項目]には2つの項目が並びます。このように、複数の項目で並び順を決定することもできます。

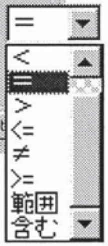
[ソートキーとする項目]に表示されている項目を、並び替えから解除するには、その項目を選んで[<]ボタンをクリックします。その項目が[ソートキーとしない項目]に移動します。[<<]ボタンをクリックすることで、設定されているすべての並び替え項目を解除することもできます。

並び替えの設定が完了したら[OK]ボタンをクリックしてください。[差込データベース設定]のダイアログボックスに戻ります。

## 抽出条件の設定

[抽出条件の設定]欄で、ラベル印刷するレコードを抽出する条件を記入することができます。
テーブルの項目が表示されている部分で、条件を設定したい項目を選択して下さい。次のように条件を記入するための項目が現れます。



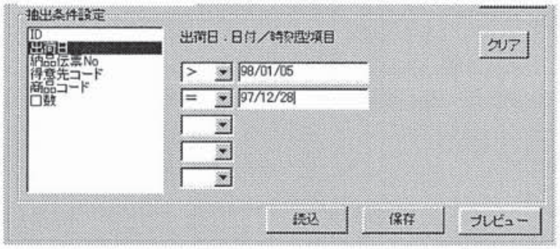

縦に5つの項目が並びます。
一番上の項目をクリックしてみてください。

次の記号と文字が一覧表示されます。意味は次の通りです。

- （空白）　なにも条件を設定しません。
- ＜　設定する値よりも小さいデータを抽出します。
- ＝　設定する値と一致するデータを抽出します。
- ＞　設定する値よりも大きいデータを抽出します。
- <=　設定する値と同じか小さいデータを抽出します。
- ≠　設定する値と異なるデータだけを抽出します。
- >=　設定する値と同じか大きいデータを抽出します。
- 範囲　設定する値の範囲に収まるデータを抽出します。
- 含む　設定する値を含むデータを抽出します。

これらのうち1つを選択すると、その右側に項目が現れます。ここで、条件となる数値を入力して下さい。たとえば、次のように条件を入力できます。

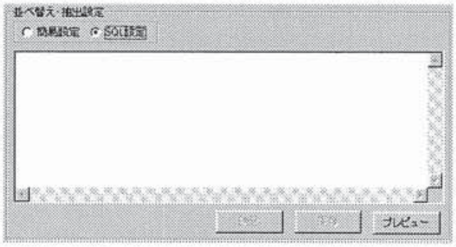
例）出荷日が1998年1月5日以降か、または1997年12月28日のものを抽出する。




これらの条件はテーブルの各項目ごとに設定できます。（条件の設定されている項目は太字でリストに表示されます）
設定した条件で実際にどのようなレコードが抽出されるのかを知りたい場合には、[プレビュー]ボタンをクリックして下さい。一覧表形式で抽出されたレコードが表示されます。

## 「SQL 設定」の方法

[SQL 設定]を選択すると画面は次のように切り替わります。



このＳＱＬ文を入力する領域に、直接ＳＱＬ文を入力します。ＳＱＬ分の一般的な構文は次の通りです。

テーブル名

```
SELECT * FROM 出荷データ
WHERE 出荷日 >#1998/01/05# OR 出荷日 =#1997/12/28#
ORDER BY 出荷日 DESC, 伝票番号
```

並び替え順　　抽出条件式

この例のように比較的簡単な条件ならば、数行のＳＱＬ文を記入するだけですが、テーブルの連結やレコード結合などを設定する場合には、ある程度のＳＱＬ文の知識が必要です。
Microsoft Accessなどをお使いならば、Microsoft Accessのウィザード機能などを使って比較的簡単にＳＱＬ文を作成することもできます。

## 4. 数値指定項目

[テーブル]の項目を設定します。この項目の内容に従って、ラベルを複数枚印刷します。
たとえば、出荷データテーブルの口数をこの数値指定項目に設定すると、同じラベルを口数分印刷することができます。

ここでは目的のテーブルに存在する項目を選択できますが、SQL設定でSQL文が直接入力されている場合には、直接SQL文で記述されている項目を入力する必要があります。

## 5. 配置指示項目

この項目は、デザインファイルの新規作成時に、[用紙設定]ダイアログボックスで[ラベル面差込専用]オプションがチェックされた場合のみ表示されます。
ここにはテーブルの項目を設定します。この項目の内容に従って、ラベルを自動的に用紙に配置します。

たとえば、出荷データテーブルの型番をこの項目に設定すると、ラベルライブラリに登録されているラベルのうち、[タブ]がこの型番と同じものを探しだし、自動的に用紙に配置します。商品の型番ごとに印刷するラベルのデザインが異なる場合などには、この機能はたいへん便利です。

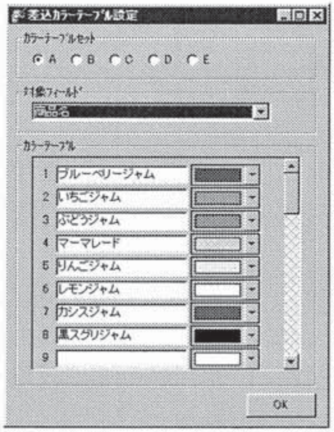
なお、ここでは目的のテーブルに存在する項目を選択できますが、ＳＱＬ設定でＳＱＬ文が直接入力されている場合には、直接ＳＱＬ文で記述されている項目を入力する必要があります。



## 6. 差込カラーテーブル設定

次のオブジェクトに対し、差し込みデータベースの指定した項目内容を元に、レコードごとに塗り込み色を変えて印刷する機能を備えています。

・四角オブジェクト
・楕円オブジェクト
・線オブジェクト
・文字オブジェクト
・差込（文字）オブジェクト




### カラーテーブルセット

カラーテーブルは最大５個のデータベースフィールドに対して割り当てることができます。１つのデータフィールドに関するカラーテーブルを１つの「テーブルセット」で設定します。
まず、テーブルセットＡ～Ｅを選択し、どのテーブルセットに対して色の割り当てを行うかを決ます。

### 対象フィールド

カラーテーブルセットの設定対象となるデータベース項目を入力します。

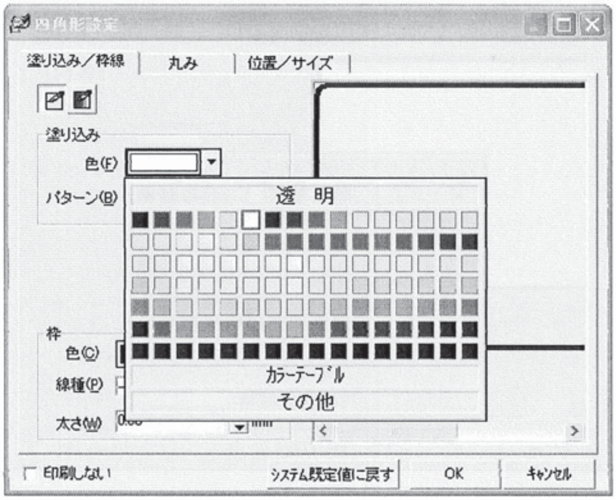
### 表示項目

１～40が表示されます。番号の次のフィールドに、実際に色を指定したいデータを入力します。

### 色

対象フィールド値に対応する色を指定します。

あらかじめ、1～40の色は適当な色に割り当てられており、ユーザーは変更が必要な場合に任意に変更することができます(カラーパレットコンボをクリックして色を変更します)。
上記の設定内容は、アプリケーションごとに保管されます(デザインファイルごとには保管されません)。
差込カラーテーブル機能を有効にするには、オブジェクトの編集画面で設定を行います。




画面例のように、色の部分をクリックし、カラーパレットのコンボを開き「カラーテーブル」を選択します。テーブルセット「A」～「E」を選択するメニューが表示されますので、ここでテーブルセットを選びます。

**この「カラーテーブル」が設定できる色は、次のものに限定されます。**
**四角・楕円・線オブジェクト ・・・ 塗り込み色および枠線の色で設定できます。グラデーションや枠線には適用できません。**
**文字・差し込みオブジェクト ・・・ 文字色に設定できます。**

# 差込項目のマクロ操作

差込項目は、［差込項目選択］画面で操作します。

## 単純指定

単純指定で、差込データベースとして設定されているテーブルの項目を選択すると、選択した項目のデータが差し込まれます。

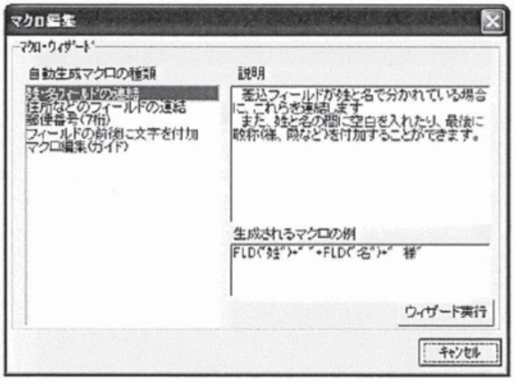
## マクロ指定

差込の指示にはマクロを使った高度な設定が可能です。これを行う場合には[マクロ指定]をクリックして下さい。次のようにマクロを入力できる領域が表示されます。

マクロ指定でマクロを入力します。簡単にマクロを利用したい場合や、マクロガイドを見ながらマクロを入力したい場合は、[マクロ設定(ウィザード)]ボタンをクリックして下さい。マクロの知識がなくても、よく利用するものを簡単に

設定できるように、いくつかの種類のマクロがあらかじめ用意されています。
また、用意されているマクロでは実現できない場合でも、マクロガイドを見ながら入力することも可能です。
[マクロ設定(ウィザード)]ボタンをクリックすると、[マクロ編集]画面が表示されます。

# マクロ編集

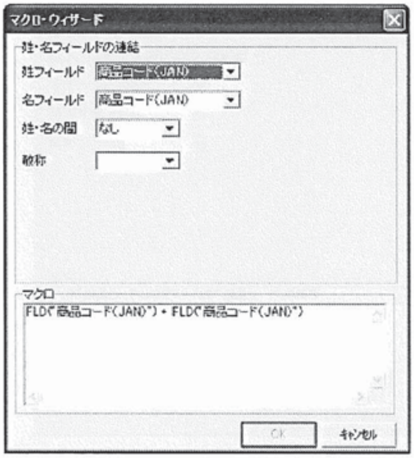



## 自動生成マクロの種類

**ここで作成したいマクロの種類を選択します。選択してから[ウィザード実行]ボタンをクリックすると、選択した項目により、適切な画面が表示されます。それぞれの項目では、次のようなマクロが作成できます。**

### 姓・名フィールドの連結

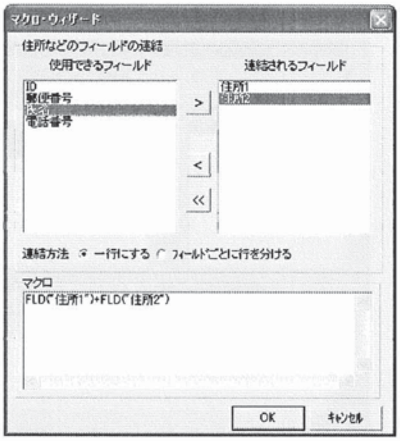
ふたつのフィールドの文字を連結したい場合にこの種類を選択します。
この種類を選択して[ウィザード実行]ボタンをクリックすると、次のような[マクロ・ウィザード]画面が表示されます。



この[マクロ・ウィザード]画面では、宛名印刷などで、姓と名が分かれたフィールドになっている場合、文字の連結ができます。姓と名の間に空白を入れたり、敬称を付加することもできます。
この種類では姓名に限定せず、単純にふたつの項目を連結したい場合にも利用できます。

## 住所などのフィールドの連結

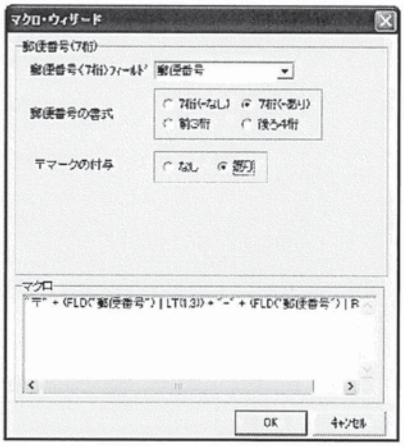
複数のフィールドの文字を連結したい場合にこの種類を選択します。
この種類を選択して[ウィザード実行]ボタンをクリックすると、次のような[マクロ・ウィザード]画面が表示されます。




この[マクロ・ウィザード]画面では、宛名印刷などで、住所が1と2に分かれたフィールドになっている場合、文字の連結ができます。連結後の文字を一行にするか行を分けるかを指定することもできます。
設定方法は、[使用できるフィールド]から連結したいフィールドをクリックして選択し、[>]ボタンをクリックします。クリックした順に、フィールドが次々に連結されるマクロが作成されます。
この種類では、3つ以上のフィールドを連結することもできます。

## 郵便番号(7桁)

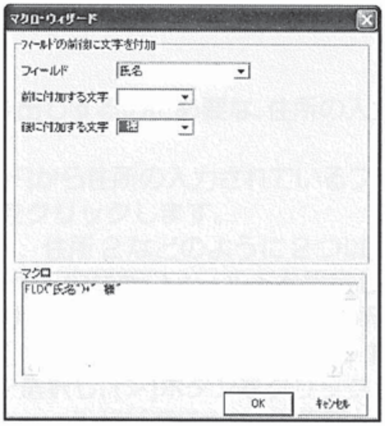
7桁の郵便番号の書式を加工したい場合にこの種類を選択します。
この種類を選択して[ウィザード実行]ボタンをクリックすると、次のような[マクロ・ウィザード]画面が表示されます。




この[マクロ・ウィザード]画面では、作成した郵便番号にハイフンを挿入する、前3桁と後ろ4桁に分離する、および郵便番号のマークを付加する、などの設定ができます。この[マクロ・ウィザード]画面は、次にように使用します。

## フィールドの前後に文字を付加

ひとつのフィールドの前後に決まった文字を付加したい場合にこの種類を選択します。この種類を選択して[ウィザード実行]ボタンをクリックすると、次のような[マクロ・ウィザード]画面が表示されます。




この[マクロ・ウィザード]画面では、金額の先頭に[¥]を追加したり、宛名印刷などで、氏名に敬称を付けることができます。

## マクロ編集（ガイド）

マクロのガイドを見ながら自由にマクロを入力したい場合は、この種類を選択します。
この種類を選択して[ウィザード実行]ボタンをクリックすると、次のような[マクロ・ウィザード]画面が表示されます。

この[マクロ・ウィザード]画面では、マクロをお客様ご自身で入力していくことになります。
マクロについての詳細は、**付録Cマクロ操作（マクロ式）→付録C30ページ参照**

この[マクロ・ウィザード]画面では、7桁の郵便番号のデータにハイフンを挿入する、前3桁と後ろ4桁に分離する、および郵便番号のマークを付加する、などの設定ができます。

**Memo**

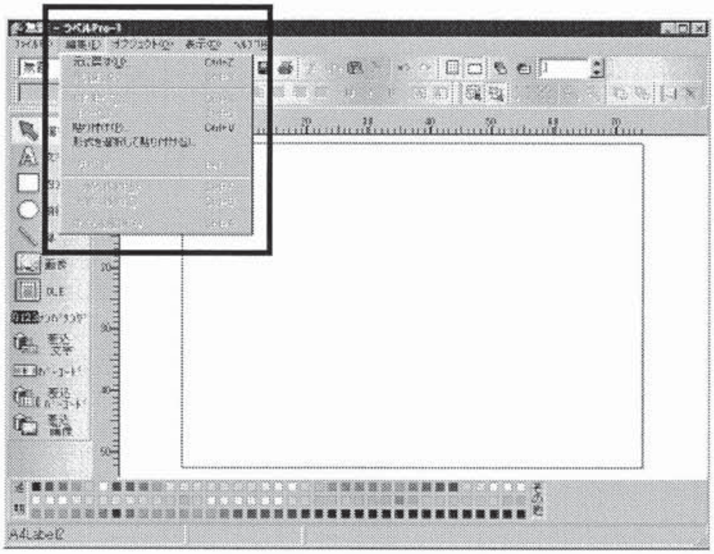
# 編集機能

**編集するときに使用する機能について説明します。**

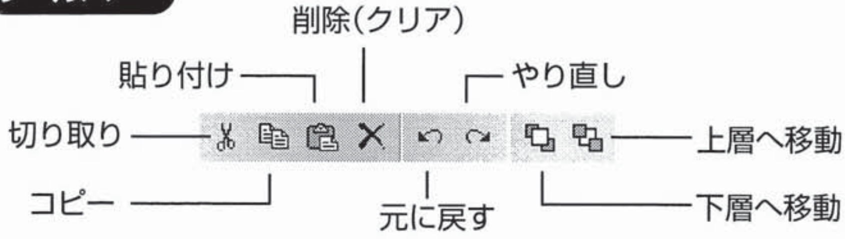
編集機能は、[編集] メニューまたはツールバーのアイコンから選択します。

## メニューバー

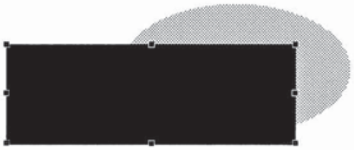
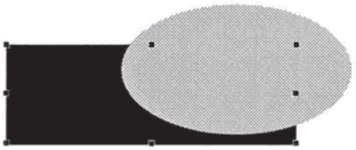
[編集] をクリックすると、編集メニューが表示されます。



## ツールバー



| 機能名 | 内　容 |
| --- | --- |
| 元に戻す | 直前の「オブジェクトの編集操作」※を取り消ことができます。<br>操作を繰り返すことで、オブジェクトの編集操作をさかのぼり取り消すことができます。ただし、ファイル保存（上書き、名前を付けて保存）を最後に行った時点までしかさかのぼれません。<br>※「オブジェクトの編集操作」の対象となる操作<br>オブジェクトの範囲修正・移動<br>オブジェクトのカラーパレットでの色設定<br>編集メニューでの操作（切り取り、コピー、貼り付け、形式を指定して貼り付け、クリア、上層移動、下層移動）<br>オブジェクトメニューでの操作（選択をのぞくすべて） |
| やり直し | 「元に戻す」操作で取り消した操作を復帰することすができます。<br>「元に戻す」を行った回数分、繰り返し行うことができます。 |
| 切り取り | 選択されているオブジェクトを切り取り（削除）、クリップボードに保存します。 |
| コピー | 選択されているオブジェクトをクリップボードに保存します。 |
| 貼り付け | クリップボードに保存されている内容をデザイン面に貼り付けます。<br>クリップボードには「切り取り」、「コピー」を行った場合に保存された内容と、他のアプリケーションで保存された内容とがあり、他のアプリケーションで保存された内容については下記の形式であれば貼り付けることができます。<br>・テキスト…文字オブジェクトとして貼り付けられます。<br>・ビットマップ（画像）…画像オブジェクトとして貼り付けられます。<br>・その他…ＯＬＥサーバー機能のあるアプリケーションで作成された独自形式のデータは、OLEオブジェクトとして貼り付けられます。<br>※ただし、テキスト、ビットマップでも、Windows規定外の独自形式のものもあり、これらは貼り付けすることはできません。また、複数の形式（テキスト、ビットマップ、ＯＬＥ）をもつデータの場合、作成元アプリケーションが指示するデフォルトの形式で貼り付けられます。 |
| 形式を選択して貼り付け | 他のアプリケーションで「切り取り」、「コピー」でクリップボードに保存されたデータを、形式を選択してラベル面に貼り付けます。 |
| クリア | 選択されているオブジェクトを削除します。 |

| 機能名 | 内　容 |
|---|---|
| 上層に移動 | 選択されているオブジェクトを最上層(前面)に移動します。<br> |
| 下層に移動 | 選択されているオブジェクトを最下層(背面)に移動します。<br> |
| すべてを選択 | 現在のオブジェクト選択状態を解除し、現在あるすべてのオブジェクトを選択します。 |

### クリップボードって何?

「コピー」や「切り取り」を指定したデータは、一時的にWindowsの「クリップボード」と呼ばれる場所に保管されます。貼り付けを実行すると、クリップボードに保管されていたデータがその場所に貼り付けられるというわけです。
クリップボードに一度保管されたデータは、新たにデータをコピーしたり切り取ったりするまではそのまま残ります。したがって、繰り返しそのデータを貼り付けることができるのです。
ただし、Windowsを終了したり再起動したりしたときは、クリップボードの内容は空になります。

# レイアウトに便利な機能（表示）

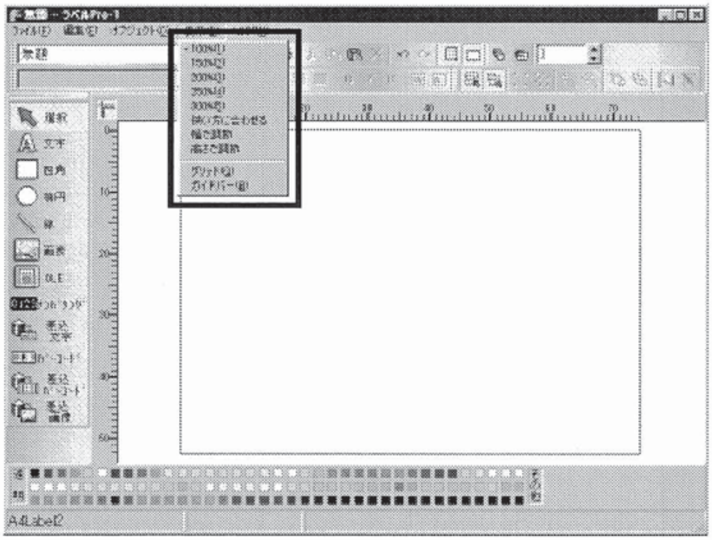
レイアウトをするときに便利な機能について説明します。



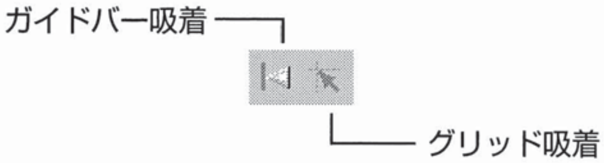
レイアウトに便利な表示機能は［表示］メニューから選択します。また、表示機能の一部はツールバーのアイコンからも選択することができます。

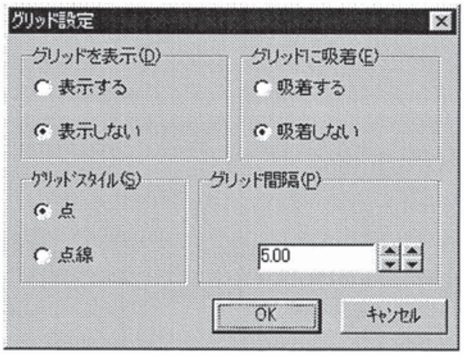
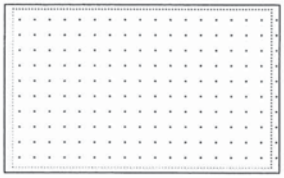
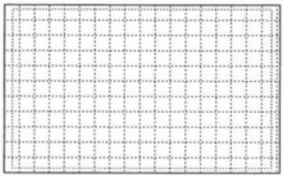
## メニューバー

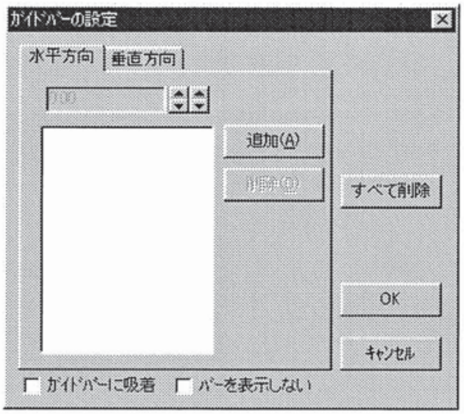
［表示］をクリックすると、表示メニューが表示されます。



## ツールバー



| 機能名 | 内　容 |
|---|---|
| 100%~300% | デザイン領域の表示倍率を100%~300%で指定することができます。<br>１００%表示はデザインウィンドウに用紙全体が表示できるサイズとし、その他の倍率はこれを基準とします。 |
| 狭い方に合わせる | 用紙面の縦・横のどちらか狭いほうがデザイン面いっぱいに表示されるよう、表示拡大率を調整します。 |
| 幅で調節 | 用紙の横幅がデザイン面いっぱいに表示されるよう、表示拡大率を調整します。 |
| 高さで調節 | 用紙の高さがデザイン面いっぱいに表示されるよう、表示拡大率を調整します。 |
| グリッド | デザインウィンドウにグリッド(格子)を表示し、オブジェクトがグリッドに吸着するよう設定することでができます。<br>複数のオブジェクトの頭を揃えたいときなどに便利な機能です。<br>[グリッド]をクリックするとグリッド設定画面が表示されます。<br><br><br>・グリッドを表示…グリッドを表示させたいときは、「表示する」をチェックします。<br>・グリッドに吸着…オブジェクトをグリッドに吸着させたいときは、「吸着する」をチェックします。<br>・**グリッドスタイル**…グリッドのスタイルを選択することができます。<br>点<br><br>点線<br> |

| 機能名 | 内　容 |
| --- | --- |
| | ・グリッド間隔… 1mm～9999999.99mmの範囲で、グリッドの間隔を設定することができます。 |
| ガイドバー | デザインウィンドウにガイドバー(ガイド線)を表示し、オブジェクトがガイドバーに吸着するよう設定することができます。<br>正確な位置にオブジェクトを配置したいときなどに便利な機能です。<br>[ガイドバー]をクリックするとガイドバーの設定画面が表示されます。<br><br><br>縦のガイドバーを表示させたいときは「水平方向」、横のガイドバーを表示させたいときは「垂直方向」を選択します。<br>・追加… [追加]ボタンをクリックすると、0mm位置のガイドバーが追加されます。入力欄にガイドバーの位置を入力します。<br>・削除…既存のガイドバーを削除することができます。リストの中から削除したいガイドバーを選択し、[削除]をクリックします。すべてのガイドバーを削除したいときは、[すべて削除]をクリックします。<br>・ガイドバーに吸着…チェックすると、設定されたガイドバーにオブジェクトの四隅が吸着します。<br>・バーを表示しない…チェックすると、ルーラーにガイドバーポイントを示す三角形だけが表示され、赤いガイドバーは表示されません。<br> <br><br>ルーラー上でマウスをダブルクリックすると、ガイドバー設定が表示されます。任意の数値を入力することでガイドバーが表示されます。 |

### 最小化って何？

●現在表示されているデザインウィンドウをアイコン化（最小化）し、一時的に画面からデザインウィンドウを消すことができます。消すといっても、あくまで「最小化」しているだけですので、アイコンの「最大化」または「元のサイズに戻す」をクリックすれば、再び表示されます。

●最小化するには、ウィンドウの右上にある（最小化）をクリックします。クリックすると、デザインウィンドウがアイコンになります。

●最小化したデザインウィンドウを元のサイズに戻すには、アイコン右の（最大化）か（元のサイズに戻す）をクリックします。

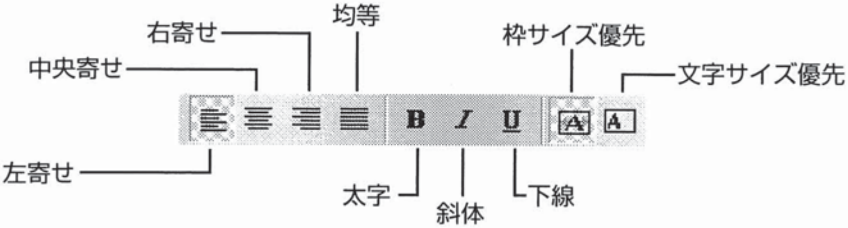
・最大化…「ラベル Pro-1」の画面いっぱいにデザインウィンドウが表示されます。

・元のサイズに戻す…最小化する前のサイズに戻ります。

# 文字書式設定機能

文字オブジェクト、差込文字オブジェクトの書式設定はそれぞれの設定画面で行いますが、ツールバーのアイコンからも行うことができます。

## ツールバー

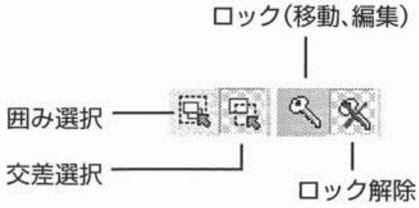



| 機能名 | 対象オブジェクト | 備　考 | 参照ページ |
|---|---|---|---|
| 左寄せ | 文字オブジェクト<br>差込文字オブジェクト | 文字寄せの設定を行います。<br>※「文字サイズ優先」のときのみ有効 | 84ページ |
| 中央寄せ | | | |
| 右寄せ | | | |
| 均等 | | | |
| 枠サイズ優先 | 文字オブジェクト<br>差込文字オブジェクト | 枠モードの設定を行います。 | 82ページ |
| 文字サイズ優先 | | | |

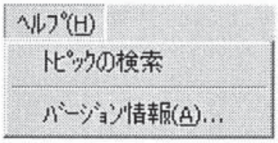
# その他の機能

「ラベルPro-1」には、まだまだ便利な機能があります。

## ツールバー



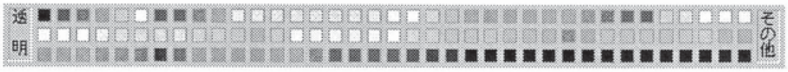

## メニューバー

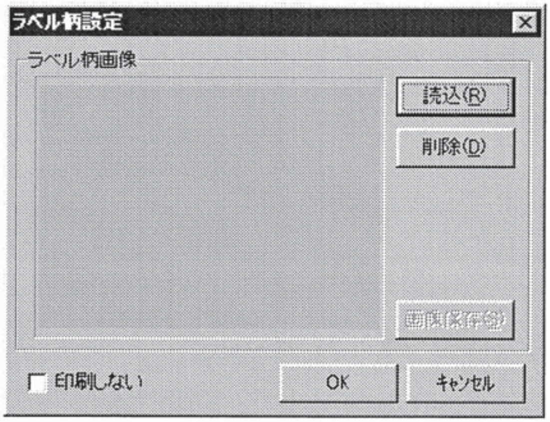



| 機能名 | 内　容 |
|---|---|
| 囲み選択 | 範囲指定された矩形の中に完全に含まれているオブジェクトのみを選択します。指定範囲にオブジェクト領域がはみ出すものは選択の対象になりません。 |
| 交差選択 | 範囲指定された矩形の中に少しでも交差しているオブジェクトも選択します。 |
| ロック(移動、編集) | オブジェクトを間違って編集しないように、オブジェクトを編集ロック状態にすることができます。ロック状態にするとオブジェクト選択点が赤くなり、移動、拡大、縮小、回転操作が一切できなくなります。プロパティでの設定も行えません。 |
| ロック解除 | ロック状態のオブジェクトをロック解除することができます。オブジェクト選択点は黒に戻り、移動、編集が自由自在に行えます。 |
| トピック検索 | 「ラベルPro-1」のオンラインヘルプ検索が表示されます。 |
| バージョン情報 | 現在のアプリケーションのバージョンを表示します。 |

ラベル柄

カラーパレット




<table>
<tr><th>編集項目</th><th>編集内容</th></tr>
<tr><td>ラベル柄</td><td>ラベルに柄をつけることができます。<br>[ラベル柄]をクリックすると、ラベル柄設定画面が表示されます。<br>
</td></tr>
<tr><td>カラーパレット</td><td>現在選択されているオブジェクトの色を変更することができます。<br>色が変更される部位は次のように、オブジェクトの種類によって異なります。
<table>
<tr><th>オブジェクト種類</th><th>左クリック</th><th>右クリック</th></tr>
<tr><td>文字</td><td>文字色(ベタ)</td><td>塗り込み色</td></tr>
<tr><td>線</td><td>線色</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>四角</td><td>矩形内部の色(ベタ)</td><td>枠線色</td></tr>
<tr><td>楕円</td><td>円内部の色(ベタ)</td><td>枠線色</td></tr>
<tr><td>画像</td><td>なし</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>ＯＬＥ</td><td>なし</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>ナンバリング</td><td>文字色(ベタ)</td><td>塗り込み色</td></tr>
<tr><td>バーコード</td><td>背景色</td><td>枠線色</td></tr>
<tr><td>差込バーコード</td><td>背景色</td><td>枠線色</td></tr>
<tr><td>差込画像</td><td>なし</td><td>なし</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

# バーコードの仕様

## JANコード規格（JAN8/JAN13）

1978年にJIS化された共通商品コードで、現在では90%以上の小売り商品に印刷されています。

| | |
|---|---|
| 特長 | ●0～9の数字のみを表現。<br>●バーコードの桁数は8桁と13桁の2種類。<br>●誤読の確立を低くするため、JANコードには必ずチェックデジットが入っています。チェックデジットはモジュラス10で計算されています。<br>●JANコードは4値の太さのバーとスペースで表現されています。<br>●JANコードの番号(データ数字)は流通コードセンターで管理されています。 |
| 使用例 | ●店頭販売される小売り商品に使用されています(食品、雑貨、たばこなど)。<br>●スーパーなどで生鮮食品にインストアーマーキングとして使用されています。 |
| 使用方法 | ●0～9の数字だけを使用し、8桁か13桁しか使用しない場合に使います。<br>●チェックデジットが入っているので、読取りデータの信頼性を要求する場合に使用します。<br>●自由にバーコードを印刷し、使用することができます(インストアーマーキング)。ただし、一般に流通される商品に印刷する場合には、流通コードセンターに商品登録を行い番号を発行してもらわなければなりません。<br>●初めの2桁(49又は45)を国番号として使用しているので、インストアーマーキングの場合にはこの2つの数字から始まるデータは避けてください。 |

## ITF（インターリーブド 2 of5）

1987年にJISに制定されたコードです。
太（2本）、細（3本）のバーとスペース（2値）で表現されるバーコードシンボルで、奇数桁をバー、偶数桁をスペースで表すバーコードです。奇数桁をバー、偶数桁をスペースで表現するので基本的には偶数桁のバーコードしか存在しません。

| | |
|---|---|
| 特長 | ●0～9の数字を表現。<br>●バーコードの桁数は自由に決定できます。<br>●チェックデジットは必ず付ける規格ではありませんが、チェックデジットを付けて使われる場合が多くみられます。チェックデジットはモジュラス10で計算されています。<br>●2値の太さのバーとスペースで表現されます。<br>●1つのキャラクタを5本で表現しているのでバーコード長を短くできます。ただし、誤読が多いのでチェックデジットが必要となります。 |
| 使用例 | ●段ボール印刷(ITF14、ITF16)、図書館(貸し出し管理)、ビデオ予約、カラオケ予約などで使用されています。 |
| 使用方法 | ●0～9の数字だけを使用する場合に使います。<br>●チェックデジットを付けて使用する事をお勧めします。 |

## NW-7（CODABAR）

NW-7は1994年に日本でJIS-X-0503として規格化されました。
NW-7は4本のバーと3本のスペースの合計7本で1キャラクタを構成されています。NW-7は太と細の7本のエレメントで構成されているのでNW-7と呼ばれています。
NW-7は比較的単純な構成と高い印刷精度が要求されないところから、古くから使用されています。

| | |
|---|---|
| 特長 | ●0～9までの数字を表現。<br>●6個の特殊記号(－，＄，：，／，.，＋)。<br>●4個のスタート・ストップコード(A～D)。 |
| 使用例 | 医療機関(病院／血液銀行)、図書館(貸し出し管理)宅配便(送り状)、各種会員カードなどで使用されています。 |
| 使用方法 | 0～9の数字だけを使用する場合に使います。 |

## CODE-39

1994年にJISに制定されたコードです。
2値（太、細）のバーとスペースで表されるバーコードで、9本（5本のバーと4本のスペース）で構成されます。スタートコード、ストップコードには＊が用いられ、データを＊で挟んだコードです。使用できるデータは英数字、特殊記号。FA、OAなどで主に使用されています。

| | |
|---|---|
| 特長 | ●0〜9の数字、英文字と特殊記号(—、+、$、%、／、.、スペース)を表現。<br>●バーコードの桁数は自由に決定できます。<br>●チェックデジットは付けなくてもかまいません(チェックデジットが無くても信頼性の高いバーコード)。<br>●チェックデジットはモジュラス43で計算されています。<br>●2値の太さのバーとスペースで表現されます。 |
| 使用例 | ●FA(生産ライン、在庫管理)、OA(伝票管理)などで使用されています。<br>●米国ではAIAG(米国自動車事業界)、EIA(米国電子愚品業界)、HIBCC(米国保険医療産業)などで使用されています。 |
| 使用方法 | 0〜9の数字、英数字を使用する場合に使います。 |

## CODE-128

1995年にJISに制定されたコードです。
CODE-39のバーコード長を短くしてデータの信頼性を高める為に開発されたバーコードで、4値のバーとスペースで構成されます。使用できるデータは英数字、特殊記号。FA、OA、商品流通コードなどで主に使用されています。MSIコードに代わって使用されはじめました。

| | |
|---|---|
| 特長 | ●0〜9の数字、英文字と特殊記号を表現。<br>●バーコードの桁数は自由に決定できます。<br>●チェックデジットは必ず付ける規格です。(チェックデジットを付けない使用方法も出てきています)<br>●チェックデジットは2桁付けます。(最も信頼性の高いバーコード)<br>●チェックデジットはモジュラス103で計算されています。<br>●4値の太さのバーとスペースで表現されています。 |
| 使用例 | FA(生産ライン、在庫管理)、OA(伝票管理)、商品流通コードとして使用されています。 |
| 使用方法 | 0〜9の数字、英数字を使用する場合に使います。 |

## UPC コード（Universal Product Code）

1973年にアメリカで制定された商品流通コードでアメリカ、カナダで使用されています。
JAN コード、EAN コードのもととなったコードで、UPC コードには3種類あります（「ラベルPro-1」で作成できるのは、バージョンAとバージョンE）

| | |
|---|---|
| A バージョン | JANコード、EANコードの13桁と非常に似ており、12桁の数字をコード化したものです。1桁目に意味を持たせており、標準は「0」、各ストアでコード化する場合には「2」、NDC（薬品コード、National Drug Cord）及びHRI（米国保険関連商品コード、National Health Related Items Cord）は「3」、チェックデジットによって保護されているものは「4」、クーポンは「5」を使用しています。これ以外の番号は規格が決定されていません。 |
| D バージョン | 12桁＋n桁のキャラクタ。Aバージョンでは12桁しか使えないのでこのDバージョンで桁数を増やすことができます（現在はあまり使われていません）。 |
| E バージョン | Aバージョンで作られたバーコードの中で、データの「0」をある一定の規則で削除して短縮するバージョン。EバージョンはAバージョンに変換することができます。 |

## UCC/EAN128（European Article Number）

1977年にUPCコードに準拠して制定された共通商品コードで、ヨーロッパで使用されています。

| | |
|---|---|
| 特長 | ●0～9の数字、英文字と特殊記号を表現。<br>●バーコードの桁数は自由に決定できます。<br>●誤読の確立を低くするため、EANコードには必ずチェックデジットが入っています。チェックデジットはモジュラス103で計算されています。<br>●EANコードは4値の太さのバーとスペースで表現されます。<br>EAN-128のバーコードは、製造年月日、薬効期限日、納入日、などの日付けや品質保証期間、ロットナンバー、重量、出荷先企業コード、梱包番号、発注番号など各種のコードや少量データを表示する汎用の標準バーコードです。<br>EAN-128では、コード128というバーコード・シンボルを使用し、国際EAN協会が定めた標準のデータ表示形式に従ってデータを表示します。 |

## 郵便番号カスタマバーコード

平成10年2月から開始した新郵便番号制（7桁化）に伴い、郵便局での仕分け作業の効率化などを目的に制定されたバーコードです。
郵便局では、大量のはがき・封書などの発送業務において、郵便料5%割引制度を定めているため、DM業者やカード会社などで注目されています。

| | |
|---|---|
| 特長 | 0～9の数字、アルファベット、特殊記号で表現。 |
| 使用例 | 日本国内の郵便局で使用されています。 |
| 使用方法 | はがきや封書に印刷されます。 |

## MaxiCode

1987年に米国UPS社が制定した仕分け、追跡管理に適したマトリックス型二次元コードです。

| | |
|---|---|
| 特長 | ●シンボルの中心に3重の同心円のファインダパターンを配置し、高速な360度の読み取りを実現。<br>●シンボルサイズを33段×30モジュールに規定し、シンボルサイズの検知を省略可能。<br>●情報は、数字モードとASCII値(0～127)モード、拡張ASCII値(128～255)モードでエンコード可能。<br>●一文字は1～2コードワードで表し、連続する数字は9桁が6コードワードに圧縮。<br>●最大の情報量は、英数字で93字、数字で138桁。<br>●キャラクタは拡張アスキー(512文字)までで、仮名や漢字などの2バイトコードはエンコードできません。 |
| 使用例 | 宅配便の仕分けや船積みでの仕分け管理などで使われています。 |

## PDF417(Portable Data File)

1989年に米国シンボルテクノロジー社が制定した、スタック型二次元コードです。主に行政や軍事分野で利用されています。

| | |
|---|---|
| 特長 | ●情報量をCode49の約30倍以上にし、ASCII文字や数字の他にバイナリの情報化も可能。<br>●最大情報量は、英数字で1,850文字、数字で2,725桁、バイナリで1,108バイトの大容量シンボルを実現。<br>●4バー4スペースの17モジュールのモジュール構成。<br>●17モジュールをコードワードと呼び、0～928の値(最大データ量925コードワード)を持つことが可能。<br>●バイナリ/ASCIIモードでは、5コードワードで約6文字、英数字モードでは1コードワードで約2文字、数字モードでは1コードワードで約3文字のデータをエンコードすることが可能。<br>●シンボルは、スタートコード、レフトインジケータ、データ、ライトインジケータ、ストップコードで構成。 |
| 使用例 | 米国規格協会(ANSI)、米国自動車工業会(AIAG)、米国電子工業会(EIA)、米国国防総省など多くの団体で採用され、幅広い分野で使用されています。 |

## QR/MicroQR Code

1994年に日本電装が制定した、マトリックス型二次元コードです。自動車部品の発注、生産、納品管理システムや自動仕分けに利用されています。

| | |
|---|---|
| 特長 | ●シンボルの3箇所のコーナーに大きなセルとそれを囲む正方形のファインダパターンを配置することにより、シンボルの切り出しと原点検知、シンボルサイズ検知、傾き検知を高速で実行。<br>●英数字100文字以下のデータであれば、32mSで読み取りが可能。<br>●最小21×21セルから4セル間隔で最大105×105セルまで、22種類のバージョンを用意。<br>●最大情報量は、数字7,366桁、英数字4,464字、バイナリ3,096バイト、漢字1,888字の大容量データのエンコードが可能。<br>●MicroQRでは、切り出しマークを1つにし、11×11、13×13、15×15、17×17の4バージョンをサポート。<br>●0～9の数字、英数文字と特殊文字9種などを表現。 |
| 使用例 | 日本自動車工業会や日本自動車部品工業会のEDI化で現品札(カンバン)や、日本文具紙業協会の現品ラベルなどで採用されています。 |

5

章

# 制限事項・注意事項

制限事項
注意事項

# 制限事項と注意事項

「ラベルPro-1」では、以下の制限事項と注意事項をよくお読みになり、正しくお使いください。



## 1 制限事項

### 1 バーコード印刷について

対応機種以外のプリンタを使用してバーコードの印刷を行った場合、読み取り精度の保証はいたしかねます。予めご了承ください。

### 2 画面の色について

「ラベルPro-1」に収録されている画像(マーク／アイキャッチ)はすべて印刷時の品質を良くするために、各データファイルごとに固有のパレット(256色)を持っています。このパレットはディスプレイの設定時に選択できるカラーパレットの「256色」とは色数は同じでも違う色が選択されているパレットです。そのためディスプレイのカラーパレットに「256色」が選択されている場合、正常に表示できないものが出てきます。また、ひとつの画像を貼り付けた時には正常に表示していても、複数の画像を貼り付けると同じ画像を使用していても色の表示が正しくされないことがあります。このままの状態で印刷をしても印刷には特に影響はありませが、レイアウト時にどんな色の画像なのかがわからないことがありますので、ディスプレイのカラーパレット設定を、256色を超える設定(HighColor あるいは True Color)にしてご使用になることをお勧めします。

### 3 オブジェクトの上限

ひとつのデザインデータに配置できるオブジェクトの数は、メモリまたはディスクの空き容量が許す限り作成できます。メモリが少ないパソコンやディスクの空き容量が少ないパソコンでは、作成できない事があります。この様な場合は、まずディスクの空き容量を増やしてください。それでも作成できない場合は、メモリ増設の必要があるか Windows の設定が誤っている事が考えられます。

## 4 フォントについて

デザイン画面に表示される文字は、表示倍率に従って表示されますが指定されているフォントの種類やサイズによっては、正しいサイズで表示されない事があります。

## 5 文字オブジェクトの印刷

デザインデータを他のパソコンで印刷した場合に、デザイン画面に表示されている文字オブジェクトと印刷した文字オブジェクトのフォントが違っている事があります。これは、文字オブジェクトに設定したフォントが印刷したパソコンに存在しないか、印刷したプリンタで使えないフォントであるために起きます。この様な場合は、ご使用のフォントをインストールするか、文字オブジェクトのフォントを変更してください。

## 6 用紙設定での余白について

プリンタには、それぞれ用紙の4辺に印刷できない部分（余白）があります。用紙上に貼り付けたオブジェクトが余白にかかると、その部分がカットされて印刷されてしまいます。デザイン画面ではこの余白は水色の線で表されています。これより外側にオブジェクトを配置しても、印刷されない場合がありますのでご注意下さい。

## 7 フロッピーディスクへの保存について

「ラベルPro-1」で作成されるデータファイルのサイズはフロッピーディスクに収納できるようなサイズ(FDは1.25または1.44MB)を超えることがあります。「ラベルPro-1」から直接FDへの書き込みもできますが、ファイルサイズが確認できないままでの保存は極力さけてください。FDに保存される際には一度ハードディスクへ保存しエクスプローラでファイルサイズの確認をされた後、FDへコピーまたは移動をすることをお勧めします。

## 8 印刷時のディスク容量

大きなサイズの画像を複数貼り付けたり、はがき印刷などの様に印刷部数を多く設定する時などには、必ずプリンタのスプール先(通常はWindowsのインストールされているドライブ)の容量が確保されていることをご確認ください。空き容量が確保されないまま印刷作業をすると、エラーの原因になったり正常に印刷されなかったりします。Windowsのバージョンによってはシステムがハングアップすることがあります。

### 9 日本語の入力

全角の文字を入力する場合は、必要に応じてかな漢字変換を自動的にオン/オフしますが、状況によってはお客様自身でかな漢字変換をオン/オフする必要があります。かな漢字変換は、NEC PC9800系ではCTRL+XFERキーで、IBM系（DOS/V機など）ではALT+漢字キーで切り替えることができます。これらの操作でかな漢字変換が切り替えられない場合は、お使いのWindows環境に正しく日本語入力システムが組み込まれていないことが考えられます。Windowsのコントロールパネルから＜日本語入力システム＞を起動し、設定を確認してください。

## 2 注意事項

### 1 文字の表示について

文字のラインが細い書体を指定して文字を作成した場合、文字がかすれて読みにくくなる場合があります。そのような場合は、画面表示を拡大すると表示されます。また、印刷は設定した書体で正しく出力されます。

# 付　録

付録A　Windowsの操作
付録B　Microsoft ACCESSを利用したSQLの作成
付録C　マクロ作成（マクロ式）
付録D　画像一覧

# 付録A Windowsの操作

## 「コンピュータに触れるのは初めて・・・」と言う方に

本来であれば、Windowsのマニュアルを読みこなし、おおよそのことが分かった上で、アプリケーションを操作する方がよいのは当然のことです。しかし、Windowsのマニュアルを隅から隅まですべて読んで、理解しなくてはいけないのか・・・、と思っただけで気が重くなってしまう、という気持ちも分からないでもありません。せっかく買ってきたコンピュータなのに、たくさん勉強しないと、使いたいアプリケーションも使えないというのは、ある意味では悲しいことかもしれません。

そこで、細いことや、難しいことは後回しにして、とりあえず「ここだけを押さえておけば、何とかなる」という点だけを抜粋した、簡単なWindowsの操作マニュアルを付録として最後につけておきます。

このマニュアルは、弊社製品を使用しているお客様より質問の多かった機能、また、パッケージソフトを使用する上で、利用頻度の高い機能だけを抜粋して説明するものです。決してWindowsのすべての機能を詳細に説明するものではありません。詳細については、Windowsに添付されているマニュアルなどをご覧ください。

また、ここではWindows95/98をベースに操作説明を進めています。あらかじめご了承ください。

# 1 エクスプローラ

エクスプローラはファイルの移動やコピー、削除などファイル管理や整理をするために必要なツールです。この項では、利用頻度の高いケース別に簡単な使用方法を説明します。

## 1 ファイルとフォルダ

エクスプローラの使用方法を説明する前に「ファイル」、「フォルダ」、「ドライブ」の3つについて簡単に説明します。Windowsでは、プログラムデータやユーザが作成したデータ等を「ファイル」といい、その「ファイル」が保存されてる場所を「フォルダ」と呼んでいます。また、その「フォルダ」が格納されている場所を「ドライブ」と呼び、ハードディスク、3.5インチFD(フロッピーディスク)、CD-

ROM等がそれに相当します。簡単にいってしまえば、ドライブは「書類棚」、棚に並んでいるフォルダが「フォルダ」、そのフォルダに整理されているファイルが各々の「書類」というイメージです。それでは、実際にエクスプローラを起動し、中身を見てみましょう。
上図では、左枠の欄よりA:ドライブに3.5インチFD、C:からD:ドライブにハードディスクドライブ、F:ドライブにCD-ROMが割り当てられているのがわかります。現在C:ドライブの[Windows]というフォルダが開いており、右枠の欄にそのフォルダ(ディレクトリともいう)の内容が一覧されています。
上図(DOS/V PC/AT互換機の場合)は、あくまでも参考です。ドライブの割り当てや表示されるフォルダ名などは、お使いのパソコンの環境により異なります。

## 2 ファイルサイズとファイルの一覧

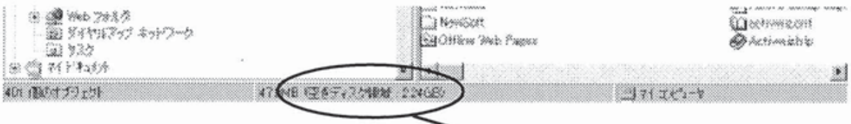
実際に作業をする前にファイルサイズやハードディスクの空き容量について少し説明します。エクスプローラではファイルの移動やコピーだけでなく、そのファイルの大きさ(ファイルサイズ)や種類・属性等や、ハードディスクや3.5インチFDドライブの空き容量等も簡単に知ることができます。
たとえばファイルサイズがわからないと、3.5インチFDへどれだけのファイルが収納できるかが分かりません。ハードディスクの空き容量がわからないと、新しいソフトウェアをインストールする時に困ることもあります。自分が作成したファイルがどのくらいのサイズなのか?自分が使っているディスクはあとどれくらいの容量があるのか?くらいは知っておいた方がよいでしょう。

### ●ファイルサイズを見る

エクスプローラの[表示]メニューの[大きいアイコン]から[詳細]までの4つは、エクスプローラでファイルを表示するときの「表示の仕方」を選択するメニューです。[大きいアイコン]、[小さいアイコン]、[一覧]では、アイコンとファイル名だけの表示になります。[詳細]を選択すると、アイコン、ファイル名に続きサイズ、ファイルの種類、更新日時が表示されます。ここで、ファイルサイズを確認するようにすれば、3.5インチFDへのコピーで失敗することはありません。

### ●ハードディスクの空き容量

いかにハードディスクが大容量になったとはいえ、あとどれくらい容量が空いているのかは、気になるものです。ハードディスクの空き容量を確認するには、空き容量を知りたいドライブ(ハードディスク、3.5インチFDなど)にカーソルを当て、クリックします。エクスプローラ画面の一番下に[空きディスク領域]として表示されるのが、そのドライブの空き容量です。



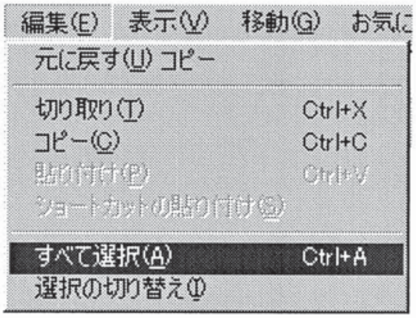
ここに空き容量が表示される。

## 3 ファイルの選択

エクスプローラを使用して作業をするときに、「正しくファイルが、選択されている」ことが条件となります。ひとつのファイルを選択するのは簡単です。しかし、複数のファイルを選択するときには、ひとつづつ選択していたのでは、作業性も悪く、選択ミスなどを起こす原因ともなります。そこで、この項では複数のファイルを選択する場合に、知っておくと便利な方法をいくつか紹介します。

### ●フォルダ内のすべてのファイルを選択する

まず、選択したいファイルが収納されているフォルダを[フォルダ]欄から探し、クリックして開きます。フォルダの内容を確認したら、メニューから[編集]-[すべて選択]をクリックすると、すべてのファイルが選択されます(ファイル名が反転して表示されます)。

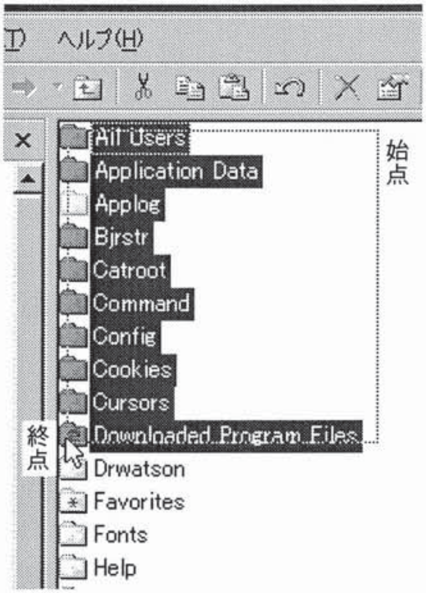


●連続して並んでいる複数のファイルを選択する

1番目から10番目といったような連続して並んでいるファイルを選択する場合、[Ctrl]キーを押しながら、ひとつひとつ選択していく方法があります。しかし、この方法は、ファイルの数によっては大変な作業になってきます。ここでは、まとめてファイルを選択する方法を、いくつか紹介します。

・[SHIFT]キーを使って選択

このとき、ウィンドウの白い部分から始めないと不要なファイルまで選択してしまい、うまく選択できないことがあります。右の場合、右上を始点とし、左下にマウスを移動させています。



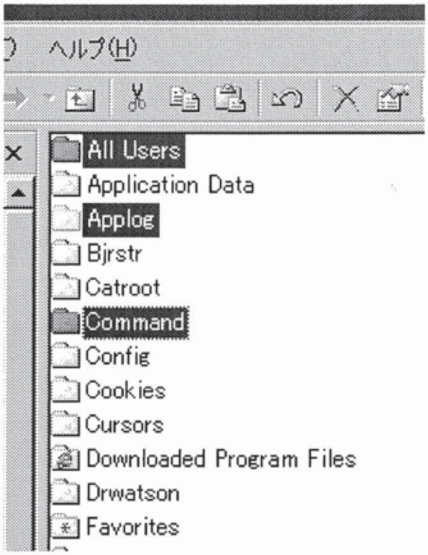

●飛び飛びに並んでいるファイルを選択する

1番目と3番目と6番目のファイルなど、飛び飛びのファイルを選択しようと思ったときは、[CTRL]キー押しながら選択します。

選択したい範囲の先頭のファイルを選択し、[SHIFT]キーを押しながら、最後のファイルを選択すると、その間のファイルすべてが選択されます。

・マウスを使って選択

選択したい範囲のファイルを、マウス左ボタンのドラッグにより枠で囲みます。囲まれた範囲のファイルはすべて選択されます。




## 4 ファイルの移動とコピー

ファイルやフォルダの選択方法がだいたい分かったところで、実際にファイルを移動·コピーしてみましょう。

まず、前項を参照して移動·コピーさせるファイルを選択してください。ここでは、[Image Create II]から[Test]というフォルダに複数選択したファイルを移動·コピーしてみます。

「ファイルの移動」は、移動先に選択されたファイルをそのまま移しますので、移動元の場所からはファイルはなくなってしまいます。

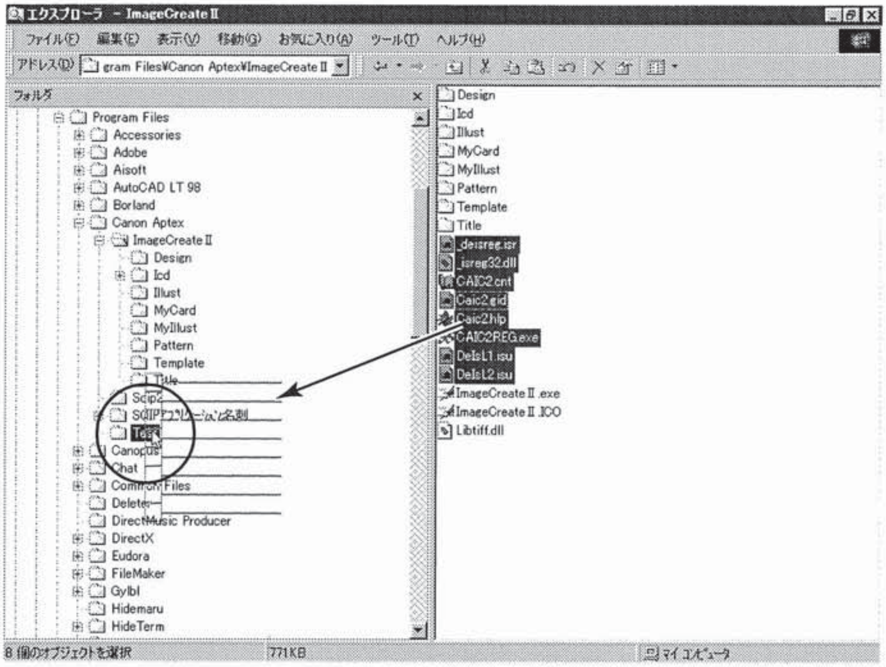
「ファイルのコピー」は、選択されたファイルをコピー先にコピーして、コピー元のファイルはそのまま今の場所に残ります。

「ファイルの移動」、「ファイルのコピー」は、操作自体はほとんど同じですが、結果が違ってくるので、注意してください。

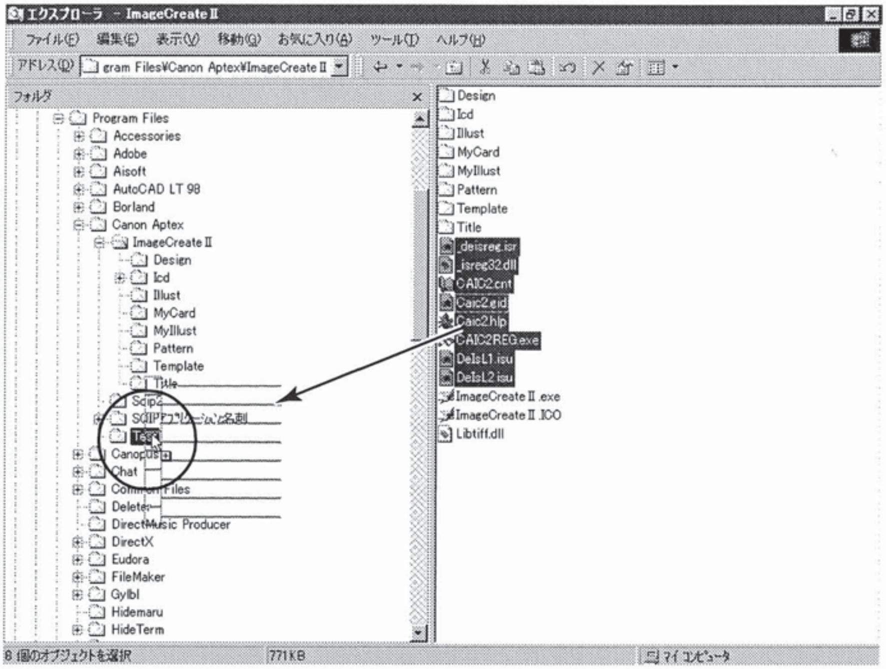
実際の操作としては、選択されたファイルの中のひとつを左ボタンでクリックし、ボタンを押したまま、移動またはコピーしたいフォルダ上にドラッグします。このとき、マウスポインタの形状に注意してください。移動時には矢印型の通常のポインタですが、コピー時には矢印ポインタの下に「+」マークがつきます。

フォルダからフォルダへは基本的に「移動」とされており、フォルダから3.5インチFDなどへは「コピー」とされています。
このため、フォルダ間でファイルのコピーをしたい場合は、[CTRL]キーを押しながらコピー先へドラッグします。この場合には、矢印ポインタの下に「+」マークがつきます。
3.5インチFDへファイルを移動したい場合は、逆に「+」マークを消さなければなりません。この時も同様に、[CTRL]キーを押しながら、3.5インチFD上にドラッグしてください(お客様の環境によってはキー操作などが異なる場合があります)。

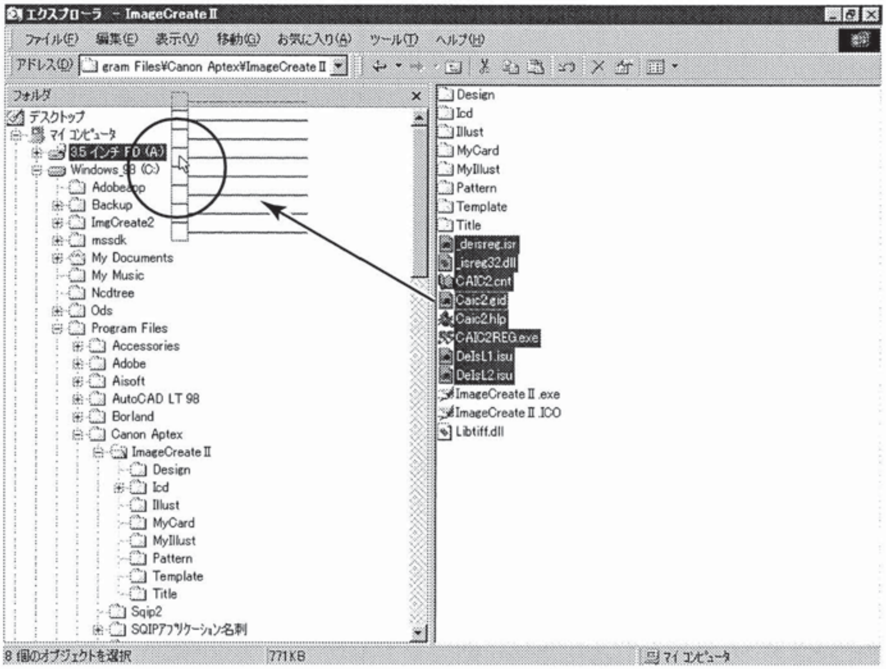
(フォルダ間の移動の場合)キー操作はなし



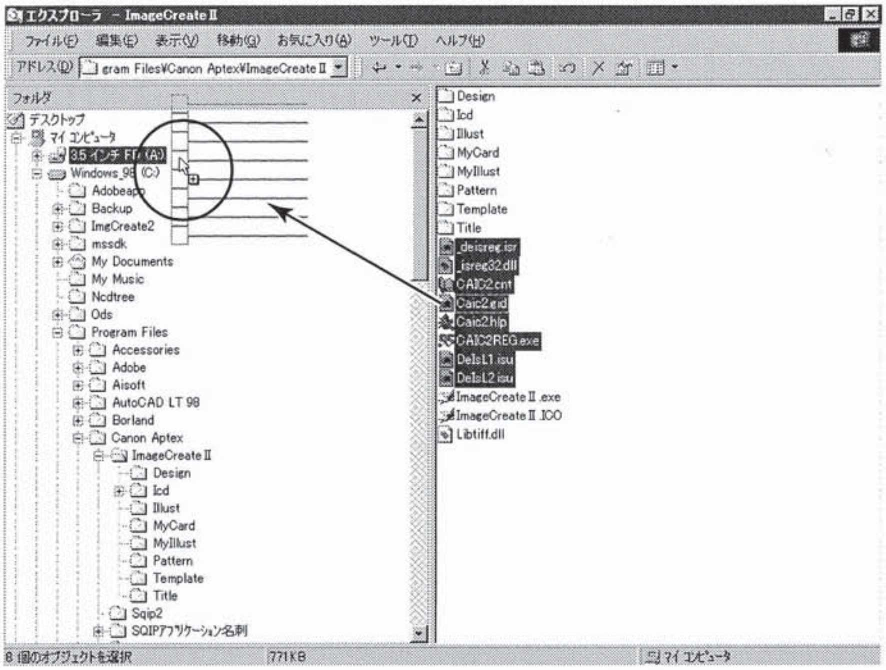
(フォルダ間のコピーの場合)CTRLキーを押しながら



(フォルダから3.5インチFDへ移動)[SHIFT]キーを押しながら

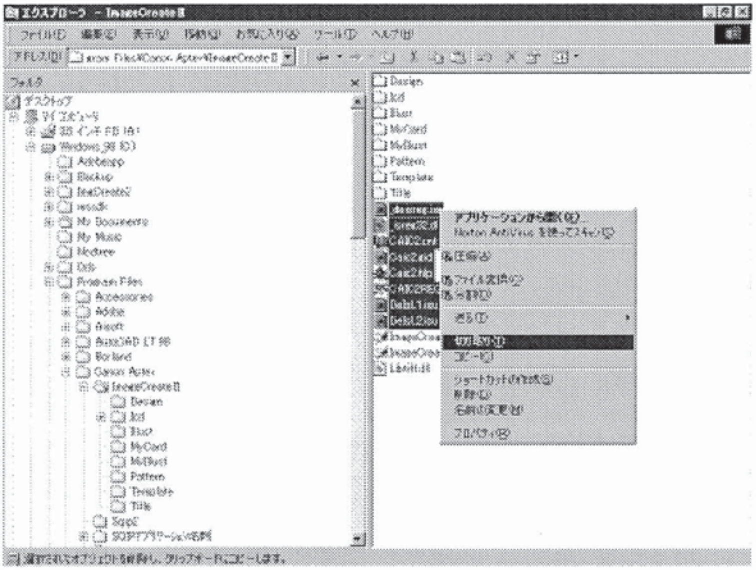


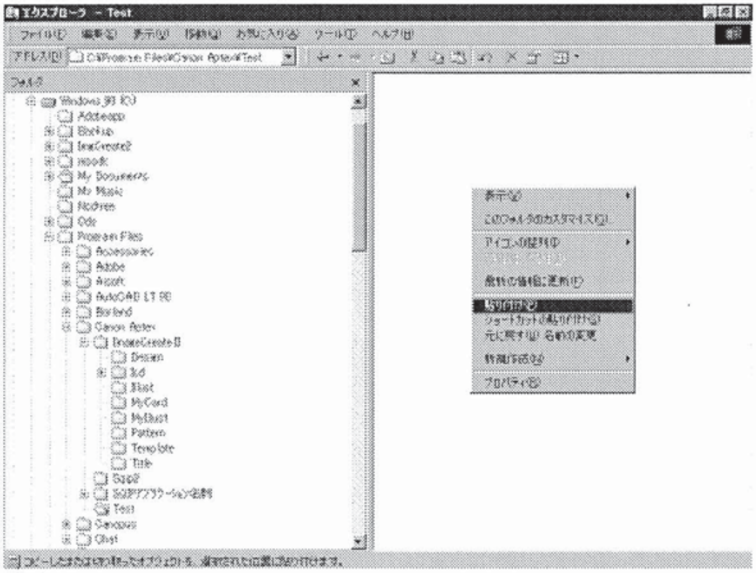
(フォルダから3.5インチFDへコピー)キー操作はなし




これで、ファイルの移動、コピーができました。

次に、マウスの右ボタンを使用した方法も説明しておきましょう。同様に複数のファイルを選択します。選択したファイルの上で右ボタンをクリックし、移動する場合は[切り取り]を、コピーする場合は[コピー]を選択します。
移動先のフォルダ[TEST]をクリックして開き、右枠上で右ボタンをクリックし[貼り付け]を選択します。
[Image CreateⅡ]から切り取ったファイルが[Test]に貼り付けられました。





## 5 ファイル、フォルダの削除

パソコンを長い間使用していくと、フォルダやファイルの数も徐々に増えてきます。こまめに不要になったフォルダやファイルを削除すると、ハードディスクの容量も確保でき、快適に作業ができるようになります。この項では、フォルダやファイルの削除について説明します。

まず、前項と同様に削除したいファイルまたはフォルダを選択します。選択したら、キーボードの[DEL]キーを押します。「‥‥をごみ箱に移してもよろしいですか?」というメッセージが表示されますので、よければ[はい]ボタンをクリックします。

また、コピーなどと同様に削除するファイルまたはフォルダの上で右ボタンをクリックすると[削除]というメニューが表示されますので、それを選択しても削除できます。

「ごみ箱」の大きさ(「ごみ箱」として確保されている容量)は、ご利用のハードディスクの容量、空き容量によって異なってきます。削除しようとしているファイルまたはフォルダの容量が、確保されている「ごみ箱」の容量より大きい場合は、「ごみ箱」に移されずに、「‥‥は、ごみ箱に対して大きすぎます。直接削除します。よろしいですか?」というメッセージが表示されます。[はい]ボタンをクリックすると、ファイルやフォルダは、直接削除されます。

## 6 削除したファイル、フォルダの復帰

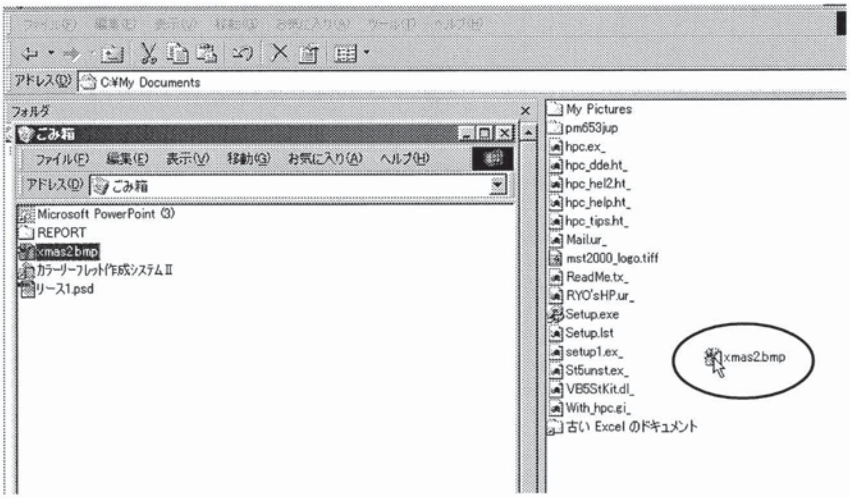
Windowsでは削除するファイルやフォルダを、一度「ごみ箱」に置きます。そのため、[ごみ箱]アイコンをダブルクリックすると、ごみ箱に一度捨てたファイルやフォルダがたまっているのが分かります。ごみ箱を空にしてしまうと、完全に消されてしまいますが、ごみ箱にたまっているファイルやフォルダについては復帰が可能になっています。それでは復帰の方法について説明しましょう。

[ごみ箱アイコン]をダブルクリックしてください。[ごみ箱]が開きます。[ごみ箱]には今まで削除したファイルがたまっています。復帰させたいファイルを「ファイルの選択」の説明と同様に選択してください。メニューから[ファイル]-[元に戻す]を選択すれば、選ばれたファイルは元のフォルダに復帰します。

またエクスプローラを同時に起動させ、マウスのドラッグで指定したフォルダへの復帰も可能です。

[ごみ箱]からの復帰

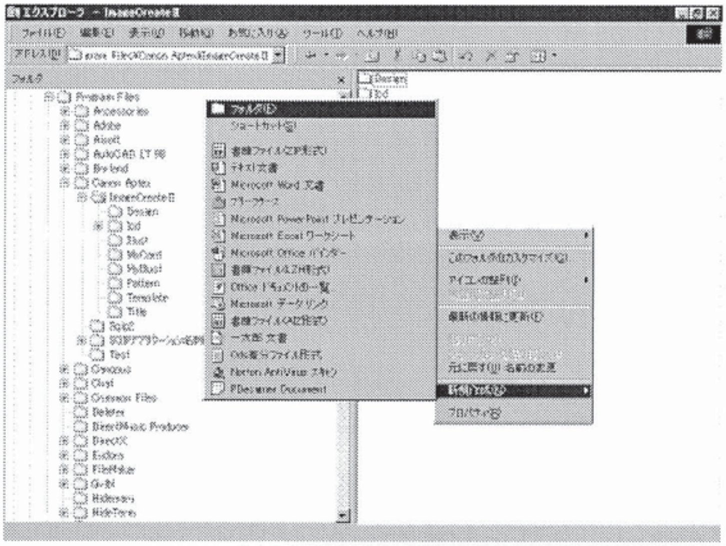
エクスプローラを同時に起動させ、マウスのドラッグによる復帰



## 7 フォルダの新規作成

ファイルを整理するためには、フォルダを種類や用途別に作成し、その中にファイルを収納するのが一番良い方法です。この項では、新規フォルダの作成について説明します。整理しやすい種類や用途のフォルダを作成してみてください。

フォルダを作りたいドライブまたはフォルダ(フォルダの中にさらにフォルダを作成することもできます)を[フォルダ]の枠からクリックします。クリックすると右枠([開いているフォルダ])にそのドライブまたはフォルダの内容が表示されます。右枠([開いているフォルダ])中の白地の部分で、マウスの右ボタンをクリックするとメニューが開きますので、[新規作成]-[フォルダ]を選択します。右枠([開いているフォルダ])の一番下に[新しいフォルダ]ができます。



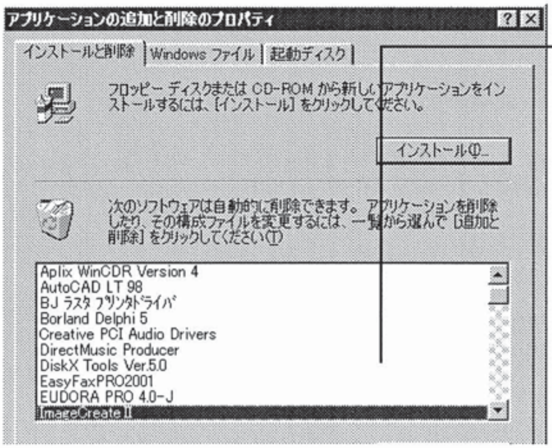
フォルダ名をつけてリターンキーを押します。

## ② コントロールパネル

コントロールパネルは、システム内の各部の設定内容の変更、追加を個別に行うことができる機能です。たとえばインストールされているアプリケーションを削除する、各種ドライバ(プリンタ、ディスプレイ)などを登録、削除するなど、お客様がご使用になっているパソコンの環境をお客様の使用条件に合った状態に設定できるようになっています。
アプリケーションによってはコントロールパネル内の設定をそのアプリケーションに合わせないと正常に動作しないものもありますので、コントロールパネルの使用方法を知っておくことがアプリケーションを円滑に使用するひとつの方法ともいえます。

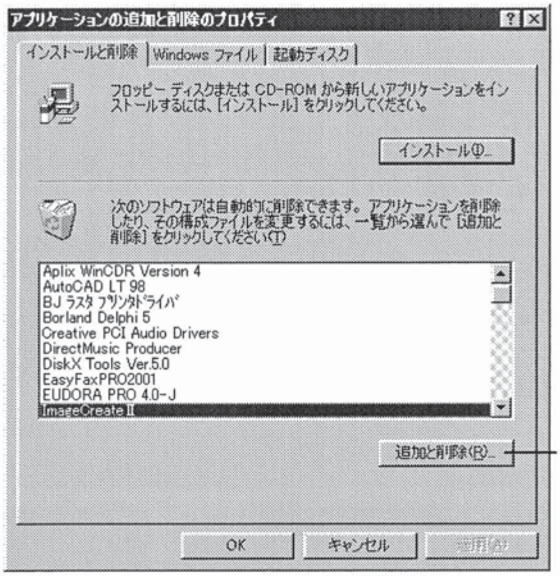
### 1 アプリケーションの追加と削除

コントロールパネルの中の[アプリケーションの追加と削除]は、アプリケーションを新規にインストール(登録)したり、インストールされているアプリケーションをパソコンから削除するためのものです。
通常、アプリケーションをWindowsに登録するときは、そのアプリケーション専用のインストーラが付属しているため、この[アプリケーションの追加と削除]アイコンを使用してインストールをすることは少ないと思います。
ここでは、アプリケーションの削除の方法について説明します。削除プログラムについても各アプリケーションに専用のものが付属されている場合もありますが、インストールプログラムと異なり必ず付属しているものではありません。削除の方法は次の手順で行ってください。
まず、[アプリケーションの追加と削除]アイコンをダブルクリックします。




この欄に表示されているプログラムは自動削除できます。

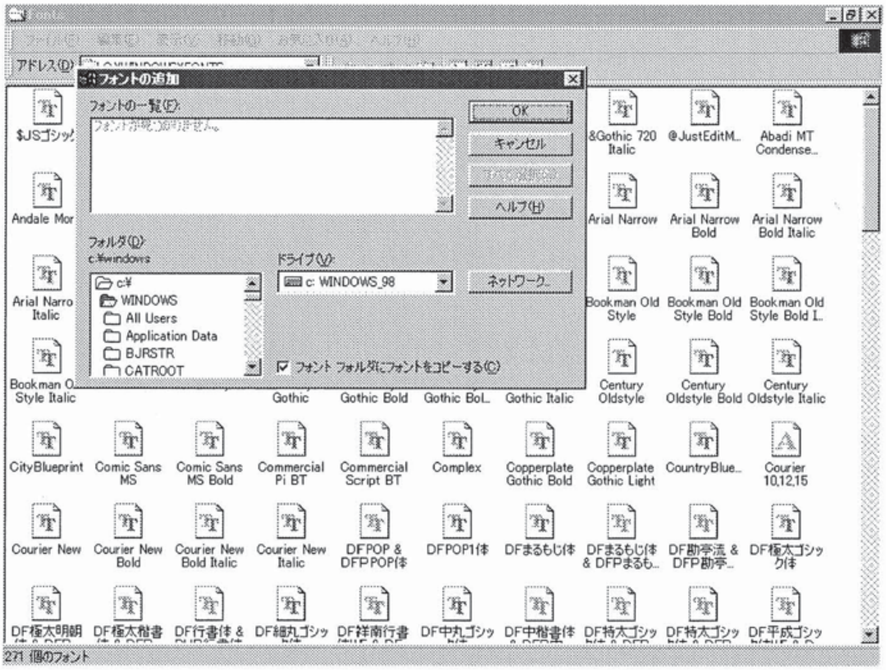
削除したいプログラムにカーソルを当て、[追加と削除]ボタンをクリックしてください。削除プログラムが自動的に起動し、プログラムを削除してくれます。
なお、下図の一覧に表示されないプログラム(Windows3.1対応16ビットプログラムなど)の削除については、各アプリケーションのマニュアルを読むか、各メーカーへお問い合わせください。



プログラムを削除します。

## 2 フォント

最近ではフォント(文字書体)も大変購入しやすく、また、アプリケーションソフトにも様々なフォントが付属していることが多くなりました。フォントはたくさんあった方が、色々なデザインができメリットも多いのですが、登録しすぎるとハードディスクの容量をかなり取ってしまうため(和文1書体で約2～5MB)、使用しないフォントはまめに削除していった方がよいでしょう。
コントロールパネルの中の[フォント]アイコンはフォントの新規登録と削除、登録されているフォントの一覧などを見る機能です。
それではまず、新しいフォントの登録について説明します。
コントロールパネル内の[フォント]アイコンをダブルクリックして、[ファイル]-[新しいフォントのインストール]を選択してください。



上記のようなダイアログが開きました。現在、[フォントの一覧]には「フォントが見つかりません」という文字がグレーで表示されています。新しく登録するフォントが収納されているディスク(3.5インチFD／CD-ROM／ハードディスク)のドライブを[ドライブ]の欄より選択してください。[ドライブ]の上部に「フォント名を取り出し中･･･　%」という文字が表示され、100%になると[フォントの一覧]に取り出されたフォント名が一覧表示されます。登録するフォントを選択して[OK]ボタンを押してください。

次に登録されているフォントの削除の方法について説明します。

削除したいフォントのアイコンにカーソルを当てます。[ファイル]-[削除]を選択するか、削除したいフォントのアイコン上で右ボタンを押して[削除]を選択するとフォントが削除(ごみ箱へ移動)されます。

その他、フォントの内容(どのような書体か?)を見たいときは、そのフォントのアイコンをダブルクリックします。フォントサンプルの一覧が表示されます。

## 3 プリンタ

コントロールパネルの中で最も良く使用するのが、[プリンタ]設定です。プリンタは各メーカーにより様々ですが、ここに登録されるのは、各プリンタに付属しているプリンタドライバです。プリンタドライバは、Windowsとプリンタの間を取り持つソフトウェアで、これがWindowsシステム内に登録されていないと、プリンタをパソコンに繋いでも正しくプリント(印刷)されません。新しいプリンタを購入された時や、いままでのプリンタドライバを交換する時には必ず登録が必要となります。それでは、プリンタドライバの登録・削除について説明しましょう。

### ●新しいプリンタの追加

最近のプリンタドライバには、専用インストーラーが付属している場合が多くなっていますので、専用インストーラーを使用しての方法は各プリンタメーカーの指示にしたがって行ってください。

ここでは、専用インストーラーが付属されていない場合の登録方法を説明します。

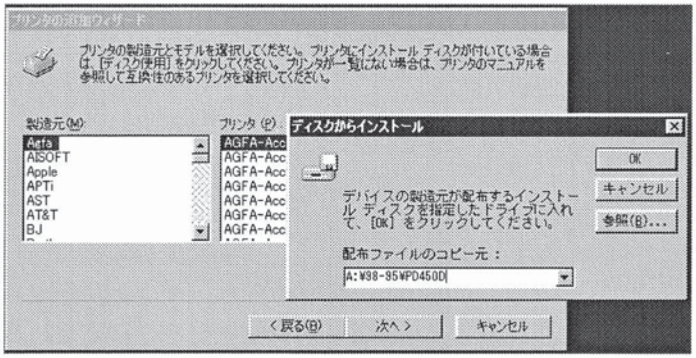
まず、コントロールパネルを開いて、[プリンタ]アイコンをダブルクリックします。[プリンタ]ダイアログが開きます。[プリンタの追加]アイコンをダブルクリックして新しいプリンタの追加作業を行います。

最初に表示されるダイアログは内容を読んでそのまま[次へ]ボタンをクリックしてください。

次に開くダイアログでは、[製造元]、[プリンタ]の欄に各社のプリンタが一覧表示されています。これらはWindows95/98にあらかじめ登録されているプリンタドライバです。使用できますが、決して最新のものではありませんのでご注意ください。

ここでは、一覧の中のプリンタドライバを選択するか、新しいドライバが収納されているFDまたはCD-ROMを各ドライブにセットして[ディスク使用]のボタンをクリックしてください。

次のダイアログで、どのディスクからプリンタドライバを登録するのかを指定し、[OK]ボタンをクリックすると、そのディスクにあるプリンタドライバを読み取ってきます。




後は、メッセージにしたがって、プリンタを繋ぐポート(通常はLPT1)やプリンタの名前、通常使うプリンタに設定、テストプリント有無などを指定して最後に[完了]ボタンをクリックするとプリンタドライバのコピーが開始されます。プリンタドライバは、各メーカーが常に最新のものにアップグレード(バージョンアップ)しています。まめにメーカーに問い合わせて、新しいものに交換することをおすすめします。

## ●プリンタドライバの削除

システムの中にあまりに多くのプリンタドライバが登録されているとパソコン自体の動作が遅くなったり、頻繁にハングアップしてしまうなど色々問題が出てくることがあります。また、同じプリンタドライバが混在しているのも(古いバージョンや新しいもの)誤動作の原因となる場合があります。必要のないドライバまたは、古いバージョンのものは削除して使用することをお勧めします。

削除の方法は、[フォント]のときと同様に削除するプリンタのアイコン上で右ボタンを押して[削除]を選択するか、削除したいプリンタのアイコンにカーソルを当て[ファイル]-[削除]を選択すれば簡単に削除できます。

## ●その他の機能

その他の機能として、使用中のプリンタの作業状況を表示([プリンタ]の中のそれぞれのプリンタアイコンをダブルクリック)したり、それぞれのプリンタの詳細設定(プリンタアイコンにカーソルを当て、右ボタンまたは[ファイル]-[プロパティ]を選択)もこのダイアログから行うことができます。

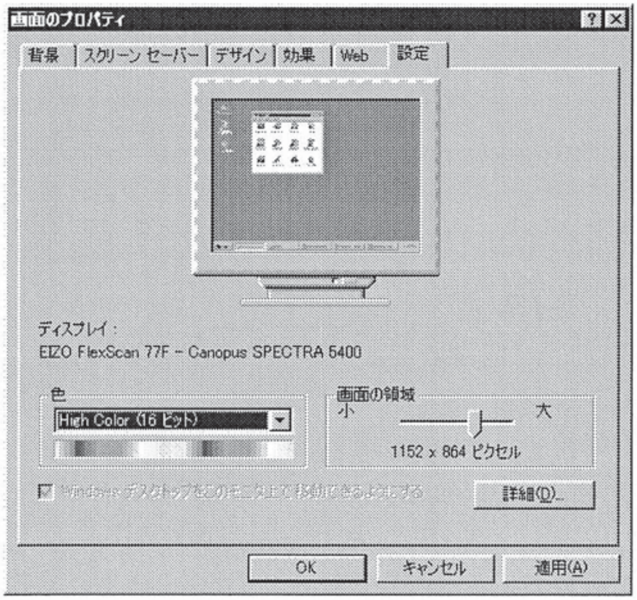
## 4 画面

コントロールパネルの機能の中で、最も変化のわかりやすいところが、パソコンの画面のデザインや色の設定などが行える[画面]設定です。たとえば、壁紙の色や柄、またはウィンドウの配色を変えたり、スクリーンセーバーの設定などができるのもこの[画面]設定です。ダイアログ上部にあるタブを切り替えて背景(壁紙)、スクリーンセーバー、画面のデザインなどの内容を切り変えて、好みのパターンを探して見てください。どのように設定しても、アプリケーションを使用する上で支障はありません。

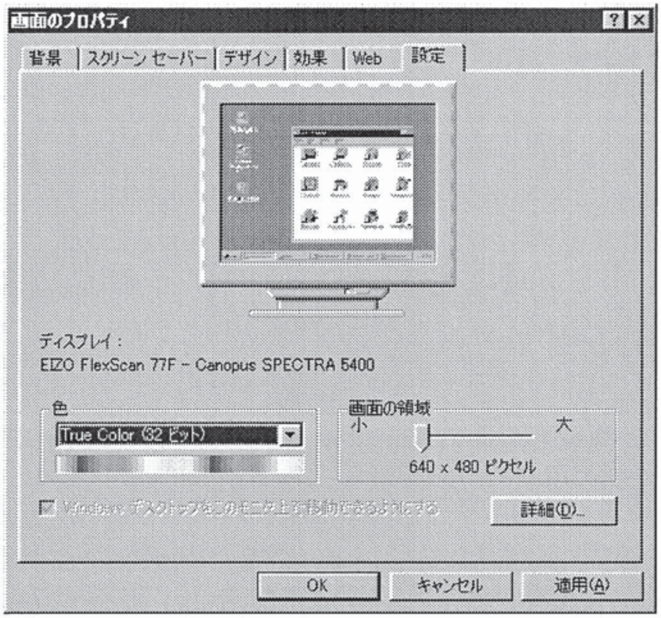
ここでは、アプリケーションを使用する前に知っておくとよい[ディスプレイの詳細]というタブについて説明をします。

購入したソフトウェアによっては、ごくまれにディスプレイの指定がある場合があります。たとえば「256色以上が表示可能なディスプレイ」や「640×480ドット以上のディスプレイ」などです。これらは現在、Windows95/98モデルのパソコン(一部のノートタイプを除く)では、そのほとんどがクリアされている条件ですが、この値がそのソフトウェアの性格上「24ビットカラー(フルカラー／17万色)」であったり「800×600ドット以上」が条件であったりする場合もあります。パソコンが、どの程度の条件をクリアできるかは、グラフィックスツールなどのソフトウェアを購入する前に知っておくと便利です。

[画像のプロパティ]ダイアログの[ディスプレイの詳細]を開いて見てください(前頁図)。[カラーパレット]の欄に現在[256色]が設定され、[デスクトップ領域]は[1152×864]が選択されています。この設定を変更してみましょう。



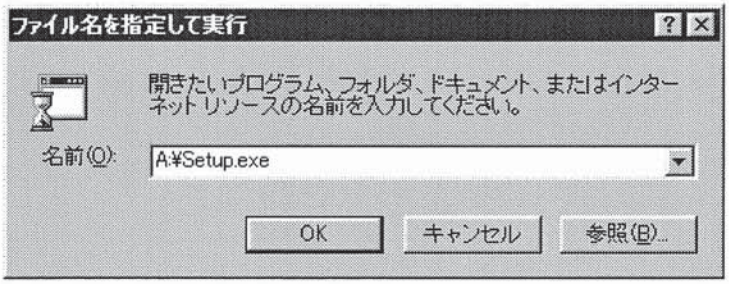
[カラーパレット]を[High Color(24ビット)]にしてみます。すると、[デスクトップ領域]は自動的に[800×600]に変更されます。さらに[True Color(32ビット)]に変更すると、[640×480]に変わってしまいます。
これは、色数(カラーパレット)に対して指定できる画面解像度(デスクトップ領域)が決まっていることを示します。したがってこのパソコンでは[True Color(32ビット)]を[800×600]または、[1024×768]ドットの画面には、表示できないことが分かります。



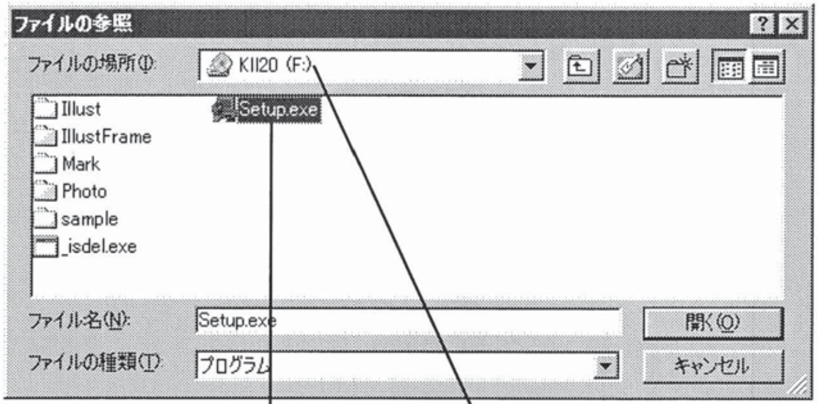
## 3 ファイル名を指定して実行

タスクバーの[スタート]ボタンをクリックするとスタートメニューが表示され、そこに[ファイル名を指定して実行]というメニューがあります。ここでは、この[ファイル名を指定して実行]メニューについて説明をします。
このメニューは、Windows3.1上ではアプリケーションをインストールするときに必ず使用するメニューでした。ところが、Windows95以降ではアプリケーションのインストール作業は、もっと簡単にわかりやすくできるよう工夫(オートラン機能など)されており、インストールの際、このメニューを使用しなくてもよいアプリケーションが多くなっています。しかし、インストール作業をお客様自身でしなくてはならないアプリケーションをインストールしようとする際には、このメニューを使用してインストールしなければなりません。それでは、このメニューを使用してインストールしてみましょう。

まず、インストールするアプリケーションのディスクを指定されたドライブ(3.5インチFDドライブやCD-ROMドライブ)にディスクにセットしてください。[スタート]ボタンをクリックして、スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。




上記のようなダイアログが表示されます。[参照]ボタンをクリックしてください。




このファイルを選択して、[開く]ボタンをクリックする。

インストールするディスクがセットされているドライブを選択する

上図の[ファイルの参照]ダイアログの[ファイルの場所]で、インストールしたいディスクがセットされているドライブを選択し、その中のファイル[setup.exe]または[install.exe](アプリケーションによって異なります)などを選択し、[開く]ボタンをクリックします。
[ファイル名を指定して実行]ダイアログに戻ったら、[OK]ボタンをクリックします。
アプリケーションの専用インストーラーが起動します。

このメニューは、インストール時に使用するだけでなく、このメニューからアプリケーションを起動する、データファイルを指定することで、そのデータを作成したアプリケーションが起動し、ファイルの内容が表示される(ファイルとアプリケーションが関連づけされていることが条件)など、Windows上のファイルをこのメニューから起動または開くことができます。

## 4 ファイル形式

Windows上には様々な形式のファイルが存在しています。ファイル形式はそのファイル名の末尾に「.exe」などのように3文字のアルファベット(ピリオドをいれると4文字)で表示され、この3文字を拡張子と呼びます。大量にあるファイル形式のすべてを知る必要はありませんが、アプリケーションを使用していく上で頻繁に聞かれるファイル形式について説明します。

●テキスト形式(.TXT)

Windows上での最も基本的な文書ファイルの形式です。Windowsのアクセサリ[ワードパッド]や[メモ帳]で作成できるファイルです。また、MS-WORDや一太郎でもこの形式に保存できます。主に異なるアプリケーション間での文書データの受け渡しによく使用される形式です。

●ビットマップ形式(.BMP)

Windows上で画像データを扱う時に、最も汎用的な画像ファイル形式です。Windowsのアクセサリ[ペイント]で簡単に作成できるファイルで、多くのレイアウトソフトやペイントソフト(グラフィックソフト)ではもちろん、ワープロソフトや表計算ソフトなど画像データが貼り付けられるアプリケーションではほとんどがこの形式をサポートしています。

●ウインドウズメタファイル形式(.WMF)

ビットマップ形式のデータに続きWindows上では汎用的な画像ファイル形式です。ビットマップに比べ、ファイルサイズが小さいことや、拡大・縮小時にギザギザ(ジャギー)がでないことなど、さまざまな利点があります。最近ではレイアウトソフトや、グラフィックソフトなどに搭載されているイラストデータなども、この形式のものが多く見られるようになりました。

●Graphic Interchange Format (.GIF)

Compuserve社で開発された画像形式です。1600万色中256色の画像データが格納できます。最近では、インターネットホームページでのサムネイル画像(小さい画像)としてよく利用されています。

●Joint Photographic Experts Group (.JPGあるいは.JPEG)
Joint Photographic Experts Groupによって開発された画像形式です。写真イメージを格納するのに最適といわれており、最近ではインターネットホームページの大きな画像の格納形式としてよく利用されています。

●Tag Image File Format (.TIF)
Aldus社で開発された画像形式です。非常に柔軟性のある画像形式です。反面、そのフォーマットには互換性のないものも存在します。

●ウインドウズ拡張メタファイル形式(.EMF)
WMFの欠点を解消した画像形式です。これも、WMFと同様にWindows上でのみ利用することの出来る形式です。

●ウインドウズアイコン形式(.ICO)
Windowsのアイコン画像を格納する形式です。

●各アプリケーションの独自形式
他のアプリケーションで作成されたファイルと混同しないように、個々のアプリケーションは必ず、独自のファイル形式を持っています。そのファイルは、ほとんどの場合そのアプリケーション上でないと開くことができません。



## 5 おわりに

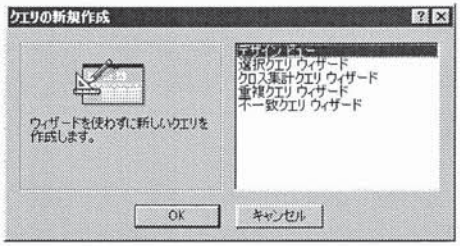
この章では、アプリケーションソフトを使用していく上でWindowsの知ってほしい点を抜粋して説明してきました。この章でのWindowsの説明は、私どもが自社製品側から見た使用方法を書いたものです。Windowsにはまだたくさんの機能や使用方法があります。Windowsの機能を、より詳しく知りたい場合は、Windowsのマニュアルをご覧ください。

# 付録B Microsoft ACCESSを利用したSQLの作成

もし、お客様がMicrosoft Accessなどをお使いならば、Microsoft Accessのウィザード機能などを使って比較的簡単にSQL文を作成することができます。その方法を以下に説明します。

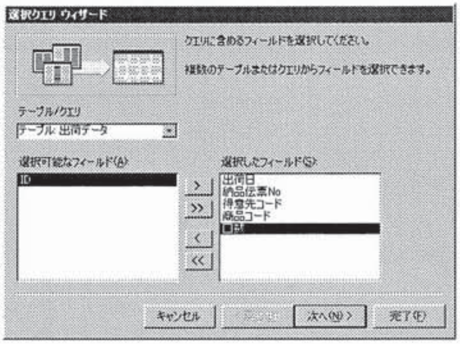


**1** まず、Microsoft Accessを起動し、クエリーを新規に作成します。このとき、次のような質問が表示されます。

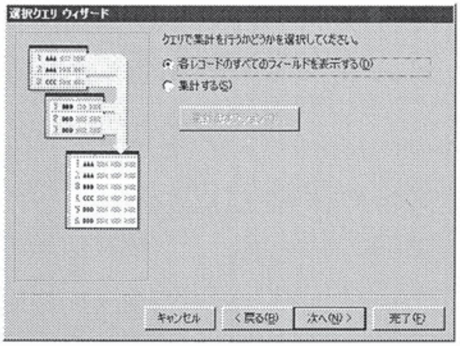



**2** ここで、右側のリストで[デザインビュー]以外を選択して[OK]ボタンをクリックすると、次々に質問が表示され、それに答えていくと比較的簡単にクエリーが作成できます。
たとえばここで[選択ｸｴﾘｰｳｨｻﾞｰﾄﾞ]を選択して[OK]ボタンをクリックします。

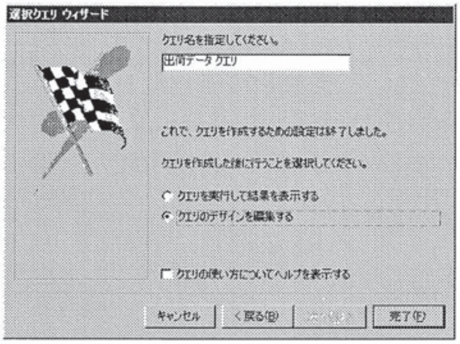
**3** ここでまず最初に、ラベル印刷に必要な項目（差込印刷する項目）を選びます。そして、[次へ]ボタンをクリックします。
この例ではレコードを識別する番号の入った項目[ID]以外はすべて選択しています。



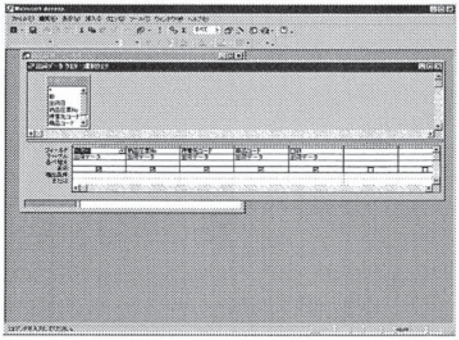
**4** ここでは、抽出した結果を集計するか、しないかの選択ができます。ここでは、[各レコードのすべてのフィールドを表示する]を選択して、[次へ]ボタンをクリックします。



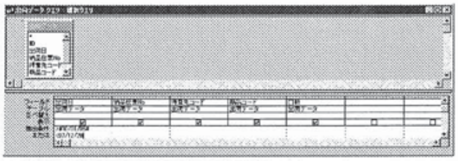

**5** ここでは、いったん自動作成されたクエリーを保存します。引き続きクエリーの編集を行うので、[クエリーのデザインを編集する]を選んで、[完了]ボタンをクリックして下さい。また、ここで[クエリーの使い方についてヘルプを表示する]をチェックしておくと、次のクエリーの編集画面でクエリーの作成方法の解説が表示されますので便利です。




**6** このように、クエリー編集画面が表示されます。

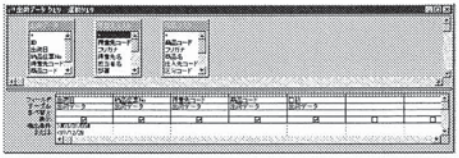


**7** ここで、たとえば次のように抽出条件を入力します。



1. 出荷日の抽出条件に“>00/01/05”を入力し、その下に“<97/12/28”を入力します。
2. さらに、得意先マスタテーブルと、商品マスタテーブルをこのクエリーに結合し、得意先コードから得意先名と店舗名、商品コードから商品名と型番を取得するようにします。
3. 画面上半分の灰色の領域で右クリックします。ポップアップメニューが表示されますので、ここから[テーブルの表示]を選びます。
   すると、ほかのテーブルが表示されますので、その中から[得意先マスタ]と[商品マスタ]を選んで、[追加]ボタンをクリックします。

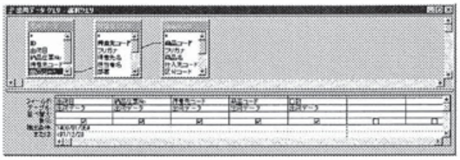
**8** このように、商品マスタと得意先マスタが表示されます。



**9** 得意先コードから得意先名と店舗名、商品コードから商品名と型番を取得できるようにするために、次のように項目結合操作を行います。

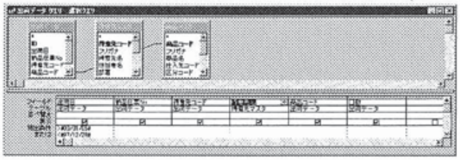
1. 出荷データ項目リストの商品コードの上にマウスを移動します。
2. マウス左ボタンを押したまま、商品マスタの商品コードの上にマウスを移動させ、ここでマウス左ボタンを離します。

**10** すると、この2つの項目の間を結ぶ線が表示されます。これは項目が結合されていることを示します。
これで、テーブルが結合されました。



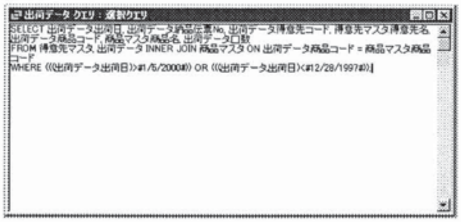
**11** 次に、ラベルに差し込むために、得意先マスタと商品マスタから項目を取り出します。まず、得意先マスタの得意先名の上にマウスを移動させ、ここでマウス左ボタンを押します。そのまま画面下半分の商品コードの列の上にマウスを移動させ、左ボタンを離します。

**12** すると、右のように得意先名が挿入されます。
同様の操作で次の項目も挿入します。
・商品マスタの商品名



これで、クエリーが作成できました。

**13** ここで、メニューから< 表示> -<SQLﾋﾞｭｰ>を選択してください。このクエリーを構成するSQL文が表示されます。

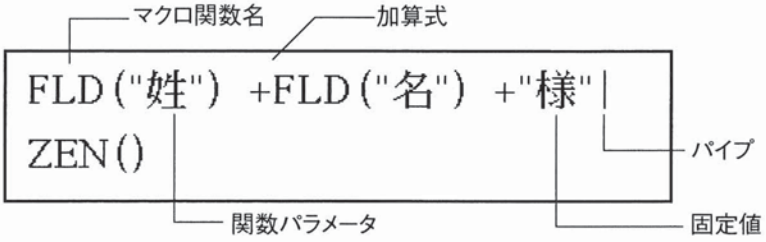



**14** そして、[SELECT]の「S」の部分にマウスを移動させ、ここで左ボタンを押したままこのウィンドウの右下に移動させます。すると、すべての文字が反転表示されます。ここで、[CTRL]+[C]を押して下さい。このSQL文がクリップボードにコピーされます。

**15** 必要ならばこのクエリーを上書き保存し、Microsoft Accessを終了させます。「ラベルPro-1」に戻り、SQL文を記入する領域にカーソルを移動して、[CTRL]+[V]を押します。すると、先ほど作成したSQL文がコピーされます。

# 付録C マクロ作成（マクロ式）

マクロ式は基本的に次のような構文になっています。




## 1 パイプ

パイプはマクロ関数や固定値、これらを加算式で結合した結果を区切り、その結果を次の処理に受け渡す役割をもっています。

上記の例では、1行目「FLD("姓")+FLD("名")+"様"」は「姓」フィールドと「名」フィールドの値を結合し、さらに末尾に「様」を付けています。2目「ZEN()」は値を全角にするマクロ関数です。この2行の異なる処理をつなげるために、1行目の末尾に「｜」（パイプ）が入力されています。こうすると、1行目で処理された結果（「出力値」という）を2行目では処理の対象となる値（「入力値」という）として受け取り、さらに結果（出力値）を出力します。

このように、一連の処理の出力値を次の処理の入力値として次々に受け渡してゆくことで、様々な処理を組み合わせて使うことができます。

たとえば、上の例に記載されているマクロで、次のデータがフィールドに入力されていると、次のような結果を得ることができます。

| | | |
|---|---|---|
| 「姓」フィールドの値 | ： | “ﾊｾｶﾞﾜ” |
| 「名」フィールドの値 | ： | “ｶｽﾞﾋﾛ” |
| 1行目の出力値 | ： | “ﾊｾｶﾞﾜｶｽﾞﾋﾛ様” |
| 2行目の出力値 | ： | “ハセガワカズヒロ様” |

このように、パイプにより次々に出力値を受け渡し、最後の行の出力値がそのマクロ結果となります。

## 2 加算式

加算式（「+」または「&」）は、マクロ関数の結果、固定値を連結するためのものです。
「+」を使うと単純にマクロ関数の結果、固定値を結合します。「&」を使うと、マクロ関数の結果、固定値を複数行に展開します。

例 1）
FLD("姓")+FLD("名") ・・・・・・・・・・ "ﾊｾｶﾞﾜ"+"ｶｽﾞﾋﾛ"
→ "ﾊｾｶﾞﾜｶｽﾞﾋﾛ"

例 2）
FLD("住所 1")&FLD("住所 2") ・・・ "東京都練馬区"&"光が丘1-2-3"
→ "東京都練馬区"（一行目）
"光が丘 1-2-3"（二行目）

## 3 固定値

「"」で囲むことで、任意の文字を指定できます。

例） "様"、"御中"、"〒"

## 4 マクロ関数

下記のマクロ関数が使用できます。

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| FLD("文字列") | 文字列で示された名前のフィールドの値を取得して出力する。なお入力値はは無視される。 |
| LT(数値 1,数値 2) | 入力値から、任意の文字列を抽出し出力する。入力値の左から「数値1」桁目より、「数値2」文字分を抽出する。 |
| RT(数値 1,数値 2) | LTと同じだが、左からではなく、右から抽出する。 |

| 編集項目 | 編集内容 |
|---|---|
| ZIP7("文字列") | 入力値を住所とし、「文字列」を5桁の郵便番号として参照し、7桁郵便番号を出力する。<br>なお「文字列」は""の指定が可能。 |
| XLD("文字列") | 入力値の中で「文字列」の中の文字に一致するものを除去した文字列を出力する。 |
| JPC("文字列") | 入力値を住所とし、「文字列」を5桁あるいは7桁の郵便番号として参照し、郵便局カスタマバーコードのバーコードデータを出力する。<br>なお「文字列」は""の指定が可能。 |
| ZEN() | 入力値すべてを対象に半角から全角に変換して出力する。 |
| REP("文字列1","文字列2") | 入力値すべてを対象に、「文字列1」に含まれる文字を「文字列2」に置き換えて出力する。 |
| EXT(数値) | 入力値から「数値」で示す行を取り出し、出力する。 |
| CAT() | 入力値が複数行の場合に1行にまとめて出力する。 |

なお、これらマクロ関数の文字列パラメータにはマクロ関数が使用できます。例えば、

```
FLD("住所")|
ZIP7(FLD("郵便番号")|XLD("-"))
```

のようにパラメータ内にパイプや加算式も使用できます。ただし出力値が複数行の場合は1目のみをパラメータの値とします。

# 付録D 画像ファイル一覧

## 付録D.1 マーク一覧

### ①荷送・その他

CEマーク.BMP

JISマーク.BMP

リサイクルマーク01.BMP

リサイクルマーク02.BMP

リサイクルマーク03.BMP

リサイクルマーク04.BMP

荷送表示01.BMP

荷送表示02.BMP

荷送表示03.BMP

荷送表示04.BMP

荷送表示05.BMP

荷送表示06.BMP

荷送表示07.BMP

荷送表示08.BMP

荷送表示09.BMP

荷送表示10.BMP

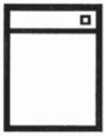
荷送表示11.BMP

荷送表示12.BMP

荷送表示13.BMP

荷送表示14.BMP

甲種電気用品マーク.BMP


洗濯表示01.BMP

洗濯表示02.BMP

洗濯表示03.BMP

洗濯表示04.BMP

洗濯表示05.BMP

洗濯表示06.BMP

洗濯表示07.BMP

洗濯表示08.BMP

洗濯表示09.BMP

## ②環境サイン

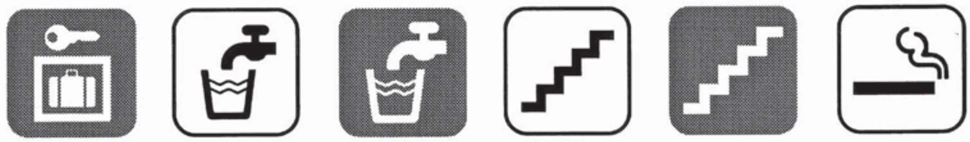
エスカレーター01.BMP エスカレーター02.BMP エレベーター01.BMP エレベーター02.BMP クローク01.BMP クローク02.BMP

クロスマーク01.BMP クロスマーク02.BMP ゴミ箱マーク01.BMP ゴミ箱マーク02.BMP トイレ女性01.BMP トイレ女性02.BMP

トイレ女性03.BMP トイレ男女01.BMP トイレ男女02.BMP トイレ男性01.BMP トイレ男性02.BMP トイレ男性03.BMP

パーキング01.BMP パーキング02.BMP パーキング03.BMP メール01.BMP メール02.BMP レストルーム01.BMP

レストルーム02.BMP レストルーム03.BMP レストルーム04.BMP レストルーム05.BMP レストルーム06.BMP ロッカー01.BMP



ロッカー02.BMP 飲料水マーク01.BMP 飲料水マーク02.BMP 階段01.BMP 階段02.BMP 喫煙マーク01.BMP

喫煙マーク02.BMP 救急01.BMP 救急02.BMP 消化器01.BMP 消化器02.BMP 障害者マーク01.BMP

障害者マーク02.BMP　赤ちゃんマーク01.BMP　赤ちゃんマーク02.BMP　電話マーク01.BMP　電話マーク02.BMP　非常口マーク01.BMP

非常口マーク02.BMP

## ③警告・注意マーク

A_レーザー注意.BMP　A_一般.BMP　A_化学注意.BMP　A_回転物注意.BMP　A_巻込注意.BMP　A_感電注意.BMP

A_高温注意.BMP　A_指を挟まれないよう注意.BMP　A_注意.BMP　A_毒物注意.BMP　A_破裂注意.BMP　A_発火注意.BMP

A_腐食注意.BMP　A_放射線注意.BMP　B_ペット禁止.BMP　B_火気及び喫煙禁止.BMP　B_喫煙禁止.BMP　B_禁止.BMP

B_消化手段水使用禁止.BMP　B_接触禁止.BMP　B_分解禁止.BMP　B_立入禁止.BMP　C_ガスマスクの着用.BMP　C_義務行動一般.BMP

C_手袋の着用.BMP　C_聴覚保護具の着用.BMP　C_長靴の着用.BMP　C_電源プラグをコンセントから抜け.BMP　C_保護めがねの着用.BMP　保護帽の着用.BMP

D_警告表示マーク01.BMP

D_警告表示マーク02.BMP

D_警告表示マーク03.BMP

D_警告表示マーク04.BMP

D_警告表示マーク05.BMP

D_警告表示マーク06.BMP

D_警告表示マーク07.BMP

D_警告表示マーク08.BMP

D_警告表示マーク09.BMP

D_警告表示マーク10.BMP

D_警告表示マーク11.BMP

D_警告表示マーク12.BMP

D_警告表示マーク13.BMP

D_警告表示マーク14.BMP

D_警告表示マーク15.BMP

D_警告表示マーク16.BMP

D_警告表示マーク17.BMP

D_警告表示マーク18.BMP

D_警告表示マーク19.BMP

D_警告表示マーク20.BMP

D_警告表示マーク21.BMP

D_警告表示マーク22.BMP

D_警告表示マーク23.BMP

D_警告表示マーク24.BMP

D_警告表示マーク25.BMP

## ④整理用マーク

BUSI01.BMP

BUSI02.BMP

BUSI03.BMP

BUSI04.BMP

BUSI05.BMP

BUSI06.BMP

BUSI07.BMP

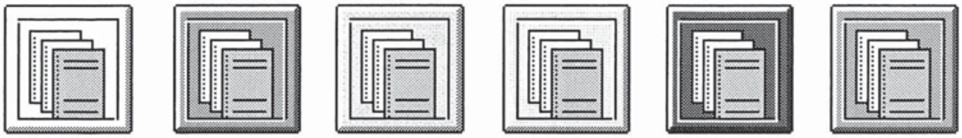
BUSI08.BMP

BUSI09.BMP

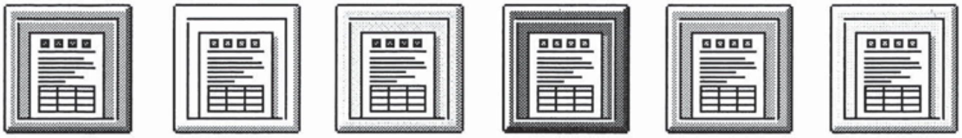
BUSI10.BMP

BUSI11.BMP

BUSI12.BMP



BUSI13.BMP BUSI14.BMP BUSI15.BMP BUSI16.BMP BUSI17.BMP BUSI18.BMP

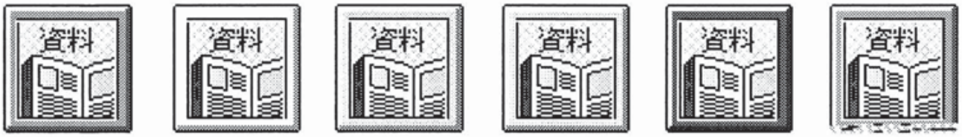


BUSI19.BMP BUSI20.BMP BUSI21.BMP BUSI22.BMP BUSI23.BMP BUSI24.BMP

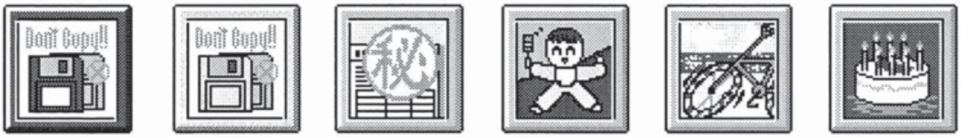
BUSI25.BMP BUSI26.BMP BUSI27.BMP BUSI28.BMP BUSI29.BMP BUSI30.BMP

BUSI31.BMP BUSI32.BMP BUSI33.BMP BUSI34.BMP BUSI35.BMP BUSI36.BMP

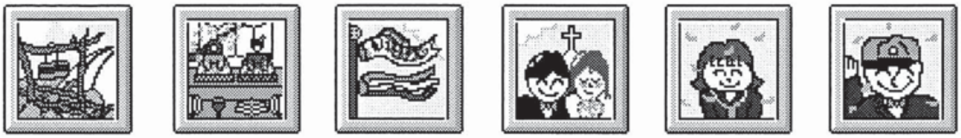
BUSI37.BMP BUSI38.BMP BUSI39.BMP BUSI40.BMP BUSI41.BMP BUSI42.BMP



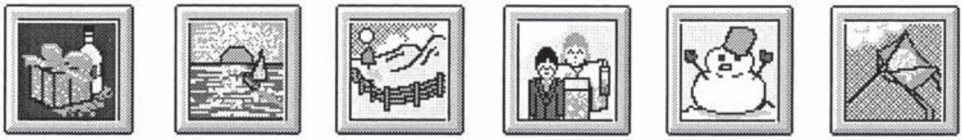

BUSI43.BMP BUSI44.BMP BUSI45.BMP BUSI46.BMP BUSI47.BMP BUSI48.BMP




BUSI49.BMP BUSI50.BMP BUSI51.BMP EVENT01.BMP EVENT02.BMP EVENT03.BMP

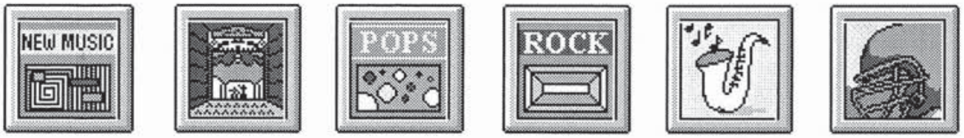


EVENT04.BMP EVENT05.BMP EVENT06.BMP EVENT07.BMP EVENT08.BMP EVENT09.BMP

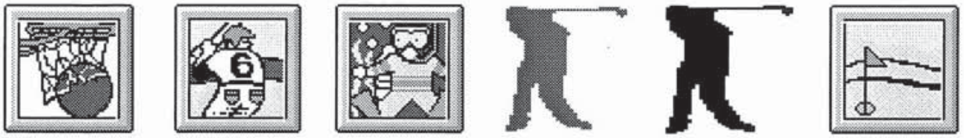


EVENT10.BMP EVENT11.BMP EVENT12.BMP EVENT13.BMP EVENT14.BMP EVENT15.BMP

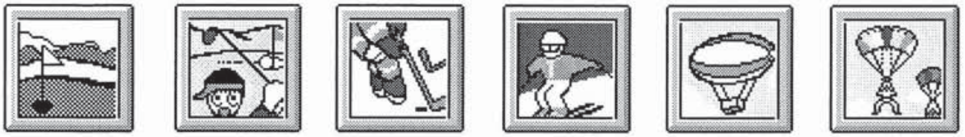
EVENT16.BMP EVENT17.BMP EVENT18.BMP EVENT19.BMP MUSIC01.BMP MUSIC02.BMP




MUSIC03.BMP MUSIC04.BMP MUSIC05.BMP MUSIC06.BMP MUSIC07.BMP SPORT01.BMP



SPORT02.BMP SPORT03.BMP SPORT04.BMP SPORT05.BMP SPORT06.BMP SPORT07.BMP



SPORT08.BMP SPORT09.BMP SPORT10.BMP SPORT11.BMP SPORT12.BMP SPORT13.BMP

SPORT14.BMP SPORT15.BMP SPORT16.BMP SPORT17.BMP

## ⑤通信・郵便

#マーク.BMP ＊マーク.BMP faxマーク01.BMP faxマーク02.BMP telマーク01.BMP telマーク02.BMP

tlxマーク01.BMP

tlxマーク02.BMP

電波マーク01.BMP

電波マーク02.BMP

電波マーク03.BMP

電波マーク04.BMP

電話マーク01.BMP

電話マーク02.BMP

電話マーク03.BMP

電話マーク04.BMP

封筒マーク01.BMP

封筒マーク02.BMP

郵便マーク01.BMP

郵便マーク02.BMP

# 付録D.2 アイキャッチ一覧

## ①Sale

Eye_001.wmf

Eye_002.wmf

Eye_003.wmf

Eye_004.wmf

Eye_005.wmf

Eye_006.wmf

Eye_007.wmf

Eye_008.wmf

Eye_009.wmf

Eye_010.wmf

Eye_011.wmf

Eye_012.wmf

Eye_013.wmf

Eye_014.wmf

Eye_015.wmf

Eye_016.wmf

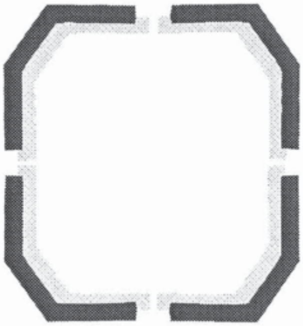
Eye_017.wmf

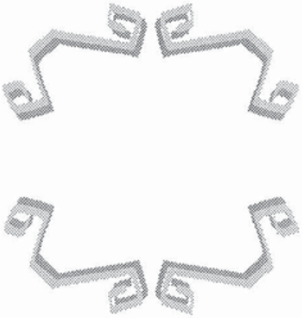
Eye_018.wmf

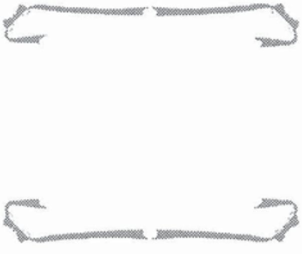
Eye_019.wmf

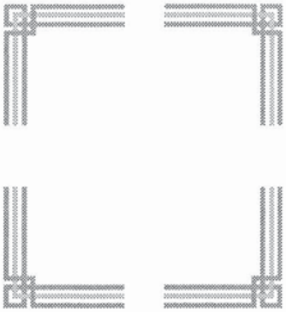
Eye_020.wmf

## ②コーナー

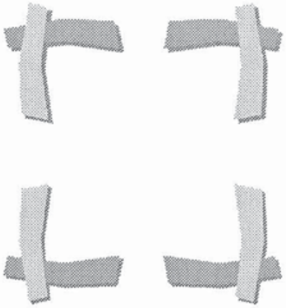

K_001a~d.wmf


K_002a~d.wmf


K_003a~d.wmf

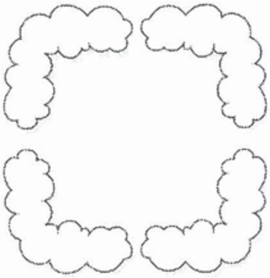


K_004a~d.wmf

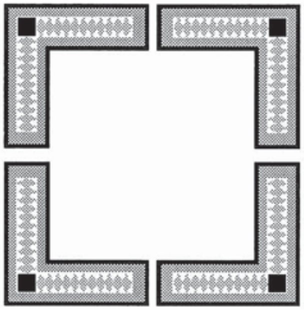


K_005a~d.wmf

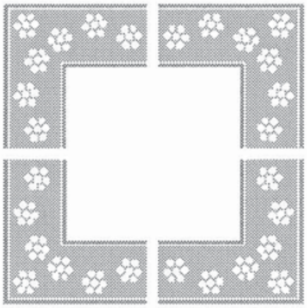
K_006a~d.wmf



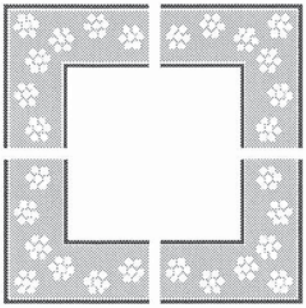
K_007a~d.wmf



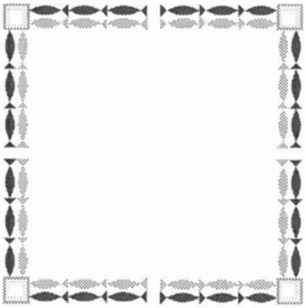
K_008a~d.wmf



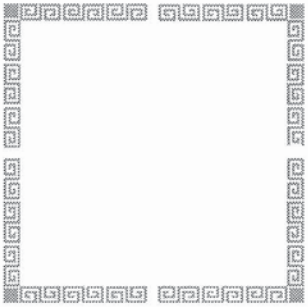
K_009a~d.wmf



K_010a~d.wmf



K_011a~d.wmf



K_012a~d.wmf

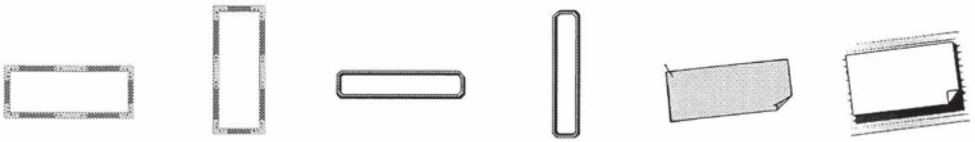
③ファンシー

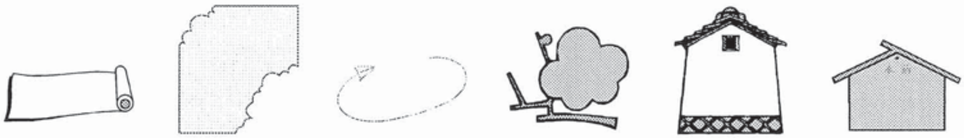
F_001.wmf F_002.wmf F_003.wmf F_004.wmf F_005.wmf F_006.wmf

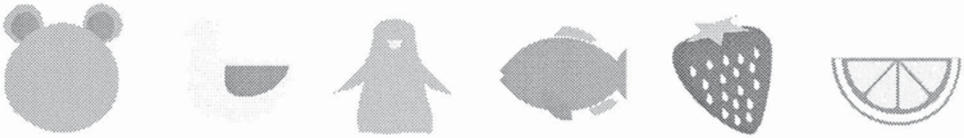
F_007.wmf F_008.wmf F_009.wmf F_010.wmf F_011.wmf F_012.wmf

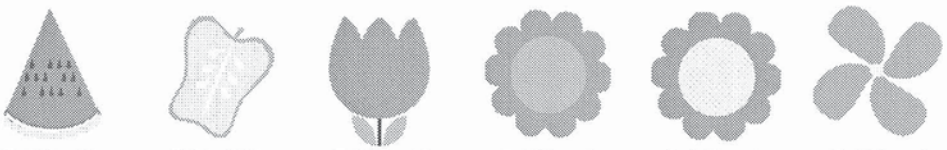
F_013.wmf F_014.wmf F_015.wmf F_016.wmf F_017.wmf F_018.wmf

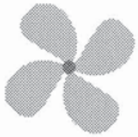
F_019.wmf F_020.wmf F_021.wmf F_022.wmf F_023.wmf F_024.wmf


F_025.wmf F_026.wmf F_027.wmf F_028.wmf F_029.wmf F_030.wmf


F_031.wmf F_032.wmf F_033.wmf F_034.wmf F_035.wmf F_036.wmf


F_037.wmf F_038.wmf F_039.wmf F_040.wmf F_041.wmf F_042.wmf


F_043.wmf F_044.wmf F_045.wmf F_046.wmf F_047.wmf F_048.wmf


F_049.wmf

F_050.wmf

## ④記号・枠

Cth_001.wmf

Cth_002.wmf

Cth_003.wmf

Cth_004.wmf

Cth_005.wmf

Cth_006.wmf

Cth_007.wmf

Cth_008.wmf

Cth_009.wmf

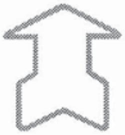
Cth_010.wmf

Cth_011.wmf

Cth_012.wmf

Cth_013.wmf

Cth_014.wmf


Cth_015.wmf

Cth_016.wmf

Cth_017.wmf

Cth_018.wmf

Cth_019.wmf

Cth_020.wmf

Cth_021.wmf

Cth_022.wmf

Cth_023.wmf

Cth_024.wmf

Cth_025.wmf

Cth_026.wmf

Cth_027.wmf

Cth_028.wmf

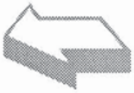
Cth_029.wmf

Cth_030.wmf

Cth_031.wmf

Cth_032.wmf

Cth_033.wmf

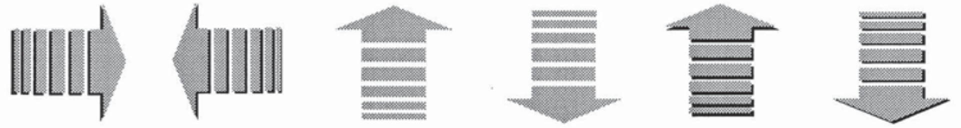

Cth_034.wmf

Cth_035.wmf

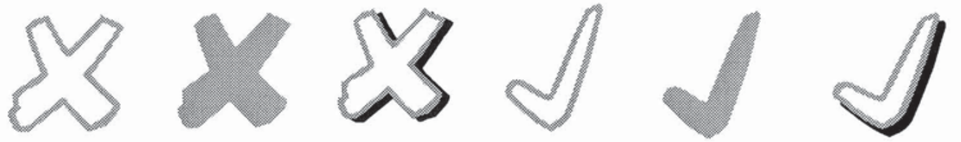
Cth_036.wmf

Cth_037.wmf Cth_038.wmf Cth_039.wmf Cth_040.wmf Cth_041.wmf Cth_042.wmf

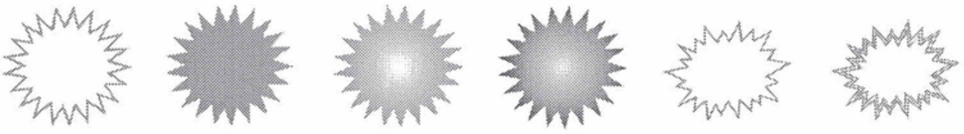
Cth_043.wmf Cth_044.wmf Cth_045.wmf Cth_046.wmf Cth_047.wmf Cth_048.wmf



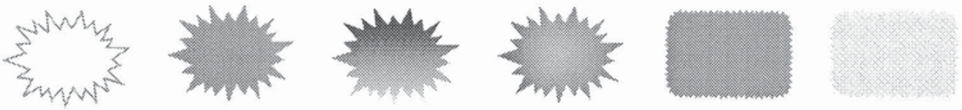
Cth_049.wmf Cth_050.wmf Cth_051.wmf Cth_052.wmf Cth_053.wmf Cth_054.wmf



Cth_055.wmf Cth_056.wmf Cth_057.wmf Cth_058.wmf Cth_059.wmf Cth_060.wmf



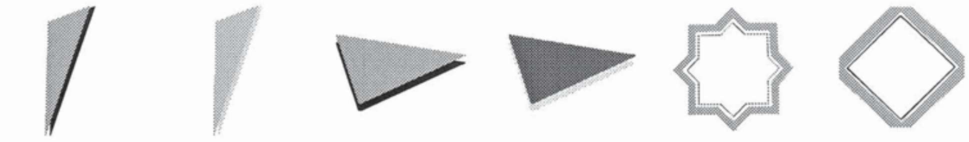
Cth_061.wmf Cth_062.wmf Cth_063.wmf Cth_064.wmf Cth_065.wmf Cth_066.wmf



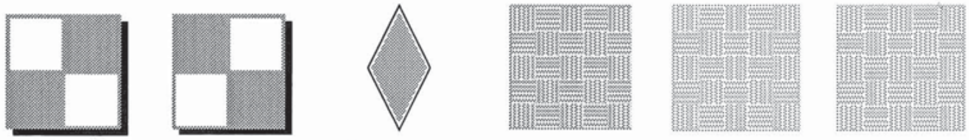
Cth_067.wmf Cth_068.wmf Cth_069.wmf Cth_070.wmf Cth_071.wmf Cth_072.wmf

Cth_073.wmf Cth_074.wmf Cth_075.wmf Cth_076.wmf Cth_077.wmf Cth_078.wmf

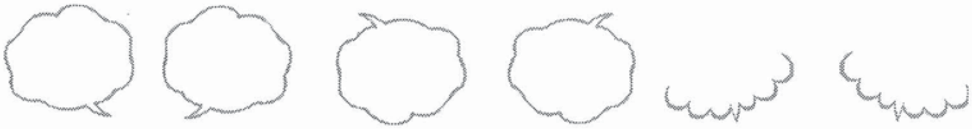
Cth_079.wmf Cth_080.wmf Cth_081.wmf Cth_082.wmf Cth_083.wmf Cth_084.wmf



Cth_085.wmf Cth_086.wmf Cth_087.wmf Cth_088.wmf Cth_089.wmf Cth_090.wmf

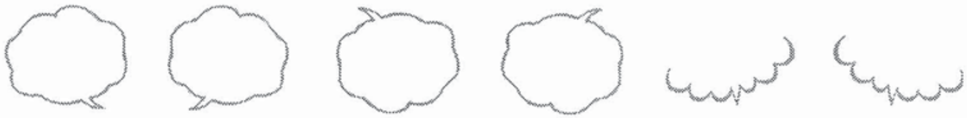


Cth_091.wmf Cth_092.wmf Cth_093.wmf Cth_094.wmf Cth_095.wmf Cth_096.wmf



Cth_097.wmf Cth_098.wmf Cth_099.wmf Cth_100.wmf Cth_101.wmf Cth_102.wmf

Cth_103.wmf Cth_104.wmf Cth_105.wmf Cth_106.wmf Cth_107.wmf Cth_108.wmf



Cth_109.wmf Cth_110.wmf Cth_111.wmf Cth_112.wmf Cth_113.wmf Cth_114.wmf

Cth_115.wmf Cth_116.wmf Cth_117.wmf Cth_118.wmf Cth_119.wmf Cth_120.wmf

## ⑤筆

Fude_001.wmf Fude_002.wmf Fude_003.wmf Fude_004.wmf Fude_005.wmf Fude_006.wmf

Fude_007.wmf

Fude_008.wmf

Fude_009.wmf

Fude_010.wmf

Fude_011.wmf

Fude_012.wmf

Fude_013.wmf

Fude_014.wmf

Fude_015.wmf

Fude_016.wmf

Fude_017.wmf

Fude_018.wmf

Fude_019.wmf

Fude_020.wmf

Fude_021.wmf

Fude_022.wmf

Fude_023.wmf

Fude_024.wmf

Fude_025.wmf

Fude_026.wmf

Fude_027.wmf

Fude_028.wmf

Fude_029.wmf

Fude_030.wmf

Fude_031.wmf

Fude_032.wmf

Fude_033.wmf

Fude_034.wmf

Fude_035.wmf

Fude_036.wmf

Fude_037.wmf

Fude_038.wmf

Fude_039.wmf

Fude_040.wmf

For Windows

# ラベル Pro-1

ラベルプロ−1

カラーラベルプリンタ対応　ラベル作成ソフトウエア

## USER'S MANUAL

開発元　キヤノンファインテック株式会社

販売元　キヤノンマーケティングジャパン株式会社

ご注意

■本製品および本書の全部、または一部を無断で複写、複製、転載、改変することは禁止されています。
■本製品および本書は改良のため予告なく変更される場合があります。
■本製品を運用した結果につきましては、上記にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
■Canon、Canonロゴは、キヤノン株式会社の登録商標です。
■Microsoft、Windows、Windows Vista、MS-DOSは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
■その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

© CANON FINETECH INC. 2010

Pub No.4Y1-8255-050